

高根沢町学校規模適正化検討委員会 会議資料
～学校の適正規模・適正配置等検討のための基礎資料～

(抜 粋 版)

高根沢町教育委員会事務局学校教育課

令和3年10月

目次（抜粋部分）

第1章 資料作成の趣旨・学校概要.....	1
1 資料作成の趣旨.....	1
2 学校教育の概要.....	1
第2章 学校の現状等.....	15
1 人口・児童生徒数の推移（実績）.....	15
2 学校規模の状況.....	21
3 児童生徒数・学級数の推計.....	32
4 学校の通学区域（学区）、通学手段.....	59
5 各学校の施設の状況.....	66
6 高根沢町の学校教育の特色.....	74

第1章 資料作成の趣旨・学校概要

1 資料作成の趣旨

(1) 基礎資料作成の目的

本資料は、長期的に予想される町立小・中学校の児童生徒数の減少に対応し、よりよい教育環境の実現を目指して、学校の適正規模・適正配置等を検討するための基礎データ等を取りまとめたものです。

(2) 対象施設（8校）

町立小・中学校 8校	小学校 6校		中学校 2校	
	阿久津小学校		阿久津中学校	
	中央小学校		北高根沢中学校	
	東小学校			
	上高根沢小学校			
	北小学校			
	西小学校			

2 学校教育の概要

(1) 小・中学校の主な沿革

高根沢町（以下「本町」という。）の小・中学校は、明治5年に学制が布告され、全国に小学校の創立が始まって間もなく、明治6年に上高根沢小学校（当時は上高根沢村）が開校しました。以来、数度の町村合併に伴い、小・中学校の新設や統合を進めてきました。

近年は、平成6年、住宅開発による人口増加を受け、阿久津小学校の分離校として、光陽台、宝石台を通学区域とする西小を開校しました。平成23年、児童数の減少を受け、上高根沢小学校を通学区域外から児童が入学できる「小規模特認校」に指定しました。平成30年、施設の老朽化を踏まえ、東小の新校舎を北高根沢中学校敷地内に整備（移転）し、町内初の施設併設型小中一貫校として開校しました。令和3年度現在、小学校6校、中学校2校となっています。

図表 小・中学校の主な沿革

年月	学校	沿革	当時の人口、学校数
明治6年 (1873)	上高根沢小学校	旧一橋陣屋を借りて開校 明治18年に現在地移転	
明治7年 (1874)	阿久津小学校	啓倫館として開校 昭和24年に現在地移転	
昭和22年 (1947)	阿久津中学校	新制阿久津中学校として開校	
	北高根沢中学校	新制北高根沢中学校として開校	

年月	学校	沿革	当時の人口、学校数
昭和 33 年 (1958)	高根沢町 誕生	4 月 1 日 町村合併により、全校を「高根沢町立」に校名変更	人口 21,479 人 (S35) 小学校 11 校、中学校 2 校
昭和 36 年 (1961)	北小学校	文挾小と (旧) 中央小学校東高谷分校を統合して開校 昭和 39 年に現在地移転	小学校 10 校、中学校 2 校
昭和 46 年 (1971)	東小学校	旧中央小、桑窪小、柏崎小、台新田小の 4 校を統合して開校	人口 20,662 人 (S45) 小学校 7 校、中学校 2 校
昭和 52 年 (1977)	中央小学校	石末小、大谷小、花岡小の 3 校を統合して開校	人口 21,859 人 (S50) 小学校 5 校、中学校 2 校
平成 6 年 (1994)	西小学校	阿久津小学校の分離校として開校	人口 27,785 人 (H7) 小学校 6 校、中学校 2 校
平成 23 年 (2011)	上高根沢小学校	平成 23 年より小規模特認校に指定	人口 30,436 人 (H22) 学校数は同上
平成 30 年 (2018)	東小学校	北高根沢中学校敷地内に新校舎を整備 (移転) し、町内初の施設併設型小中一貫校として開校	人口 29,656 人 (H27) 学校数は同上

人口は国勢調査

(2) 本町の目指す学校教育

本町は、令和3年6月に策定した「高根沢町教育大綱・教育振興基本計画」（計画期間は令和3年6月～令和8年3月）において、本町教育行政の基本理念を定めるとともに、学校教育・社会教育それぞれの基本理念・基本方針を定めました。

図表 教育行政の基本理念、学校教育・社会教育の基本理念・基本方針

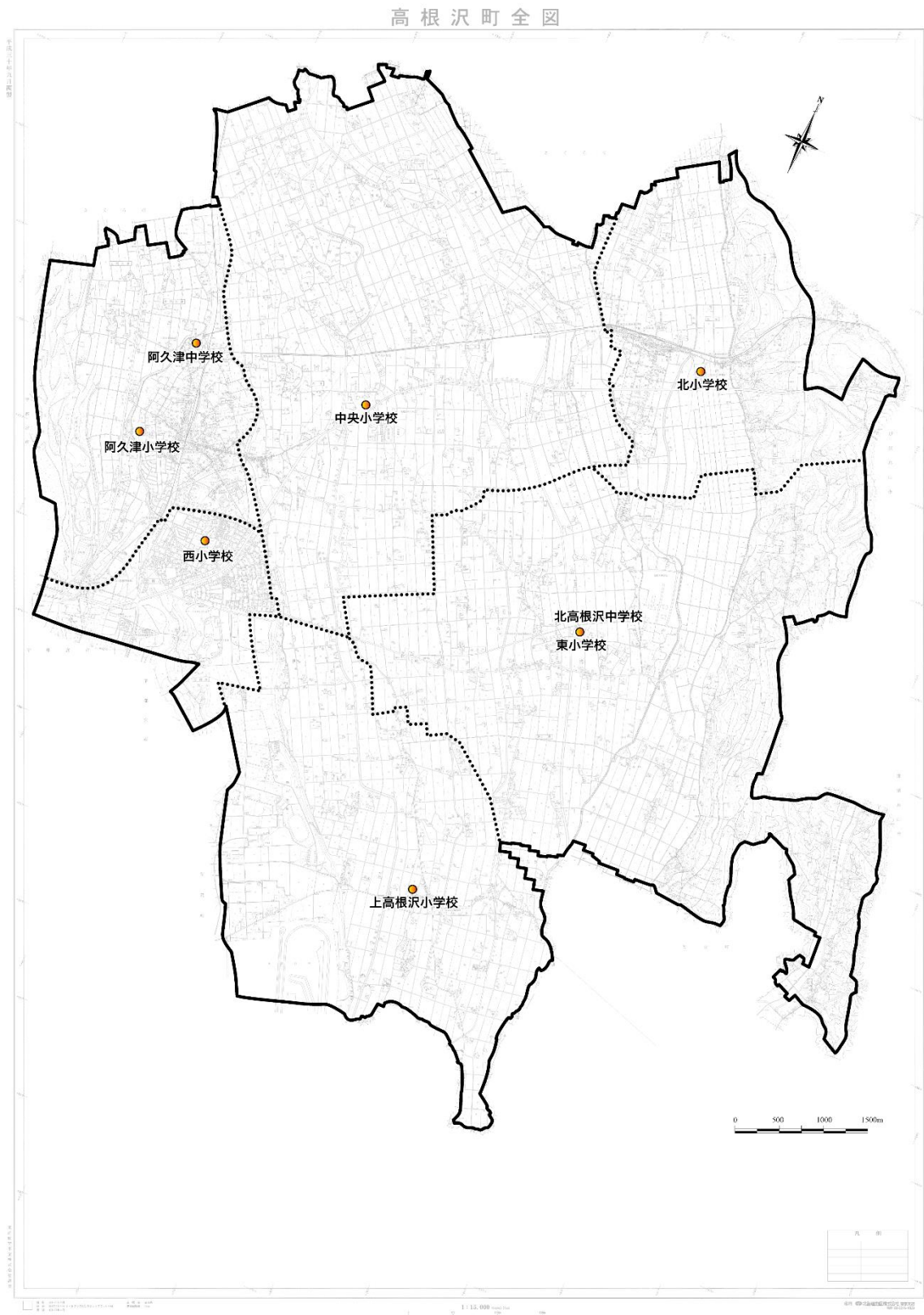
教育行政の基本理念	
人間尊重の精神を基盤として、明るく健康で、豊かな情操を備え、ふるさとの自然と文化を愛するとともに、心豊かでたくましく、未来を創造する多様な力を備えた町民を育てます	
学校教育	社会教育
基本理念 未来（あす）を創る力を備えた、ふるさと高根沢を愛する子どもを育てます	基本理念 <small>みらい</small> 未来につながる 人づくり まちづくり
基本方針 人間尊重の教育を基盤とし、ふるさとの愛情と誇りを持ち、社会の変化に主体的に対応できる、心豊かでたくましい“未来（あす）を創る子ども”を育成します	基本方針 (1) 学ぼう！活かそう！生涯学習 (2) スポーツを楽しもう！ (3) お互い認め合ってグッドパートナーに

高根沢町教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、令和3年6月に策定した「高根沢町学校教育基本計画」（計画期間は令和3年6月～令和8年3月）において、「高根沢町教育大綱・教育振興基本計画」で示された本町教育行政の基本理念及び学校教育の基本理念・基本方針を踏まえ、学校教育の基本的方向性と基本目標を次のように定めました。

図表 学校教育の基本的方向性・基本目標

学校教育の基本的方向性	
「小中一貫教育の推進」を高根沢町の学校教育の基盤とします	
学校教育の基本目標	
基本目標 1	自己肯定感・自己有用感を高め、学習意欲を向上させ、生きる力を育成します
基本目標 2	一人一人が安心して学べる環境・個別最適化された学びの機会を提供します

(3) 学校位置図

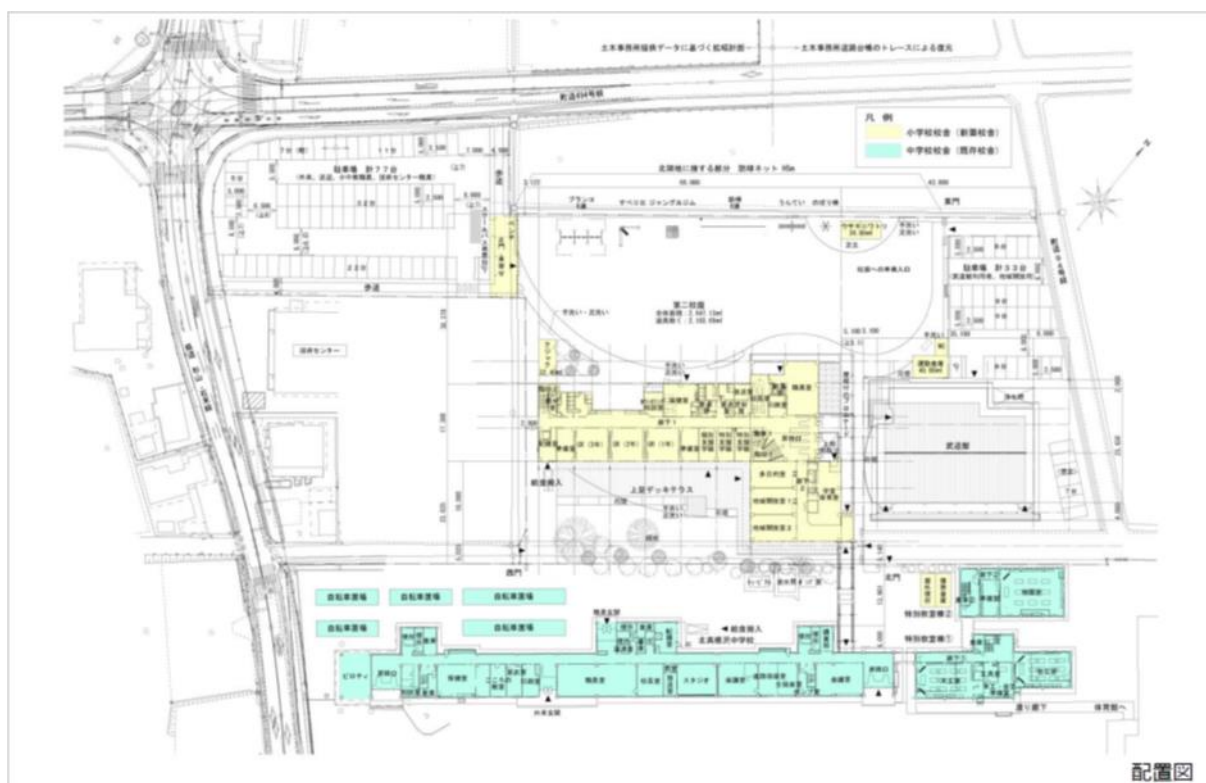


(4) 学校施設の概要

現在の小・中学校 8 校は、平成 6 年開校の西小学校を除き、創立 50 年～150 年近くの歴史を有しています。この間、児童生徒数の増加や教育内容の変化に対応するため、校舎や屋内運動場（体育館）等の改修、増改築、建替等を行ってきました。

直近では、東小学校の校舎が築 40 年以上を経過し、良好な学習環境の継続が困難になることから、平成 30 年度、北高根沢中学校の北側町有地（敷地内）に東小学校の校舎を新築し、併せて北高根沢中学校校舎の大規模改修を行い、施設併設型小中一貫校として開校しました。両校は体育館、プール、コンピュータールーム、校庭等を共有し、施設の有効利用と省スペース化を図っています。

図表 施設併設型小中一貫校（東小学校、北高根沢中学校）の施設配置



(5) 各学校の概要

小・中学校8校の概要、施設状況は次のとおりです（令和3年5月1日現在）。

①阿久津小学校

学校名	阿久津小学校	所在地	宝積寺 1178
児童生徒数	543 人（特別支援学級含む）	学級数	通常学級 18、特別支援学級 3
教育目標	確かな学力と豊かな人間性、健康と体力をバランスよく身に付け、自他の違いやよさを認め合い、共に協力してよりよく生きようとする児童を育成する。		
具体目標	よく学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子		
通学区域 (学区)	上阿久津、中阿久津、宝積寺（一部の大字で例外あり）		
主な沿革	明治7年啓倫館として開校、昭和24年現在地に移転 平成23年東日本大震災により校舎が被災したため、平成26年に校舎改築し現在に至る		

名 称	阿久津小学校		敷地面積	26,022 m ²
建物等	建築年月	構造	延床面積	築年数
校舎棟	平成 26（2014）年 3 月	鉄筋コンクリート造 2 階建	6,185 m ²	7
屋内運動場	昭和 54（1979）年 12 月	鉄骨造	1,355 m ²	41
プール	平成 28（2016）年 3 月		1,003 m ²	5
教室	普通教室	20	備考 耐震化工事：平成 21 年度完了（体育館）	
	特別教室	15		
	教材室	7		
	生徒会室等	23		
	空き教室	0		
職員室	面積	180.00 m ²		
	職員数	33 人		
	1 人当たり面積	5.5 m ²		
トイレ	和式	0		
	洋式	18		

②中央小学校

学校名	中央小学校	所在地	石末 2247-1
児童生徒数	157 人（特別支援学級含む）	学級数	通常学級 6、特別支援学級 1
教育目標	豊かな人間性と、自ら学ぶ意欲をもつ、心身ともに健康な子どもを育成する。		
具体目標	よく学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子		
通学区域 (学区)	花岡、石末、大谷、西高谷（一部の大字で例外あり）		
主な沿革	昭和 52 年 石末小、大谷小、花岡小の 3 校を統合して開校		

名 称	中央小学校		敷地面積	21,996 m ²
建物等	建築年月	構造	延床面積	築年数
校舎棟	昭和 52（1977）年 3 月	鉄筋コンクリート造 3 階建	3,567 m ²	44
屋内運動場	昭和 53（1978）年 9 月	鉄骨造	807 m ²	42
プール	昭和 49（1974）年 7 月		375 m ²	44
教室	普通教室	7	備考 耐震化工事：校舎は平成 18 年度、 体育館は平成 21 年度完了 外壁改修工事：平成 25 年度完了 空き教室は学習室	
	特別教室	13		
	教材室	0		
	生徒会室等	20		
	空き教室	3		
職員室	面積	101.25 m ²		
	職員数	13 人		
	1 人当たり面積	7.8 m ²		
トイレ	和式	10		
	洋式	2		

③東小学校

学校名	東小学校	所在地	太田 752
児童生徒数	93 人（特別支援学級含む）	学級数	通常学級 6、特別支援学級 1
教育目標	自らの未来を力強く切り拓いていく、知恵とたくましい心と体を育み、人間性豊かな児童を育成する。		
具体目標	自ら学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子		
通学区域 (学区)	栗ヶ島、寺渡戸、太田、桑窪、上柏崎、亀梨、中柏崎、下柏崎（一部の大字で例外あり）		
主な沿革	昭和46年 旧中央小、桑窪小、柏崎小、台新田小の4校を統合して開校 平成 30 年 新校舎竣工、現在地に移転（北高根沢中学校と施設併設型小中一貫校）		

名 称	東小学校		敷地面積	4,891.9 m ²
建物等	建築年月	構造	延床面積	築年数
校舎棟	平成 30（2018）年 7 月	鉄筋コンクリート造 2 階建	2,290 m ²	2
屋内運動場	北高根沢中と共有			
プール	北高根沢中と共有			
教室	普通教室	8	備考 平成 30 年度に校舎新築、北高根沢中学校との施設併設型小中一貫校となる 空き教室は算数ルーム	
	特別教室	6		
	教材室	3		
	生徒会室等	17		
	空き教室	1		
職員室	面積	97.50 m ²		
	職員数	12 人		
	1 人当たり面積	8.1 m ²		
トイレ	和式	0		
	洋式	10		

④上高根沢小学校

学校名	上高根沢小学校	所在地	上高根沢 2080
児童生徒数	81 人（小規模特認校制度利用者 37 人含む）	学級数	通常学級 5、特別支援学級 0
教育目標	大きな夢（大志）を抱き、自分の未来を切り拓いていける子どもを育成する。		
具体目標	自ら学ぶ子 感謝する子 たくましい子		
通学区域 （学区）	上高根沢、町内全域（小規模特認校制度）		
主な沿革	明治6年 旧一橋陣屋を借りて開校、明治18年に現在地に移転 平成 23 年度から小規模特認校に指定		

名 称	上高根沢小学校		敷地面積	16,892 m ²
建物等	建築年月	構造	延床面積	築年数
校舎棟	昭和 57（1982）年 3 月	鉄筋コンクリート造 3 階建	2,745 m ²	39
屋内運動場	昭和 52（1977）年 9 月	鉄骨造	806 m ²	43
プール	昭和 50（1975）年 7 月		375 m ²	45
教室	普通教室	5	備考 耐震化工事：平成 21 年度完了（体育館） 大規模改修工事：平成26年度完了 トイレの洋式化：平成 26 年度完了 空き教室は学習室	
	特別教室	8		
	教材室	0		
	生徒会室等	21		
	空き教室	1		
職員室	面積	68.00 m ²		
	職員数	11 人		
	1 人当たり面積	6.2 m ²		
トイレ	和式	0		
	洋式	10		

⑤北小学校

学校名	北小学校	所在地	飯室 876
児童生徒数	130 人（特別支援学級含む）	学級数	通常学級 6、特別支援学級 2
教育目標	人間尊重の教育を基盤に、心身ともに健康で、社会の変化にも主体的に対応できる「生きる力」を身に付けた心豊かでたくましく生き抜く児童を育成する。		
具体目標	やさしい子 かしこい子 たくましい子		
通学区域 (学区)	伏久、文挾、飯室、平田、柿木沢、狭間田（一部の大字で例外あり）		
主な沿革	昭和29年 町村合併により熟田村のうち、大字伏久、文挾、飯室の三地区が北高根沢村に合併し、文挾小学校となる 昭和36年 文挾小学校と（旧）中央小学校東高谷分校が統合し、北小学校となる 昭和 39 年 現在地に移転 平成 19 年 管理教室棟を改築		

名 称	北小学校		敷地面積	18,852 m ²
建物等	建築年月	構造	延床面積	築年数
校舎棟	平成 19（2007）年 3 月	木造 2 階建	2,255 m ²	14
特別教室棟	昭和 55（1980）年 3 月	鉄筋コンクリート造 3 階建	1,232 m ²	41
屋内運動場	昭和 55（1980）年 9 月	鉄骨造	864 m ²	40
プール	昭和 48（1973）年 7 月		375 m ²	47
教室	普通教室	8	備考	
	特別教室	9	特別教室：昭和 54 年度	
	教材室	5	耐震化工事：普通教室と特別教室棟は	
	生徒会室等	19	平成 19 年度、体育館は平成 22 年度	
	空き教室	1	完了	
職員室	面積	106.80 m ²	空き教室は北の子ルーム	
	職員数	14 人		
	1 人当たり面積	7.6 m ²		
トイレ	和式	10		
	洋式	2		

⑥西小学校

学校名	西小学校	所在地	光陽台 3-2-3
児童生徒数	430 人（特別支援学級含む）	学級数	通常学級 15、特別支援学級 2
教育目標	確かな学力とよりよく問題を解決する資質や能力をはぐくみ、夢と未来を切り拓く力を育てる。		
具体目標	思いやりのある子 自ら学ぶ子 たくましい子		
通学区域 (学区)	光陽台、宝石台（一部の大字で例外あり）		
主な沿革	平成 6 年 阿久津小学校の分離校として開校		

名 称	西小学校		敷地面積	31,704 m ²
建物等	建築年月	構造	延床面積	築年数
校舎棟	平成 6（1994）年 1 月	鉄筋コンクリート造 3 階建	5,969 m ²	27
屋内運動場	平成 6（1994）年 2 月	鉄骨造	1,406 m ²	27
プール	平成 6（1994）年 6 月		1,635 m ²	26
教室	普通教室	17	備考	
	特別教室	13	大規模改修工事：令和 2 年度完了 トイレの洋式化：令和 2 年度完了 空き教室は学習室	
	教材室	6		
	生徒会室等	19		
	空き教室	1		
職員室	面積	117.90 m ²		
	職員数	25 人		
	1 人当たり面積	4.7 m ²		
トイレ	和式	0		
	洋式	16		

⑦阿久津中学校

学校名	阿久津中学校	所在地	中阿久津 1470
児童生徒数	535 人（特別支援学級含む）	学級数	通常学級 17、特別支援学級 3
教育目標	人間尊重の精神を基盤とし、確かな知性を身に付け、心豊かでたくましく、志の高い生徒を育てる。		
具体目標	知性の高い生徒、頼もしい生徒、志の高い生徒		
通学区域 (学区)	上阿久津、中阿久津、宝積寺、宝石台、光陽台、石末、大谷（一部の大字で例外あり）		
主な沿革	昭和 22 年 新制阿久津中学校として開校		
部活動	陸上競技、サッカー（男子）、バレーボール（女子）、 バスケットボール（女子）、ソフトテニス、卓球、軟式野球（男子）、 柔道、ソフトボール（女子）、剣道、吹奏楽、美術、国際理解		

名 称	阿久津中学校		敷地面積	65,744 m ²
建物等	建築年月	構造	延床面積	築年数
校舎棟	昭和 61（1986）年 2 月	鉄筋コンクリート造 4 階建	6,760 m ²	35
特別教室棟 1	昭和 46（1971）年 9 月	鉄骨造 1 階建	277 m ²	49
特別教室棟 2	平成 16（2004）年 10 月	鉄骨造 2 階建	919 m ²	16
屋内運動場	昭和 40（1965）年 12 月	鉄骨造	918 m ²	55
屋内運動場	平成 2（1990）年 8 月	鉄骨造	1,534 m ²	30
プール	未設置			
教室	普通教室	19	備考 耐震化工事：旧体育館は平成 23 年 度、特別教室 1 は平成 25 年度に完了 空き教室は学習室	
	特別教室	18		
	教材室	0		
	生徒会室等	32		
	空き教室	2		
職員室	面積	145.00 m ²		
	職員数	39 人		
	1 人当たり面積	3.7 m ²		
トイレ	和式	18		
	洋式	3		

⑧北高根沢中学校

学校名	北高根沢中学校	所在地	太田 753
児童生徒数	184 人（特別支援学級 0 人）	学級数	通常学級 7、特別支援学級 0
教育目標	豊かな人間性を育みながら想像力を伸ばすとともに、意欲的に勉学に励み、新しい社会をたくましく生き抜こうとする心身ともに健康な生徒を育成する。		
具体目標	豊かな心をもつ生徒 進んで学ぶ生徒 たくましくやりぬく生徒		
通学区域 (学区)	上高根沢、栗ヶ島、寺渡戸、西高谷、花岡、平田、太田、桑窪、上柏崎、亀梨、中柏崎、下柏崎、飯室、文挾、伏久、柿木沢、狭間田（一部の大字で例外あり）		
主な沿革	昭和 22 年 新制北高根沢中学校として開校		
部活動	サッカー（男子）、バレーボール（女子）、 バスケットボール（女子）、ソフトテニス、軟式野球（男子）、 ソフトボール（女子）、剣道、美術		

名 称	北高根沢中学校		敷地面積	28,272 m ²
建物等	建築年月	構造	延床面積	築年数
校舎棟	昭和 55（1980）年 6 月	鉄筋コンクリート造 3 階建	4,136 m ²	40
特別教室棟 1	昭和 55（1980）年 10 月	鉄筋コンクリート造 2 階建	745 m ²	40
特別教室棟 2	平成 4（1992）年 2 月	鉄筋コンクリート造 3 階建	761 m ²	29
屋内運動場	平成 1（1989）年 2 月	鉄骨造	1,500 m ²	32
プール	平成 13（2001）年 3 月			20
教室	普通教室	7	備考	
	特別教室	21	耐震化工事：平成 19 年度完了	
	教材室	3	平成 30 年度に校舎を大規模改修、東	
	生徒会室等	32	小学校との施設併設型小中一貫校とな	
	空き教室	5	る	
職員室	面積	133.00 m ²	トイレの洋式化：平成 30 年度	
	職員数	19 人	空き教室は学習室 4、社会科室 1	
	1 人当たり面積	7.0 m ²		
トイレ	和式	0		
	洋式	14		

《参考》

小学校の統合等の主な沿革

- ・北小学校は、昭和 36 年に文挾小、中央小東高谷分校を統合。
- ・東小学校は、昭和 46 年に東部 4 校（旧中央小、桑窪小、柏崎小、台新田小）を統合。
- ・中央小学校は、昭和 52 年に石末小、大谷小、花岡小の 3 校を統合。

※東小学校、中央小学校の統合については、それぞれ統合当時、阿久津小と旧中央小以外の小学校において小規模化が進行して複式学級を生じており、教育の機会均等や学校運営に支障を来す恐れがあることから、当時の文部省の示していた適正規模「1 学年 2～3 学級、全校 12～18 学級」を踏まえ、複式学級の解消や老朽校舎の解消の見地から統合が行われたものです。（「高根沢町史 通史編Ⅱ、資料編Ⅲ」から）

（高根沢町史 通史編Ⅱからデータ抜粋）

○昭和 38 年度～43 年度 東部 4 校（中央小、台新田小、柏崎小、桑窪小）児童数・学級数

学校名	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		計	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
旧中央小	64	2	65	2	61	2	69	2	74	2	75	2	408	12
台新田小	7		23	1	12		11	1	15		19	1	87	3
柏崎小	7		9	1	14		11	1	9		15	1	65	3
桑窪小	20	1	28	1	23	1	25	1	21	1	30	1	147	6
S38 年度 計	98	3	125	5	110	3	116	5	119	3	139	5	707	24

S39 年度 計	95	2	98	2	125	3	110	3	116	3	119	3	663	16
S40 年度 計	96	2	95	2	98	2	125	3	110	3	116	3	640	15
S41 年度 計	82	2	96	2	95	2	98	2	125	3	110	3	606	14
S42 年度 計	75	2	82	2	96	2	95	2	98	2	125	3	571	13
S43 年度 計	82	2	75	2	82	2	96	2	95	2	98	2	528	12

（昭和 37 年 8 月 20 日現在）

（高根沢町史 資料編Ⅲからデータ抜粋）

○高根沢町振興計画（昭和 46 年 3 月）

教育振興指標

（ ）は特殊学級

区分	年次	基準年次 [昭和 44 年度]			目標年次 [昭和 50 年度]		
		学校数	学級数	児童生徒数	学校数	学級数	児童生徒数
小学校		10	75 (4)	2,114 (31)	7	67 (4)	1,865 (31)
中学校		2	36 (4)	1,309 (36)	2	28 (4)	960 (35)
計		12	111 (8)	3,423 (67)	9	95 (8)	2,825 (66)

第2章 学校の現状等

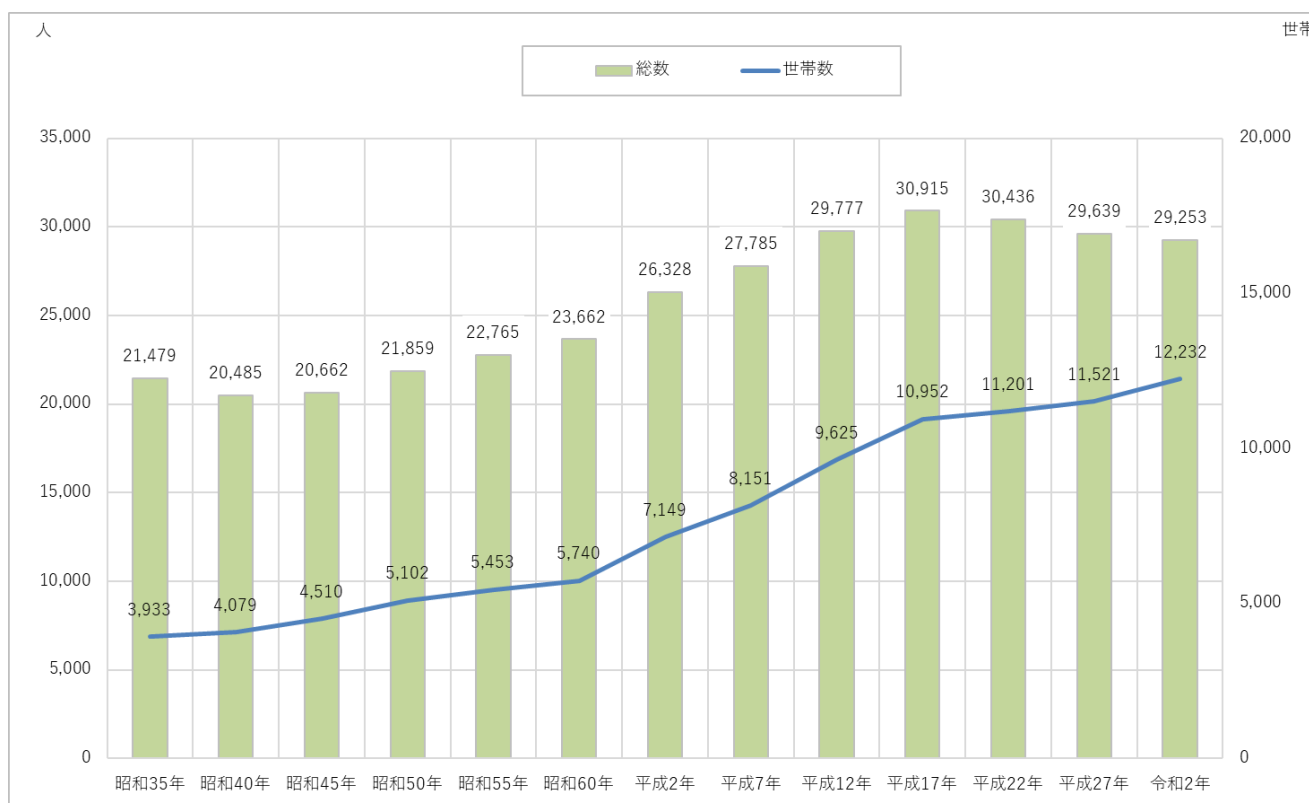
1 人口・児童生徒数の推移（実績）

(1) 人口及び世帯の推移

昭和33年に本町が誕生した当時、昭和35年国勢調査では人口21,479人、3,933世帯でした。その後、人口は一時的に減少しましたが、昭和50年頃から約30年にわたって増加し、平成17年国勢調査では30,915人になりました。その後、平成20年頃をピークに人口が減少局面に入り、令和2年国勢調査では29,253人となっています。

世帯は昭和30年代から現在まで漸増しており、特に昭和60年から平成17年にかけてほぼ倍増しました。令和2年国勢調査では12,232世帯となっています。

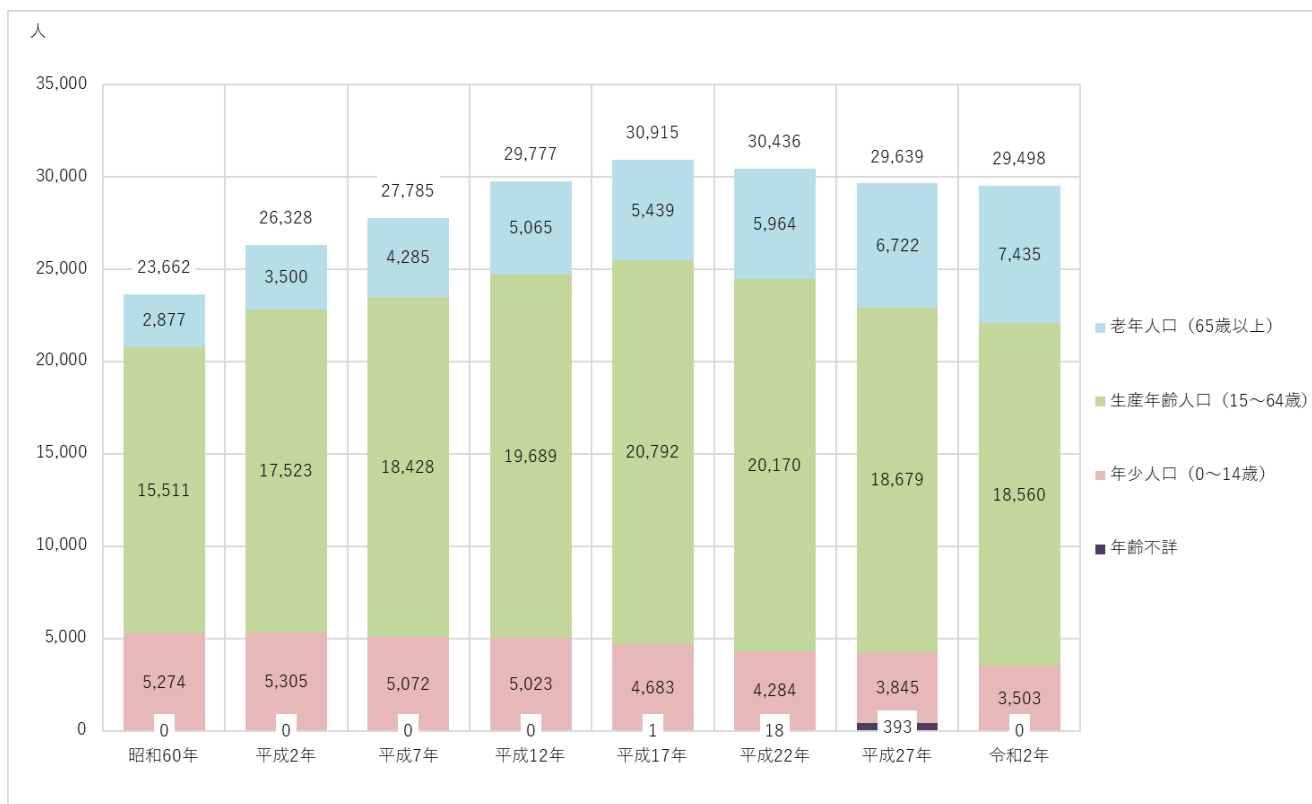
図表 人口及び世帯の推移



資料：国勢調査（各年10月1日現在）

児童生徒の年齢を含む年少人口（0～14歳）の推移は、昭和60年国勢調査の5,274人から今日まで減少傾向が続き、令和2年10月1日現在（住民基本台帳データ）の年少人口（0～14歳）は3,503人となっています。

図表 年齢3区分人口の推移



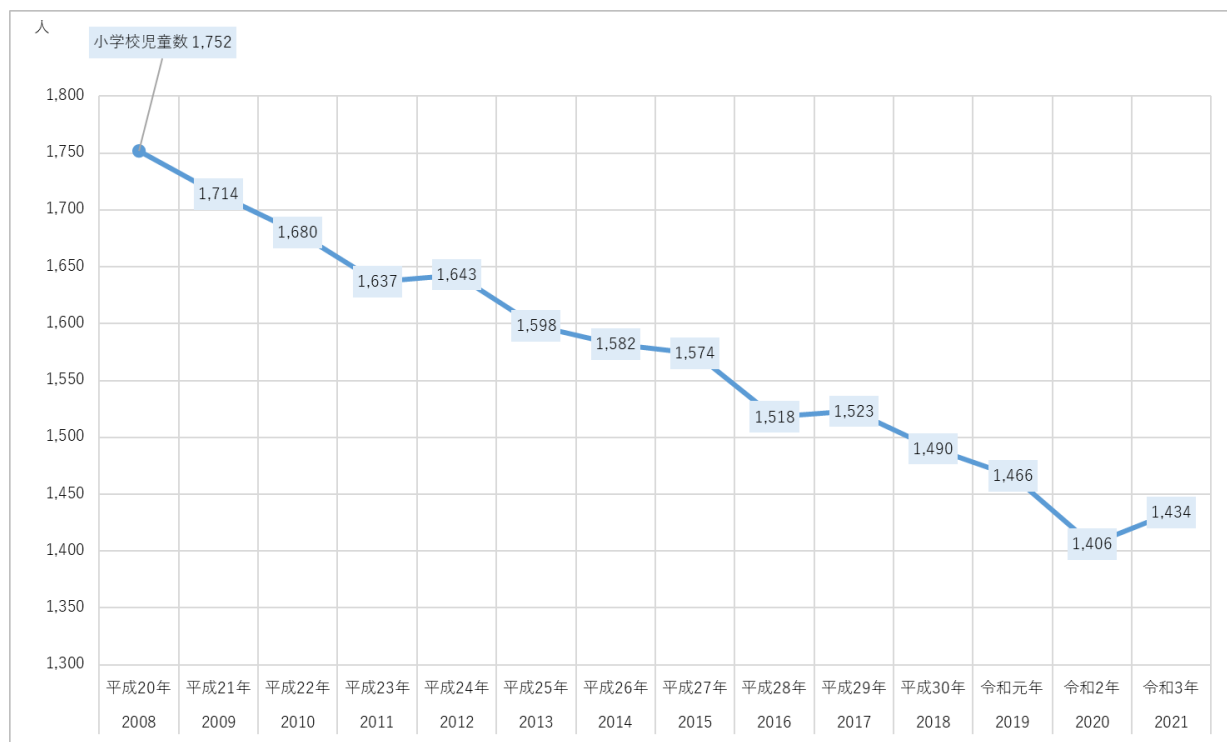
資料：昭和60～平成27年国勢調査（各年10月1日現在）、令和2年住民基本台帳（10月1日現在）

※令和2年の国勢調査結果が未発表のため、住民基本台帳データを掲載した。

(2) 小学校児童数の推移

近年の小学校児童数は、人口減少と少子化の影響で減少傾向となっています。平成20年の1,752人から318人減少し、令和3年は1,434人となり、1年間に平均24.5人減少しています。

図表 小学校児童数の推移



資料：学校基本調査（各年5月1日現在）

小学校別の児童数をみると、阿久津小学校は平成20年の533人から平成24年に576人まで増加しました。その後は減少が続きましたが、令和2年から再び増加し、令和3年の543人は平成20年とほぼ同じ規模となっています。

西小学校は平成20年の556人から平成25年は429人となり、この間に127人減少しました。その後は横ばいで推移し、令和3年は430人となっています。

本町では、この2校が他の4校に比べて児童数が多い状況が続いています。

中央小学校は平成20年の217人から全体的には減少傾向であり、令和3年は157人となっています。

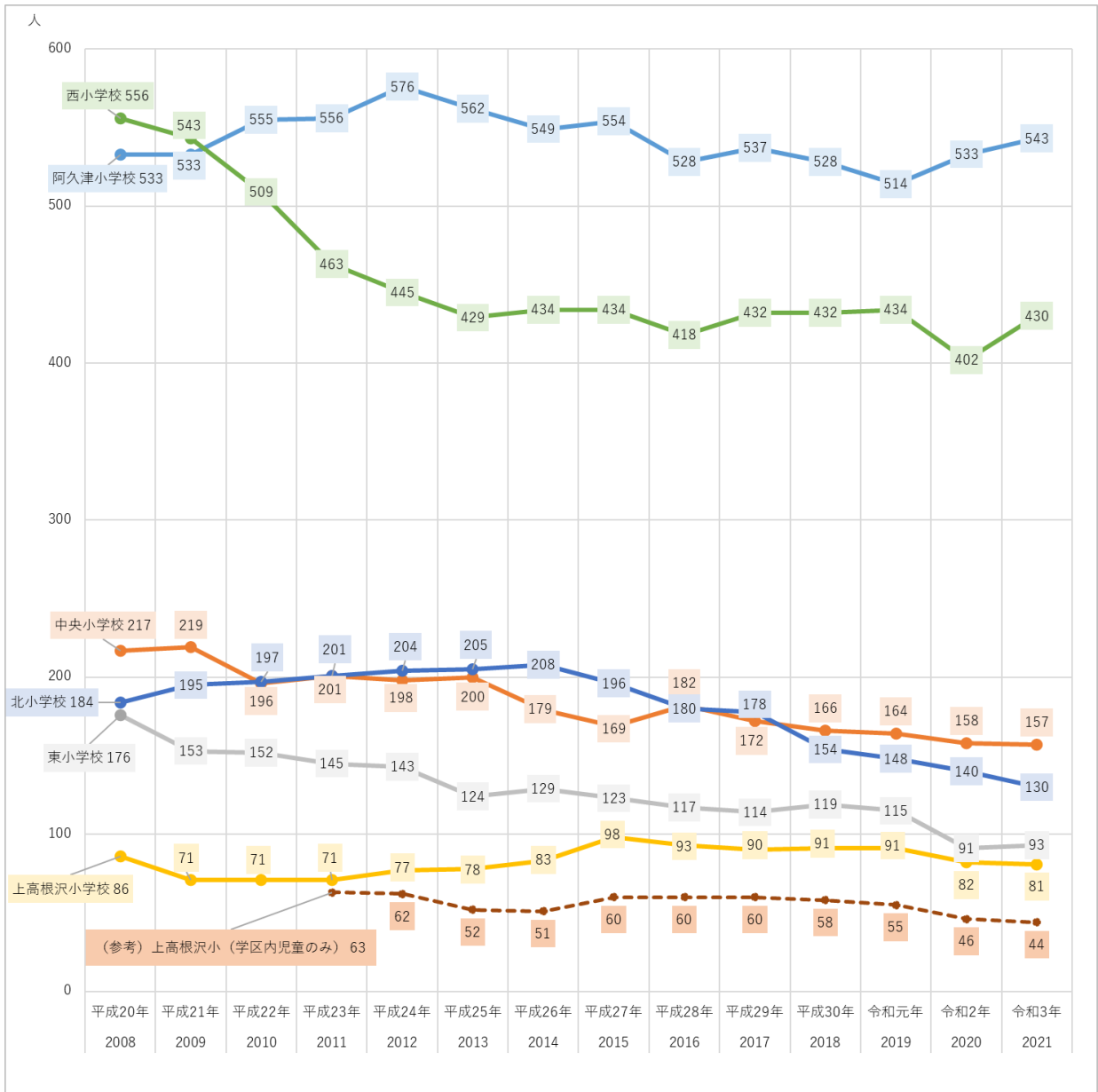
北小学校は平成20年の184人から平成26年に208人まで増加しました。その後は減少に転じ、令和3年は130人となっています。

東小学校は平成20年の176人から全体的には減少傾向であり、令和3年は93人となっています。

上高根沢小学校は児童数が町内で最も少なく、平成22年度には複式学級となりました。これを契機として平成23年度から小規模特認校制度を導入し、町内全域から児童を受け入れたことにより、平成27年度には98人まで増加しました。しかしその後は再び減少に転じ、令和3年は81人となっています。

(図表は次ページ)

図表 小学校別児童数の推移

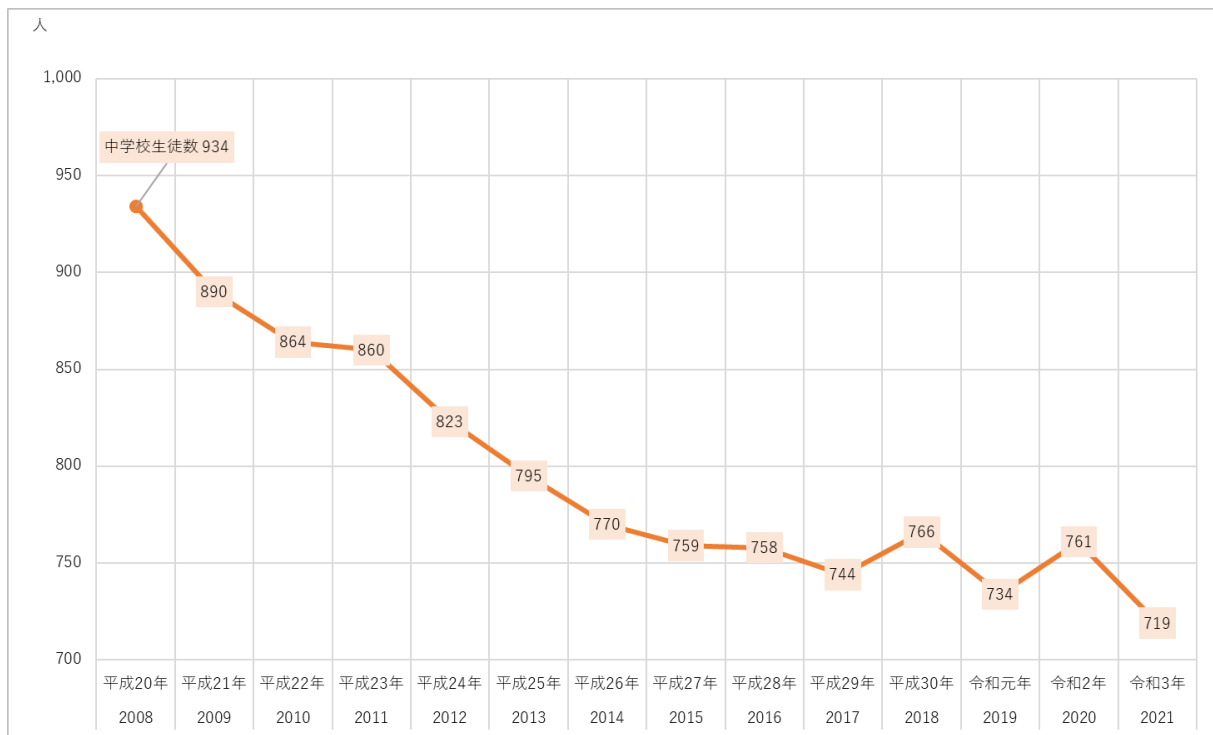


資料：学校基本調査（各年5月1日現在）

(3) 中学校生徒数の推移

近年の中学校生徒数は、小学校と同様に人口減少と少子化の影響で減少傾向であり、平成20年の934人から215人減少し、令和3年は719人となり、1年間に平均16.5人減少しています。

図表 中学校生徒数の推移



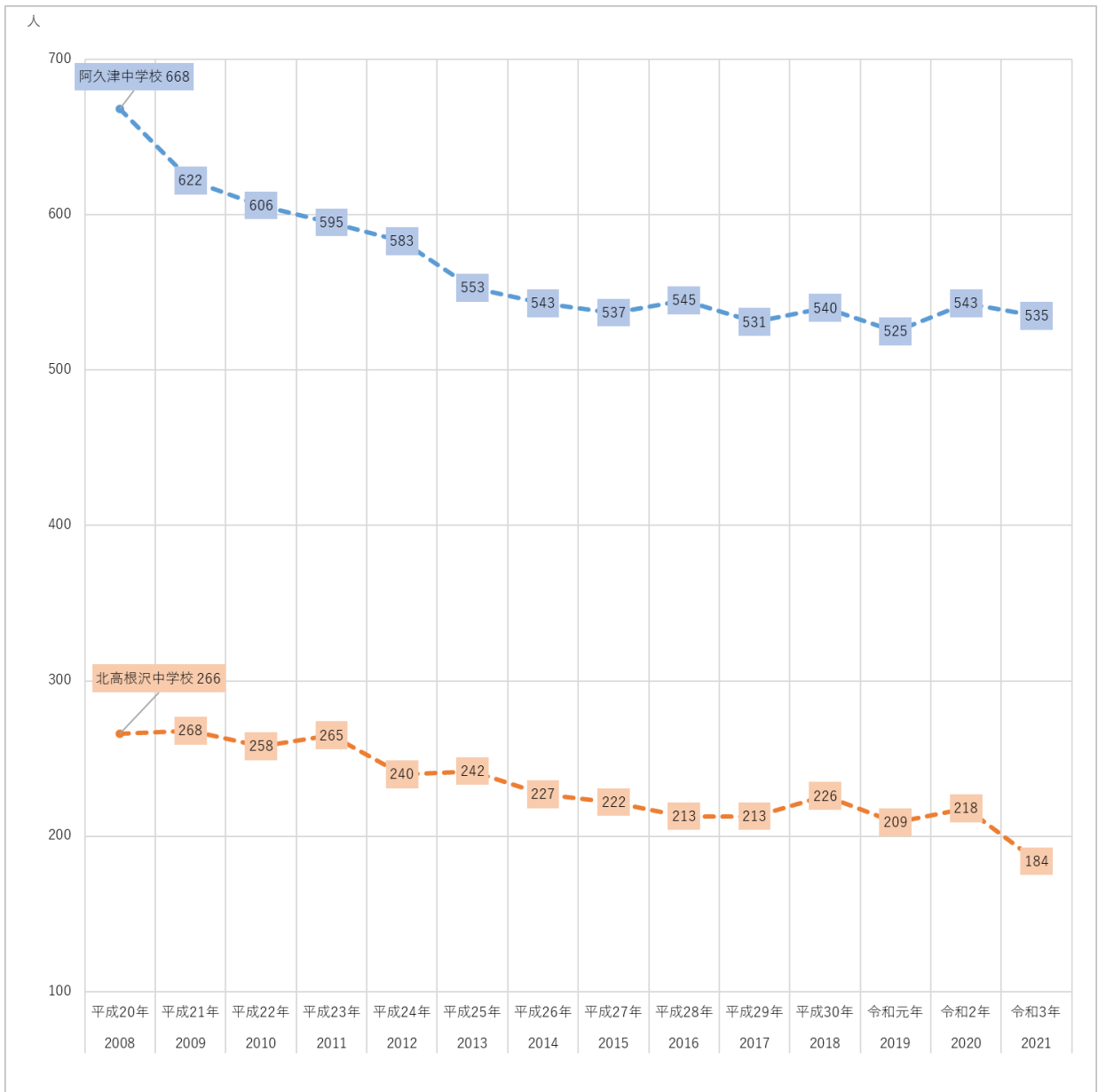
資料：学校基本調査（各年5月1日現在）

中学校別の生徒数をみると、阿久津中学校、北高根沢中学校ともに減少傾向となっています。規模の大きい阿久津中学校は平成20年の668人から平成27年は537人となり、この間に131人減少しました。その後は横ばいで推移し、令和3年は535人となっています。

北高根沢中学校は平成20～23年までは260人前後でしたが、平成24年以降は減少傾向となり、令和3年は184人となっています。

(図表は次ページ)

図表 中学校別生徒数の推移



資料：学校基本調査（各年 5 月 1 日現在）

2 学校規模の状況

(1) 学級編制基準

公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律では、令和3年度現在、学級編制の基準について、小学1・2年生は1学級35人、小学3年生から中学3年生までは1学級40人としています（40人学級基準は昭和55年度から）。

学級編制は、国の基準を踏まえて都道府県教育委員会が定めることになっており、栃木県の学級編制基準は、令和2年度以降、小学校、中学校ともに1学級35人以下を標準としています。

図表 栃木県学級編制基準

学校学年		年度										
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
小学校	第1学年	40	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
	第2学年		40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
	第3学年		40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
	第4学年		40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
	第5学年		40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
	第6学年		40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
中学校	第1学年	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
	第2学年	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
	第3学年	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35

※中1は平成15年度から、中2・中3は平成17年度から35人学級。

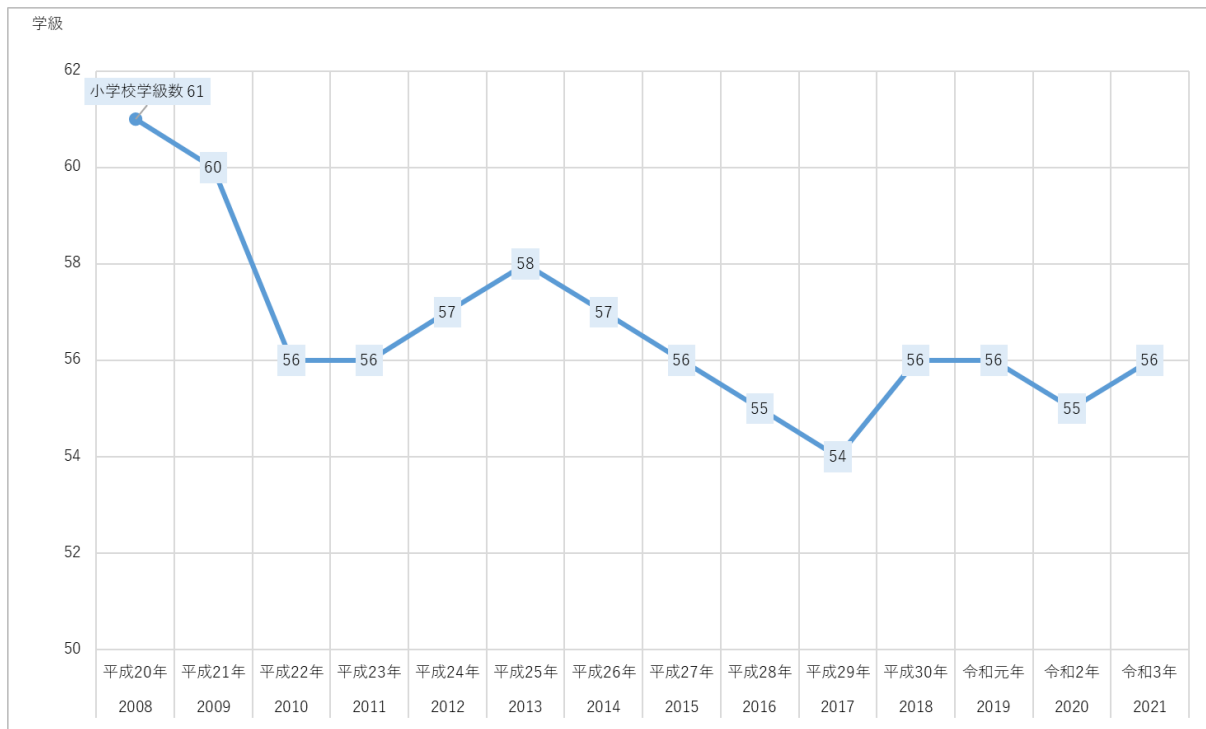
○複式学級の基準

- ・小学校 : 2学年で16人以下（1年生を含む場合8人以下）
- ・中学校 : 2学年で8人以下

(2) 小学校学級数の推移

本町の小学校の学級数（普通学級）の推移をみると、平成20年は61学級でしたが、児童数の減少の伴い、平成22年以降は54～58学級となっています。

図表 小学校の学級数の推移



資料：学校基本調査（各年5月1日現在）

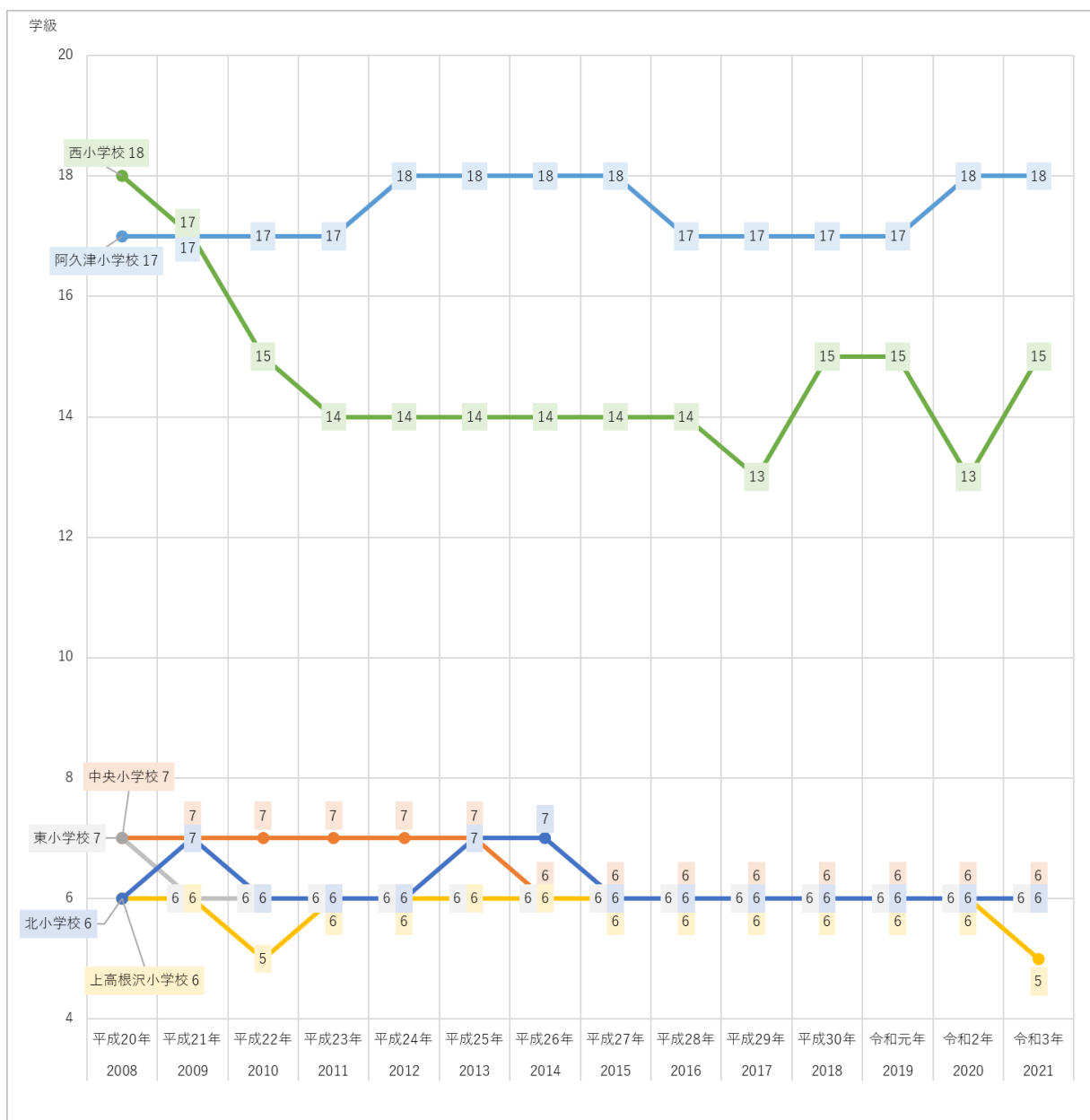
小学校別の学級数をみると、阿久津小学校は17～18学級、1学年当たり2～3学級となっています。

西小学校は平成20年の18学級から減少し、ここ数年は13～15学級、1学年当たり2～3学級となっています。

中央小学校、北小学校、東小学校の3校は、平成27年以降、1学年1学級の6学級となっています。

上高根沢小学校は平成22年に5学級（複式学級）になった後、平成23年からの小規模特認校指定によって1学年1学級の6学級が続いていましたが、令和3年は再び5学級（複式学級）となっています。

図表 小学校別学級数の推移

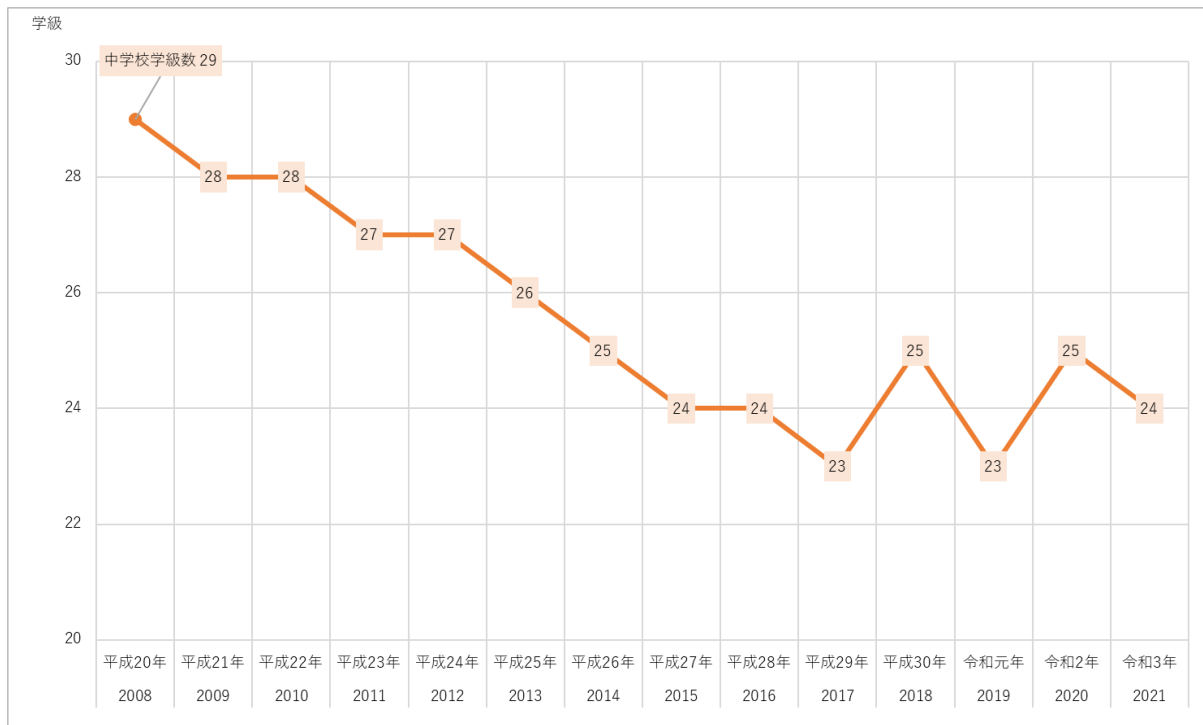


資料：学校基本調査（各年5月1日現在）

(3) 中学校学級数の推移

中学校の学級数（普通学級）の推移をみると、平成20年は29学級でしたが、生徒数の減少に伴い、平成26年以降は23～25学級となっています。

図表 中学校の学級数の推移

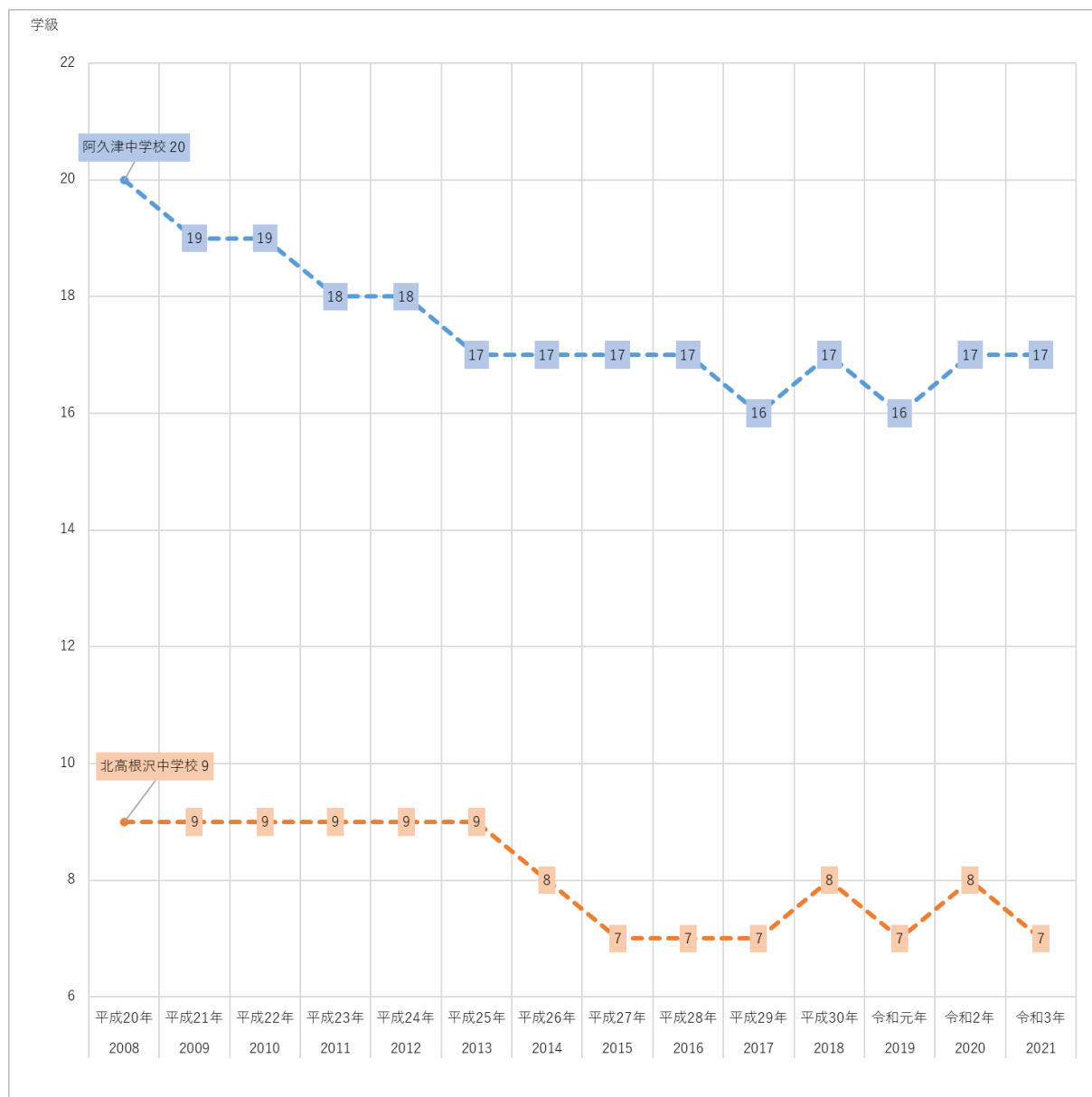


資料：学校基本調査（各年5月1日現在）

中学校別の学級数をみると、阿久津中学校は平成20年に20学級でしたが、その後は減少し、平成25年以降は17～18学級、1学年当たり5～6学級となっています。

北高根沢中学校は平成20～25年は9学級でしたが、平成26年以降は7～8学級、1学年当たり2～3学級となっています。

図表 中学校別学級数の推移



資料：学校基本調査（各年5月1日現在）

(4) 学校規模の状況

①学校規模及び配置に関する国の基準

学校教育法施行規則（第 41 条）では、「小学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下を標準とする」とし、「中学校に準用する」（同 79 条）としています。

○ 1 学年当たりの標準的な学級数

- ・ 小学校 : 1 学年 2 ～ 3 学級
- ・ 中学校 : 1 学年 4 ～ 6 学級

また、「公立小・中学校の国庫負担事業認定申請の手引」では学校規模の分類を下表のように示しています。

図表 (国) 学校規模の分類

分類	過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校
小学校	1～5 学級	6～11 学級	12～18 学級	19～30 学級
中学校	1～2 学級	3～11 学級		
備考	1 つ以上の複式学級	1 学年 1 学級以上	—	—

資料：公立小・中学校の国庫負担事業認定申請の手引（文部科学省）

②望ましい学級数の考え方

学級数に関して、文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（平成 27 年）」（以下、「国の手引き」という。）では、小学校は「複式学級を解消するためには少なくとも 1 学年 1 学級以上（6 学級以上）であること、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するためには 1 学年 2 学級以上（12 学級以上）あることが望ましい。」としています。

中学校は「全学年でクラス替えを可能としたり、学級を超えた集団編成を可能としたり、同学年に複数教員を配置するためには、少なくとも 1 学年 2 学級以上（6 学級以上）であること、免許外指導をなくしたり、全ての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも 9 学級以上を確保することが望ましい。」としています。

なお、義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令（第 4 条）でも小学校及び中学校は概ね 12～18 学級、義務教育学校は概ね 18～27 学級を適正な学校規模としています。

③国の基準で見た本町の学校規模

国の示す学校規模・学級数の基準を町立小・中学校に当てはめてみると、次の表のようになります。

図表 小学校の学校規模（令和3年度）

					上 高 根 沢	中央										西			阿 久 津
						東													
						北													
1学級	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		
過小規模校					小規模校						適正規模校								

資料：学校基本調査（5月1日現在）

図表 中学校の学校規模（令和3年度）

							北 高 根 沢										阿 久 津	
1学級	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
過小規模校		小規模校									適正規模校							

資料：学校基本調査（5月1日現在）

④学級数の標準を下回る場合の対応の目安

国の手引きにおける、標準規模を下回る場合の「対応の目安」は次のとおりです。

○小学校

区分	過小規模校	小規模校			適正規模校
学級数	1～5学級 複式学級	6学級 1学年1学級	7～8学級 1学年1～2学級	9～11学級 1学年1～2学級	12～18学級 1学年2～3学級
学校規模	複式学級が生じる規模	全学年でクラス替えができない規模	ほとんどの学年でクラス替えができない規模	一部の学年でクラス替えができない規模	全学年でクラス替えができる規模
該当校	上高小	中央小 東小 北小			阿小 西小
対応目安	学校統廃合により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。	教育上の課題を整理した上で、学校統合の適否も含め、今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。	教育上の課題を整理した上で、学校統合の適否も含め、今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。	教育上の課題を整理した上で、今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。	

○中学校

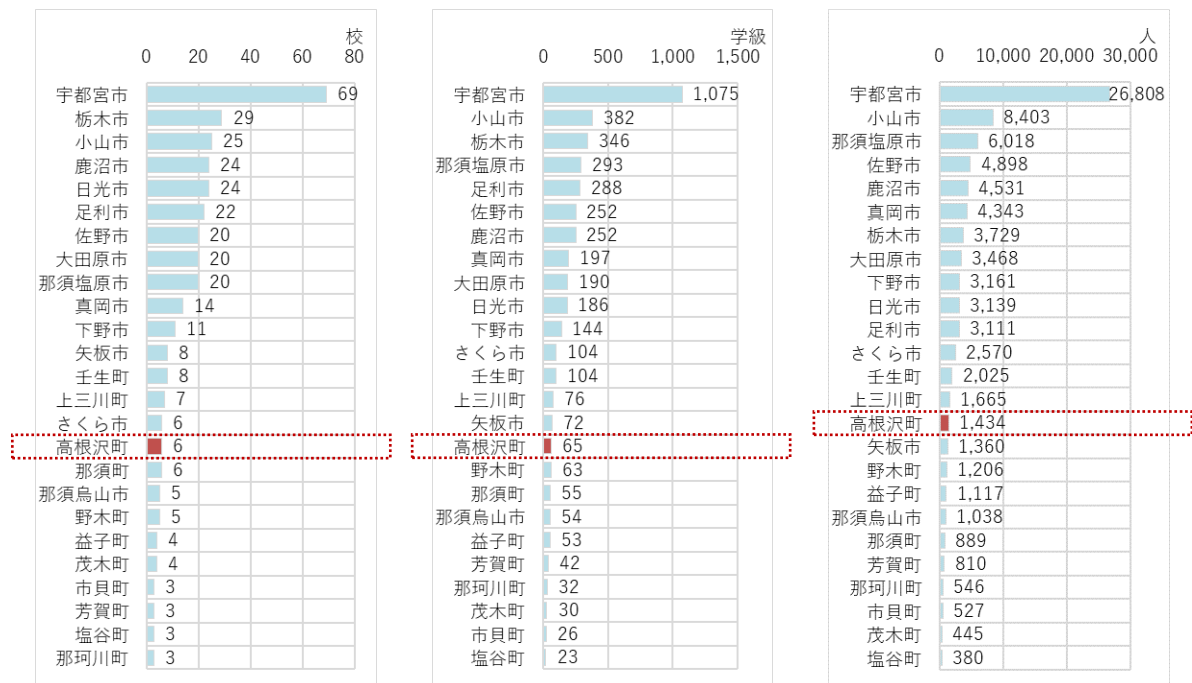
区分	過小規模校	小規模校				適正規模校
学級数	1～2学級 複式学級	3学級 1学年1学級	4～5学級 1学年1～2学級	6～8学級 1学年2～3学級	9～11学級 1学年3～4学級	12～18学級 1学年4～6学級
学校規模	複式学級が生じる規模	全学年でクラス替えができない規模	一部の学年でクラス替えができない規模	全学年でクラス替えができ、同学年に複数教員を配置できる規模	全学年でクラス替えができ、同学年での複数教員配置や、免許外指導の解消が可能な規模	
該当校				北高中	阿中	
対応目安	学校統廃合により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。	教育上の課題を整理した上で、学校統合の適否も含め、今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。	教育上の課題を整理した上で、学校統廃合の適否も含め、今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。	学校規模が十分でないことによる教育上の課題を整理した上で、今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。	教育上の課題が生じているかを確認した上で、今後の教育環境の在り方を検討することが必要である。	

(5) 県内市町の学校規模との状況

①小学校（令和3年度）

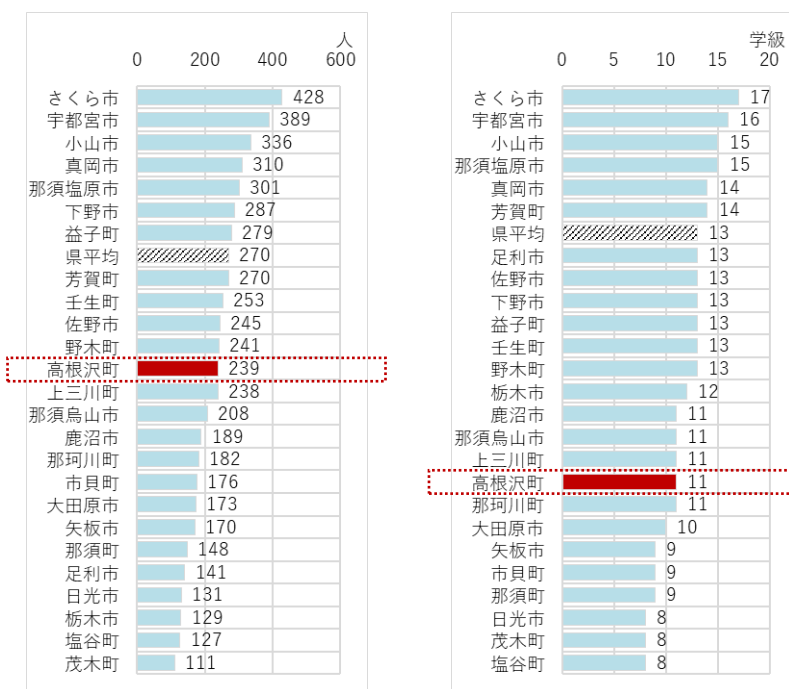
25市町のうち、本町の小学校数と学級数は16番目、児童数は15番目です。

図表 県内市町の小学校数（左）、学級数（中）、児童数（右）



小学校1校当たり児童数は県平均270人に対して本町239人、1校当たり学級数は県平均13学級に対して本町は11学級です。本町の小学校は県平均より小規模といえます。

図表 県内市町の1校当たり児童数（左）、1校当たり学級数（右）

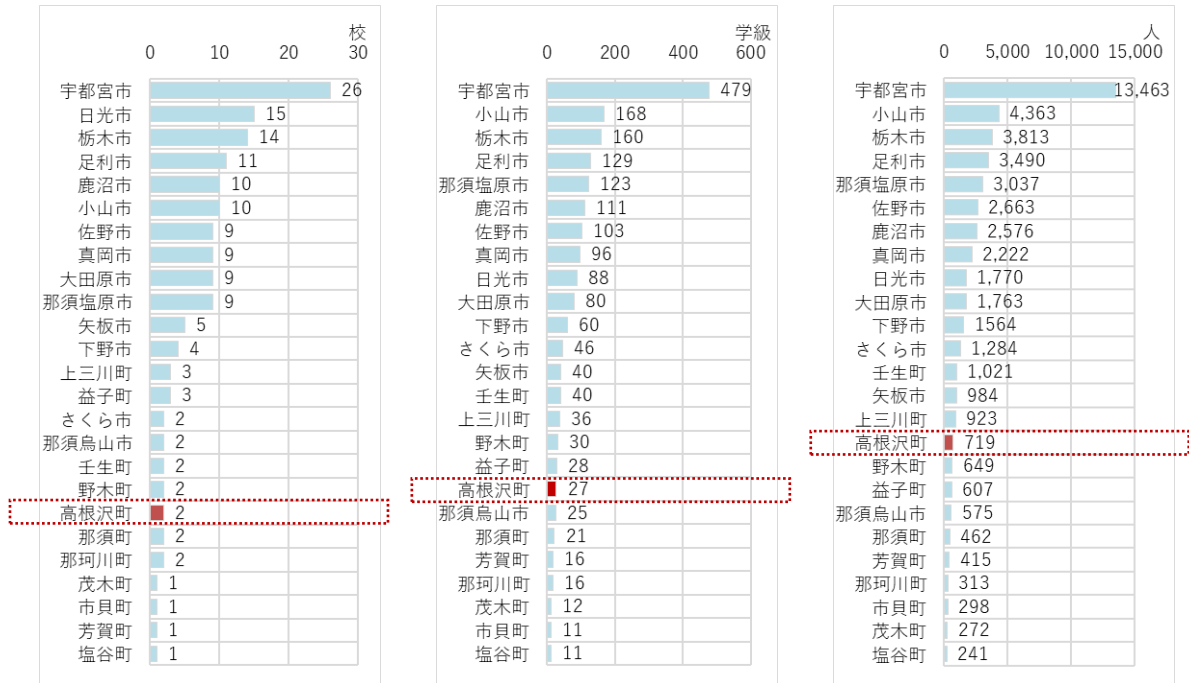


資料：各図表は学校基本調査（令和3年5月1日現在）

②中学校（令和3年度）

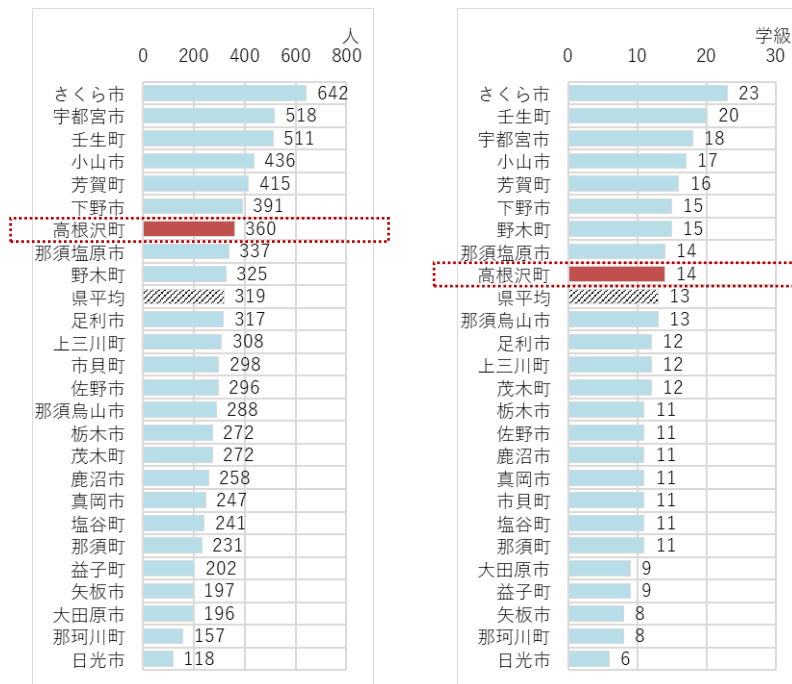
25 市町のうち、本町と同じ中学校 2 校は 7 市町あり、学級数は 18 番目、生徒数は 16 番目です。

図表 県内市町の中学校数（左）、学級数（中）、生徒数（右）



中学校 1 校当たり生徒数は県平均 319 人に対して本町は 360 人、1 校当たり学級数は県平均 13 学級に対して本町は 14 学級です。本町の中学校は県平均をやや上回る規模といえます。

図表 県内市町の 1 校当たり生徒数（左）、1 校当たり学級数（右）



資料：各図表は学校基本調査（令和3年5月1日現在）

(6) 県内小学校の複式学級の状況

(栃木県の令和2年度学校基本調査報告書)

図表 小学校の学級数（栃木県内）

区分	全学級数	複式学級
H29年度	4,455	84
H30年度	4,464	82
R元年度	4,473	72
R2年度	4,449	63

図表 小学校の複式学級の状況（各市町）

市町名	複式学級のある学校数	複式学級合計数(全該当校)	各学校児童数	各学校学級数	適正規模・適正配置の検討・実施状況
鹿沼市	8	17	13~58	3~5	小中学校適正配置等基本計画(H28.7)の実施プランに基づいて小学校2校の統廃合を実施。残りの複式学級のある学校を対象に調整を継続中。
日光市	8	18	2~33	1~4	小中学校の適正配置に向けた基本的考え方(H28.6)に基づいて2つの中学校区での統廃合を実施する(R2~R4年度)。他の3つの中学校区でも検討協議を進めている。
茂木町	1	1	66	5	未検討。 特認制度もなし。
壬生町	2	4	30. 39	4	未検討。 複式学級のある学校のうち1校は小規模特認校。
下野市	1	1	49	5	学校適正配置基本計画(H25.11)に基づき、1校を統廃合済み。現在複式学級のある学校を小規模特認校とし、以降3年ごとに見直し・検討予定。
矢板市	1	2	44	5	小中学校の適正規模及び適正配置について(答申)(H31.1)の答申後、小学校8→3校、中学校3→2校の適正配置計画を策定したが、泉小コミュニティスクール設立準備会から泉小の存続要望書が提出された。
大田原市	3	5	37~43	4	小中学校再編整備に関する答申書(H26.5)を踏まえ、小学校1校、中学校1校を統廃合済み。それ以外の学校については、地域との調整が未進捗。小学校3校が小規模特認校。
那須塩原市	2	6	12. 22	3	小中学校適正配置基本計画(H22.10)第二段階(R1.3)に基づき、H28年度までに小学校4校の統廃合をそれぞれ実施済み。H29年度に塩原小・塩原中を小中一貫校に。H24年度から小学校8校が小規模特認校。複式校を含めてR5年度に設立する義務教育学校の設立準備を進めている。
佐野市	3	6	17~50	3~5	小中学校適正規模・適正配置基本計画(H27.1)に基づいて小学校1校の統廃合を実施済み。R2年度に小学校6校・中学校1校を義務教育学校に統合。R4年度に小学校2校・中学校2校を義務教育学校に統合予定。
足利市	2	2	53. 55	5	R3.4に学校環境審議会が設置され検討が開始された。
合計	31	62			

※各市町データの学級数合計は1学級ずれがあります。

3 児童生徒数・学級数の推計

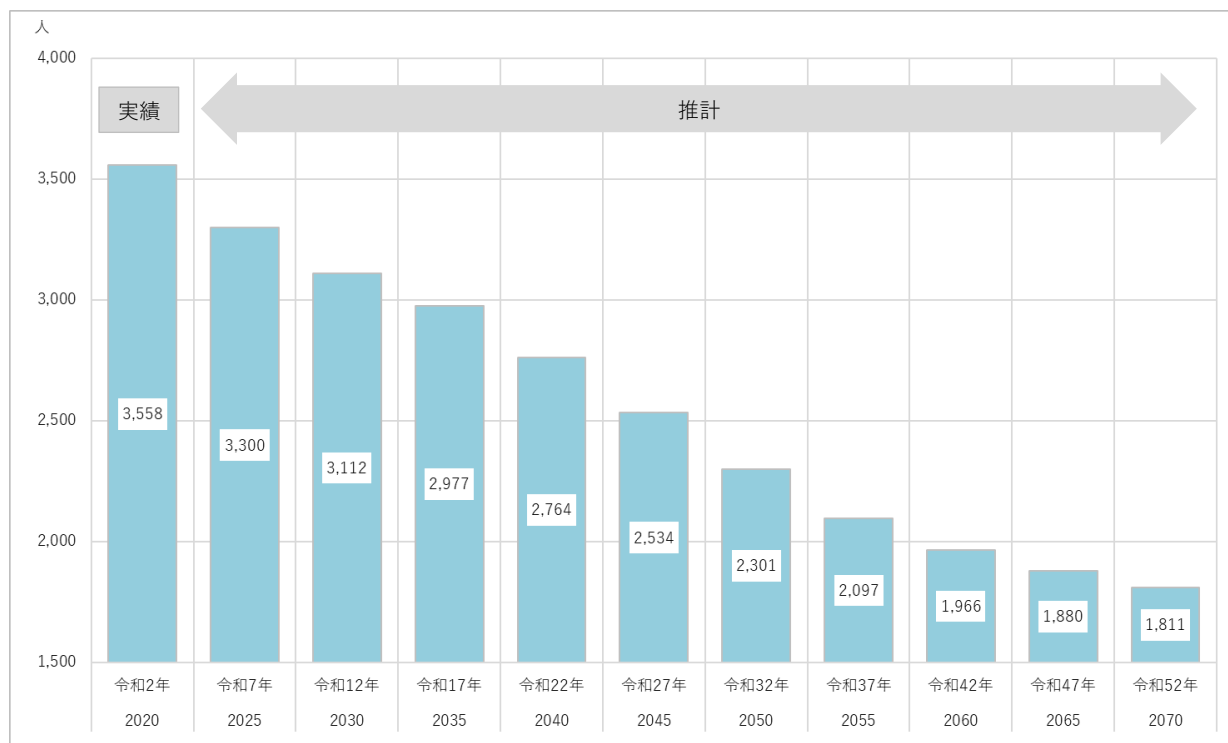
(1) 年少人口（0～14 歳）の長期推計

令和 52 年度（2070 年度）までの高根沢町人口推計（令和 2 年 11 月時点）によると、総人口は減少傾向が続く見通しです。

年少人口（0～14 歳）は、令和 2 年度（2020 年度）の約 3,600 人から令和 52 年度（2070 年度）は約 1,800 人になる見通しであり、向こう 50 年間でおよそ半減します。

* 高根沢町人口推計は、平成 25 年～平成 30 年の合計特殊出生率平均を用いて算出した 0 歳児推計人口と、平成 27 年～令和 2 年の性別・年齢（1 歳毎）別人口の変化率を用いて算出した 1 歳以上の推計人口の合計。

図表 年少人口（0～14 歳）の将来推計



令和 2 年は 11 月時点

資料：高根沢町人口推計

(2) 短期推計（出生実数に基づく児童生徒数・学級数推計／令和9年度（2027年度）まで）

令和3年度の児童生徒数と就学前児童数（実数）を用いて、令和9年度（2027年度）までの児童生徒数及び学級数を予測した結果を示します。（令和3年7月19日推計）

*短期推計を見る際の注意点

本町は、婚姻率と出生率が県内で特に高い町ですが、20代で就職を機に町内に転入し、30代に結婚や子育てを機に町外に転出する傾向があります。この短期推計は0歳人口が就学年齢に達し、小学校に入学することを前提にしていますが、町内で生まれた子どもが小学校入学前に転出する傾向を踏まえると、実際の児童生徒数は短期推計人数を下回る可能性があります。

また、この推計は、私立校、町外、特別支援学校入学者等の減少分を加味していません。

（学校別推計は次ページ）

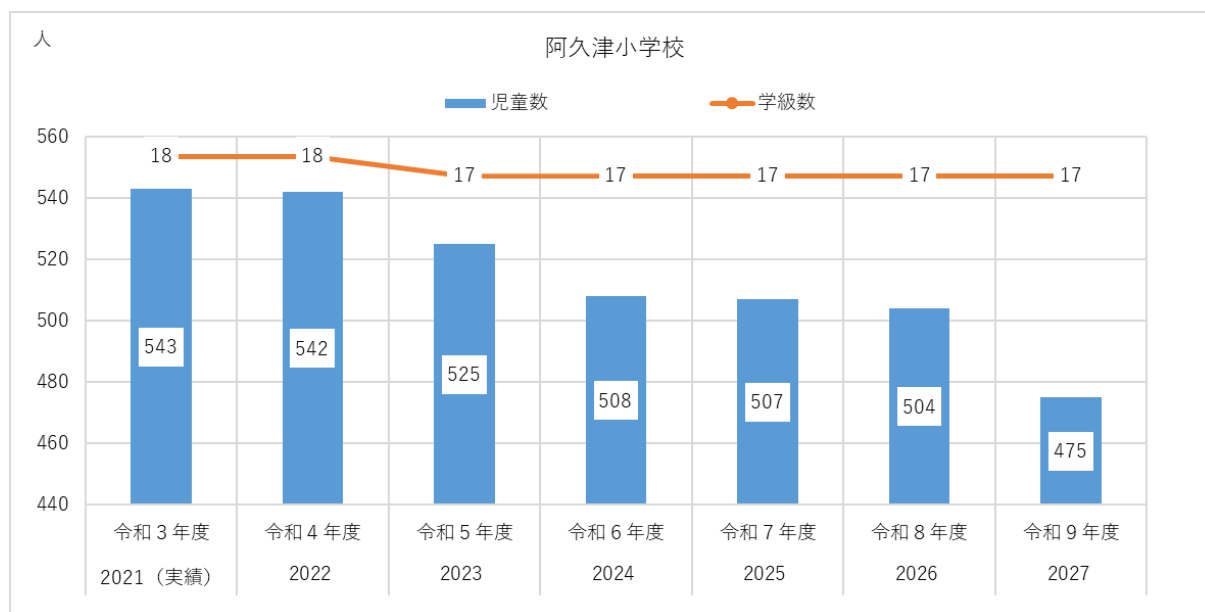
①小学校児童数、学級数（学校規模）の短期推計

【阿久津小学校】

阿久津小学校の児童数は、令和3年度（2021年度）実績の543人から令和9年度（2027年度）475人に減少する見通しです。減少人数は68人です。

学級数は、令和3年度（2021年度）実績の18学級、1学年当たり3学級から、令和5年度（2023年度）以降は17学級、1学年当たり2～3学級に減少する見通しです。

図表 児童数・学級数の短期推計（人、学級）



図表 児童数・学級数の短期推計／学年別（人、学級、％）

	児童数								学級数						
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	割合	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
令和3年度	106	84	83	94	87	89	543	100%	3	3	3	3	3	3	18
令和4年度	88	106	84	83	94	87	542	100%	3	3	3	3	3	3	18
令和5年度	70	88	106	84	83	94	525	97%	2	3	3	3	3	3	17
令和6年度	77	70	88	106	84	83	508	94%	3	2	3	3	3	3	17
令和7年度	82	77	70	88	106	84	507	93%	3	3	2	3	3	3	17
令和8年度	81	82	77	70	88	106	504	93%	3	3	3	2	3	3	17
令和9年度	77	81	82	77	70	88	475	87%	3	3	3	3	2	3	17

※学級数は普通学級のみを記載。割合は令和3年度の児童生徒数を100%としたもの。

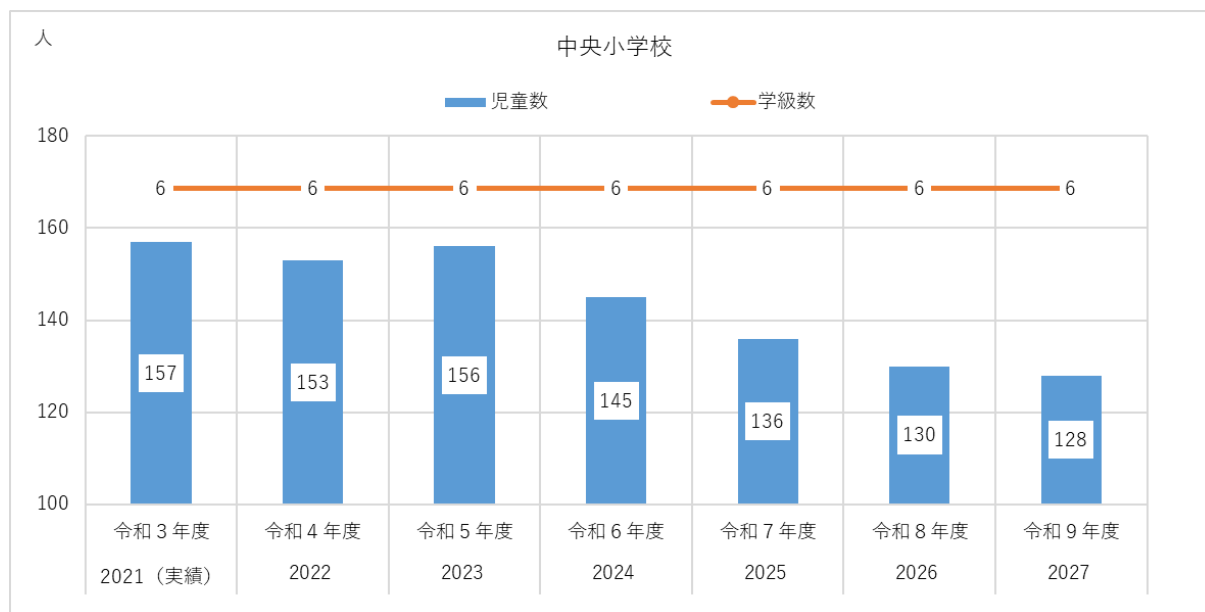
※令和4年度以降、1年生は小規模特認校利用の平均実績（3人）を引いている。

【中央小学校】

中央小学校の児童数は、令和3年度（2021年度）実績の157人から令和9年度（2027年度）は128人に減少する見通しです。減少人数は29人です。

学級数は、令和3年度（2021年度）実績の6学級、1学年当たり1学級が令和9年度（2027年度）まで維持される見通しです。

図表 児童数・学級数の短期推計（人、学級）



図表 児童数・学級数の短期推計／学年別（人、学級、%）

	児童数								学級数						
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	割合	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
令和3年度	23	23	29	30	26	26	157	100%	1	1	1	1	1	1	6
令和4年度	22	23	23	29	30	26	153	97%	1	1	1	1	1	1	6
令和5年度	29	22	23	23	29	30	156	99%	1	1	1	1	1	1	6
令和6年度	19	29	22	23	23	29	145	92%	1	1	1	1	1	1	6
令和7年度	20	19	29	22	23	23	136	87%	1	1	1	1	1	1	6
令和8年度	17	20	19	29	22	23	130	83%	1	1	1	1	1	1	6
令和9年度	21	17	20	19	29	22	128	82%	1	1	1	1	1	1	6

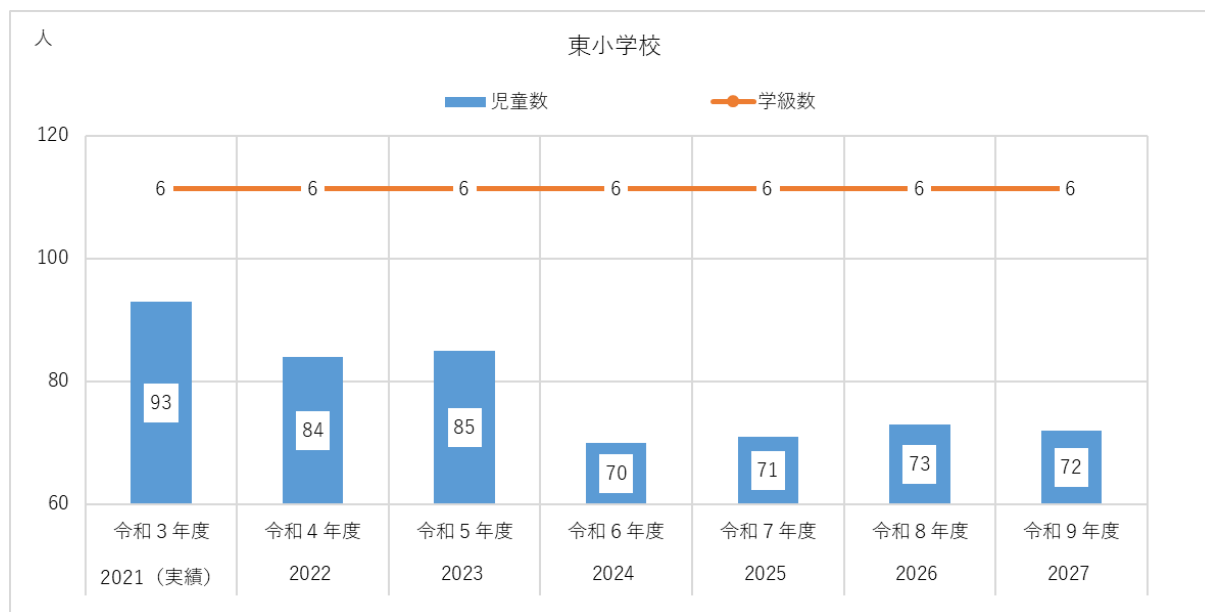
※学級数は普通学級のみを記載。割合は令和3年度の児童生徒数を100%としたもの。

【東小学校】

東小学校の児童数は、令和3年度（2021年度）実績の93人から令和9年度（2027年度）は72人に減少する見通しです。減少人数は21人です。

学級数は、令和3年度（2021年度）実績の6学級、1学年当たり1学級が令和9年度（2027年度）まで維持される見通しです。

図表 児童数・学級数の短期推計（人、学級）



図表 児童数・学級数の短期推計／学年別（人、学級、％）

	児童数								学級数						
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	割合	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
令和3年度	14	6	12	24	15	22	93	100%	1	1	1	1	1	1	6
令和4年度	13	14	6	12	24	15	84	90%	1	1	1	1	1	1	6
令和5年度	16	13	14	6	12	24	85	91%	1	1	1	1	1	1	6
令和6年度	9	16	13	14	6	12	70	75%	1	1	1	1	1	1	6
令和7年度	13	9	16	13	14	6	71	76%	1	1	1	1	1	1	6
令和8年度	8	13	9	16	13	14	73	78%	1	1	1	1	1	1	6
令和9年度	13	8	13	9	16	13	72	77%	1	1	1	1	1	1	6

※学級数は普通学級のみを記載。割合は令和3年度の児童生徒数を100%としたもの。

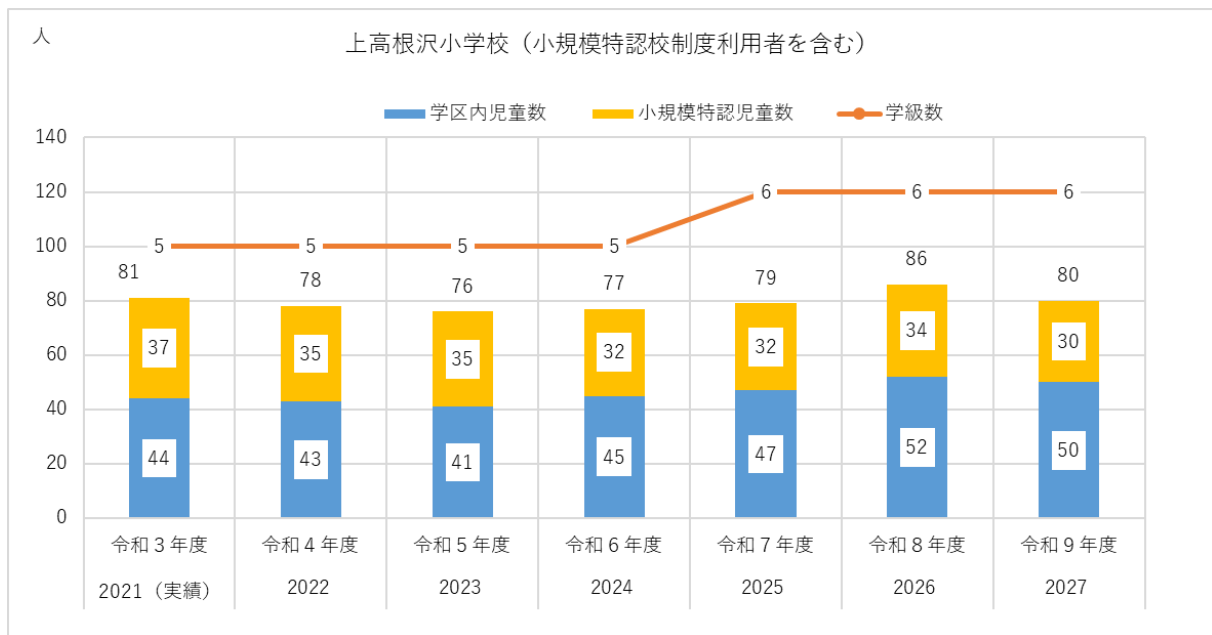
【上高根沢小学校】

ア 小規模特認校制度利用者を含む推計

上高根沢小学校の児童数（小規模特認校制度利用者を各年 5 人分加えた推計）は、令和 3 年度（2021 年度）実績の 81 人から、年度によって若干増減し、令和 9 年度（2027 年度）は 80 人になる見通しです。

学級数は、令和 3 年度（2021 年度）から 2 年生・3 年生を合わせて 16 人となったため、2 学年を 1 学級で編成する複式学級が現れ、5 学級となりました。複式学級は令和 6 年度（2024 年度）まで続き、令和 7 年度（2025 年度）以降は再び 6 学級、1 学年当たり 1 学級になる見通しです。

図表 児童数・学級数の短期推計（小規模特認校制度利用者を含む）（人、学級）



図表 児童数・学級数の短期推計（小規模特認校制度利用者を含む）／学年別（人、学級、%）

	児童数								学級数						
	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	計	割合	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	計
令和 3 年度	18	6	10	16	15	16	81	100%	1	1	—	1	1	1	5
令和 4 年度	13	18	6	10	16	15	78	96%	1	1	1	—	1	1	5
令和 5 年度	13	13	18	6	10	16	76	94%	1	1	1	1	—	1	5
令和 6 年度	17	13	13	18	6	10	77	95%	1	1	1	1	1	—	5
令和 7 年度	12	17	13	13	18	6	79	98%	1	1	1	1	1	1	6
令和 8 年度	13	12	17	13	13	18	86	106%	1	1	1	1	1	1	6
令和 9 年度	12	13	12	17	13	13	80	99%	1	1	1	1	1	1	6

※学級数は普通学級のみを記載。割合は令和 3 年度の児童生徒数を 100%としたもの。

※複式学級：2 学年合計で、1 年生を含む場合 8 人以下、それ以外は 16 人以下の場合

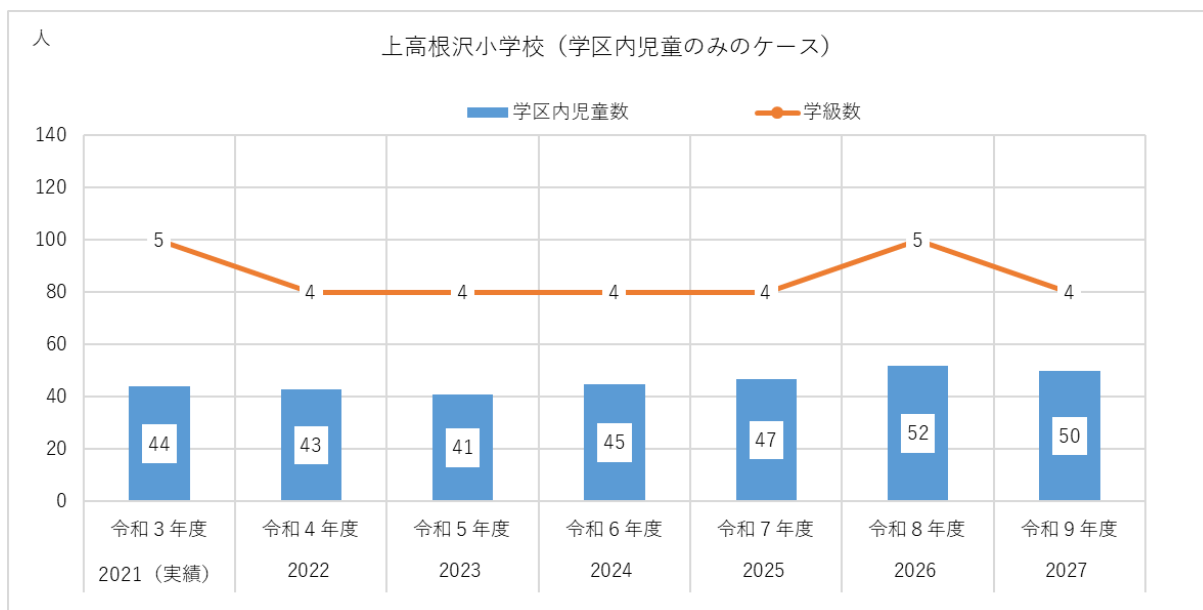
※令和 4 年度以降、1 年生は小規模特認校利用の平均実績（5 人）を加えている

イ (参考) 上高根沢小学校 (学区内児童のみの推計)

参考として、上高根沢小学校の学区内児童のみの児童数推計は、令和3年度(2021年度)実績の44人から、令和9年度(2027年度)は50人に微増する見通しです。

学級数は、令和3年度(2021年度)から2学年を1学級で編成する複式学級が1つ現れたため、5学級になり、令和4年度(2022年度)以降は全校で4~5学級、同年度に1~2つの複式学級の状況が続く見通しです。

図表 児童数・学級数の短期推計 (学区内児童のみ) (人、学級)



図表 児童数・学級数の短期推計 (学区内児童のみ) / 学年別 (人、学級、%)

	児童数								学級数						
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	割合	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
令和3年度	9	3	5	8	10	9	44	100%	1	1	-	1	1	1	5
令和4年度	8	9	3	5	8	10	43	98%	1	1	-	1	-	1	4
令和5年度	8	8	9	3	5	8	41	93%	1	1	1	-	1	-	4
令和6年度	12	8	8	9	3	5	45	102%	1	1	-	1	-	1	4
令和7年度	7	12	8	8	9	3	47	107%	1	1	1	-	1	-	4
令和8年度	8	7	12	8	8	9	52	118%	1	1	1	1	-	1	5
令和9年度	7	8	7	12	8	8	50	114%	1	1	-	1	1	-	4

※学級数は普通学級のみを記載。割合は令和3年度の児童生徒数を100%としたもの。

※複式学級：2学年合計で、1年生を含む場合8人以下、それ以外は16人以下の場合

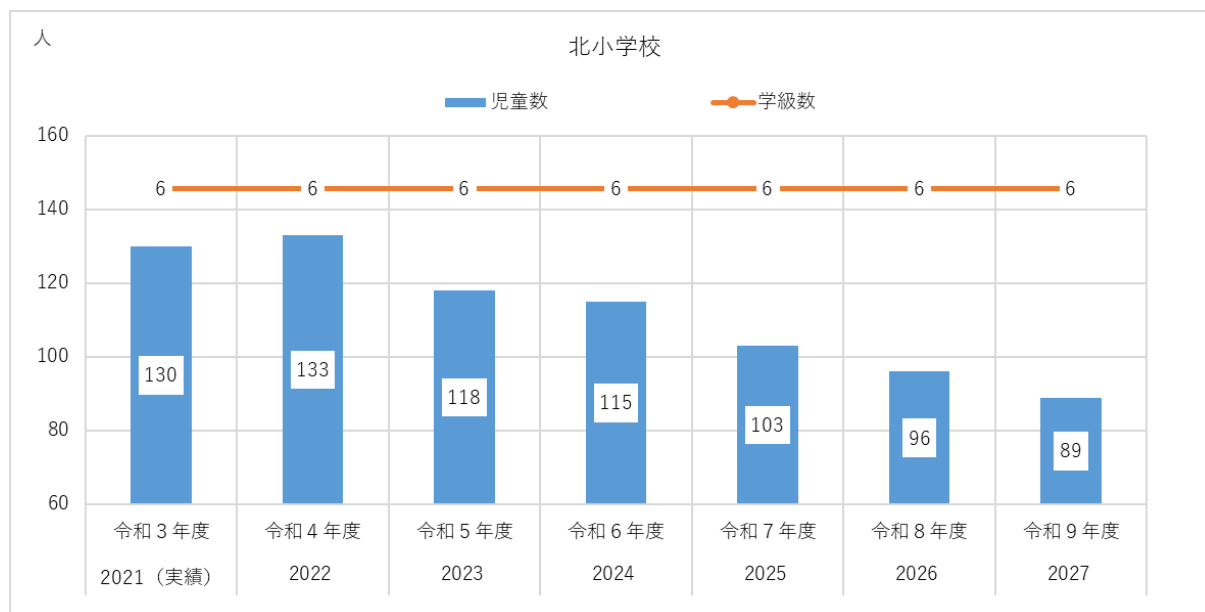
※小規模特認校制度による入学児童数を加えていない

【北小学校】

北小学校の児童数は、令和3年度（2021年度）実績の130人から令和9年度（2027年度）は89人に減少する見通しです。減少人数は41人です。

学級数は、令和3年度（2021年度）実績の6学級、1学年当たり1学級が令和9年度（2027年度）まで維持される見通しです。

図表 児童数・学級数の短期推計（人、学級）



図表 児童数・学級数の短期推計／学年別（人、学級、%）

	児童数								学級数						
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	割合	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
令和3年度	17	20	28	17	26	22	130	100%	1	1	1	1	1	1	6
令和4年度	25	17	20	28	17	26	133	102%	1	1	1	1	1	1	6
令和5年度	11	25	17	20	28	17	118	91%	1	1	1	1	1	1	6
令和6年度	14	11	25	17	20	28	115	88%	1	1	1	1	1	1	6
令和7年度	16	14	11	25	17	20	103	79%	1	1	1	1	1	1	6
令和8年度	13	16	14	11	25	17	96	74%	1	1	1	1	1	1	6
令和9年度	10	13	16	14	11	25	89	68%	1	1	1	1	1	1	6

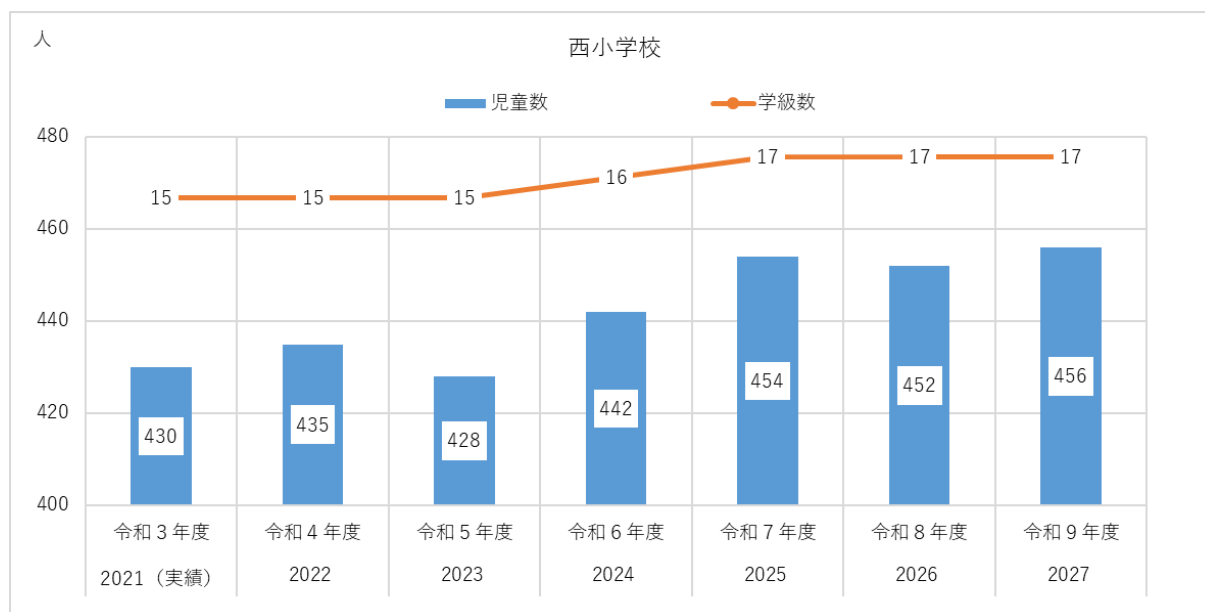
※学級数は普通学級のみを記載。割合は令和3年度の児童生徒数を100%としたもの。

【西小学校】

西小学校の児童数は、令和3年度（2021年度）実績の430人から令和9年度（2027年度）は456人に増加する見通しです。増加人数は26人です。

学級数は、令和3年度（2021年度）実績の15学級、1学年当たり2～3学級から、令和6年度（2024年度）は16学級、令和7年度（2024年度）以降は17学級に増え、3学級編成の学年が増える見通しです。

図表 児童数・学級数の短期推計（人、学級）



図表 児童数・学級数の短期推計／学年別（人、学級、％）

	児童数								学級数						
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	割合	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
令和3年度	75	73	69	70	71	72	430	100%	3	3	2	2	2	3	15
令和4年度	77	75	73	69	70	71	435	101%	3	3	3	2	2	2	15
令和5年度	64	77	75	73	69	70	428	100%	2	3	3	3	2	2	15
令和6年度	84	64	77	75	73	69	442	103%	3	2	3	3	3	2	16
令和7年度	81	84	64	77	75	73	454	106%	3	3	2	3	3	3	17
令和8年度	71	81	84	64	77	75	452	105%	3	3	3	2	3	3	17
令和9年度	79	71	81	84	64	77	456	106%	3	3	3	3	2	3	17

※学級数は普通学級のみを記載。割合は令和3年度の児童生徒数を100%としたもの。

※令和4年度以降、1年生は小規模特認校利用の平均実績（2人）を引いている。

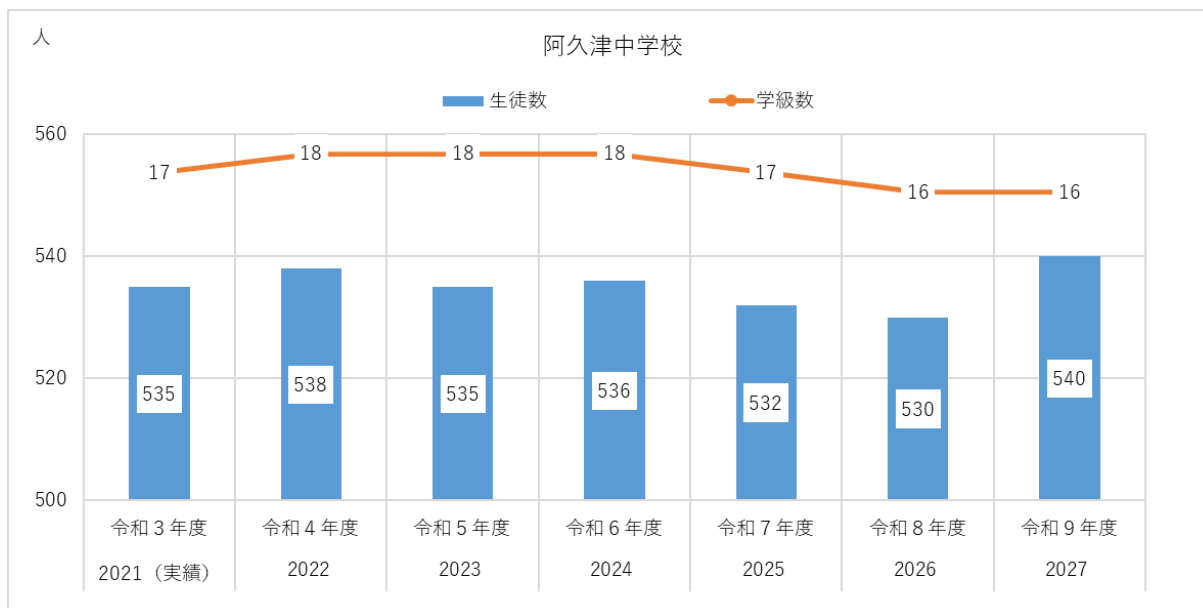
②中学校生徒数・学級数（学校規模）の短期推計

【阿久津中学校】

阿久津中学校の生徒数は、令和3年度（2021年度）実績の535人から、年度によって若干の増減となります。令和9年度（2027年度）は540人になる見通しです。

学級数は、令和3年度（2021年度）実績の17学級、1学年当たり5～6学級ですが、令和4年度（2022年度）から令和6年度（2024年度）は18学級に増え、全学年で6学級編成になる見通しです。令和7年度（2024年度）は17学級、令和8年度（2025年度）以降は16学級になり、再び1学年当たり5～6学級になる見通しです。

図表 生徒数・学級数の短期推計（人、学級）



図表 生徒数・学級数の短期推計／学年別（人、学級、％）

	生徒数					学級数			
	1年生	2年生	3年生	計	割合	1年生	2年生	3年生	計
令和3年度	183	179	173	535	100%	6	6	5	17
令和4年度	176	183	179	538	101%	6	6	6	18
令和5年度	176	176	183	535	100%	6	6	6	18
令和6年度	184	176	176	536	100%	6	6	6	18
令和7年度	172	184	176	532	99%	5	6	6	17
令和8年度	174	172	184	530	99%	5	5	6	16
令和9年度	194	174	172	540	101%	6	5	5	16

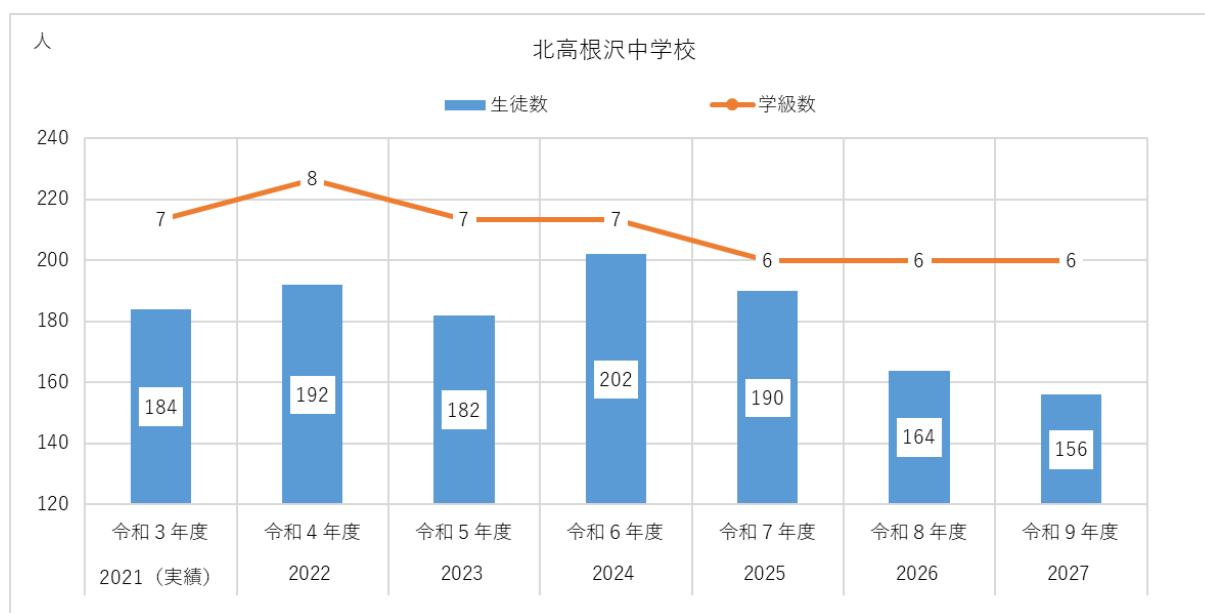
※学級数は普通学級のみを記載。割合は令和3年度の児童生徒数を100%としたもの。

【北高根沢中学校】

北高根沢中学校の生徒数は、令和3年度（2021年度）実績の184人から令和6年度（2024年度）は202人に増加します。その後は再び減少し、令和9年度（2027年度）は156人になる見通しです。

学級数は、令和3年度（2021年度）実績の7学級、1学年当たり2～3学級ですが、令和4年度（2022年度）は8学級に増えます。令和5年度（2023年度）から再び7学級になり、令和7年度（2024年度）以降は6学級、全学年で2学級編成になる見通しです。

図表 生徒数・学級数の短期推計（人、学級）



図表 生徒数・学級数の短期推計／学年別（人、学級、％）

	生徒数					学級数			
	1年生	2年生	3年生	計	割合	1年生	2年生	3年生	計
令和3年度	47	74	63	184	100%	2	3	2	7
令和4年度	71	47	74	192	104%	3	2	3	8
令和5年度	64	71	47	182	99%	2	3	2	7
令和6年度	67	64	71	202	110%	2	2	3	7
令和7年度	59	67	64	190	103%	2	2	2	6
令和8年度	38	59	67	164	89%	2	2	2	6
令和9年度	59	38	59	156	85%	2	2	2	6

※学級数は普通学級のみを記載。割合は令和3年度の児童生徒数を100%としたもの。

(3) 長期推計（人口推計に基づく児童生徒数・学級数推計／令和 52 年度（2070 年度）まで）

令和 52 年度（2070 年度）までの高根沢町人口推計（令和 2 年 11 月時点）を用いて、当該年度の就学年齢推計人口に学校別児童生徒数比率（令和 3 年度実績）を掛け合わせた、令和 10 年度（2028 年度）以降の小・中学校別児童生徒数・学級数の長期推計結果を示します。

* 長期推計を見る際の注意点

長期推計は平成 27 年～令和 2 年における性別・年齢（1 歳毎）別人口の前年と翌年の変化率の実績を用いて算出したものです。この変化率には、町内で生まれた子どもが小学校入学前に転出する社会動態も含まれており、短期推計とは異なった手法での推計となっています。

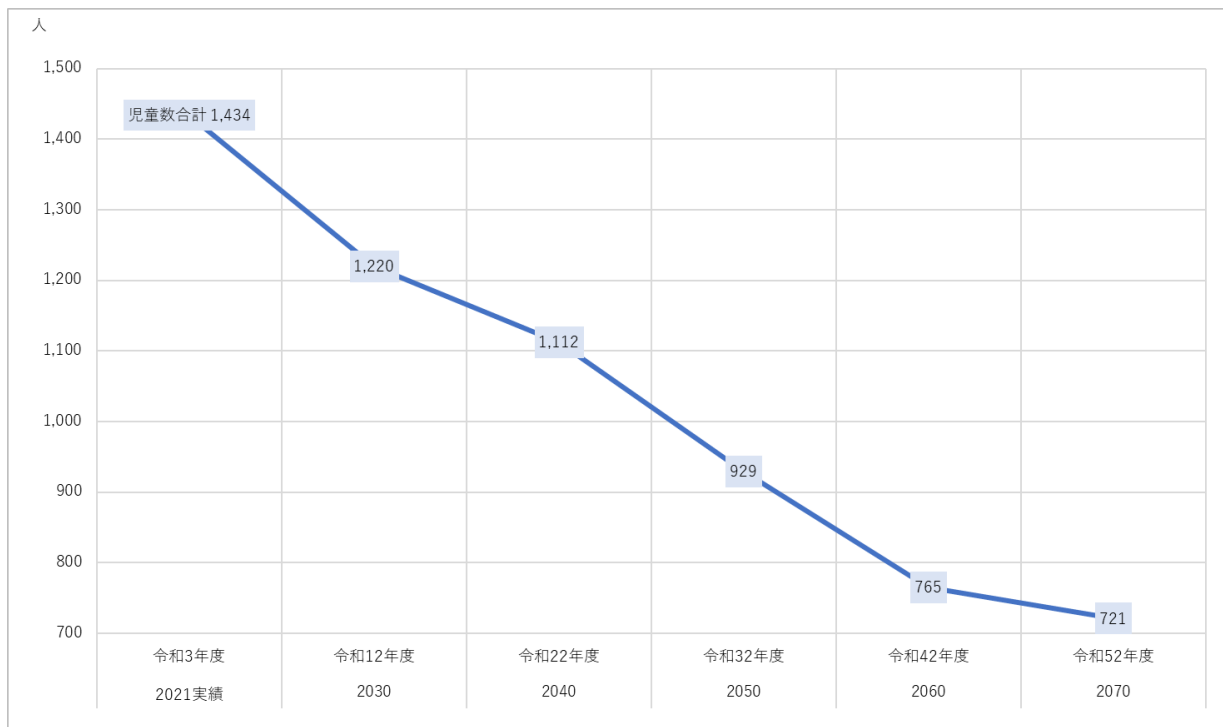
また、この推計は、私立校、町外、特別支援学校入学者等の減少分を加味していません。

① 小学校児童数・学級数（学校規模）の長期推計

小学校児童数の長期推計では、令和 3 年度（2021 年度）実績の 1,434 人から 10 年後の令和 22 年度（2030 年度）は 1,220 人となり、10 年間で 214 人減少する見通しです。

その後も令和 42 年度（2060 年度）までの 10 年毎におよそ 40～180 人減少します。令和 52 年度（2070 年度）は 721 人となり、向こう 50 年間でおよそ半減する見通しです。

図表 小学校児童数の長期推計



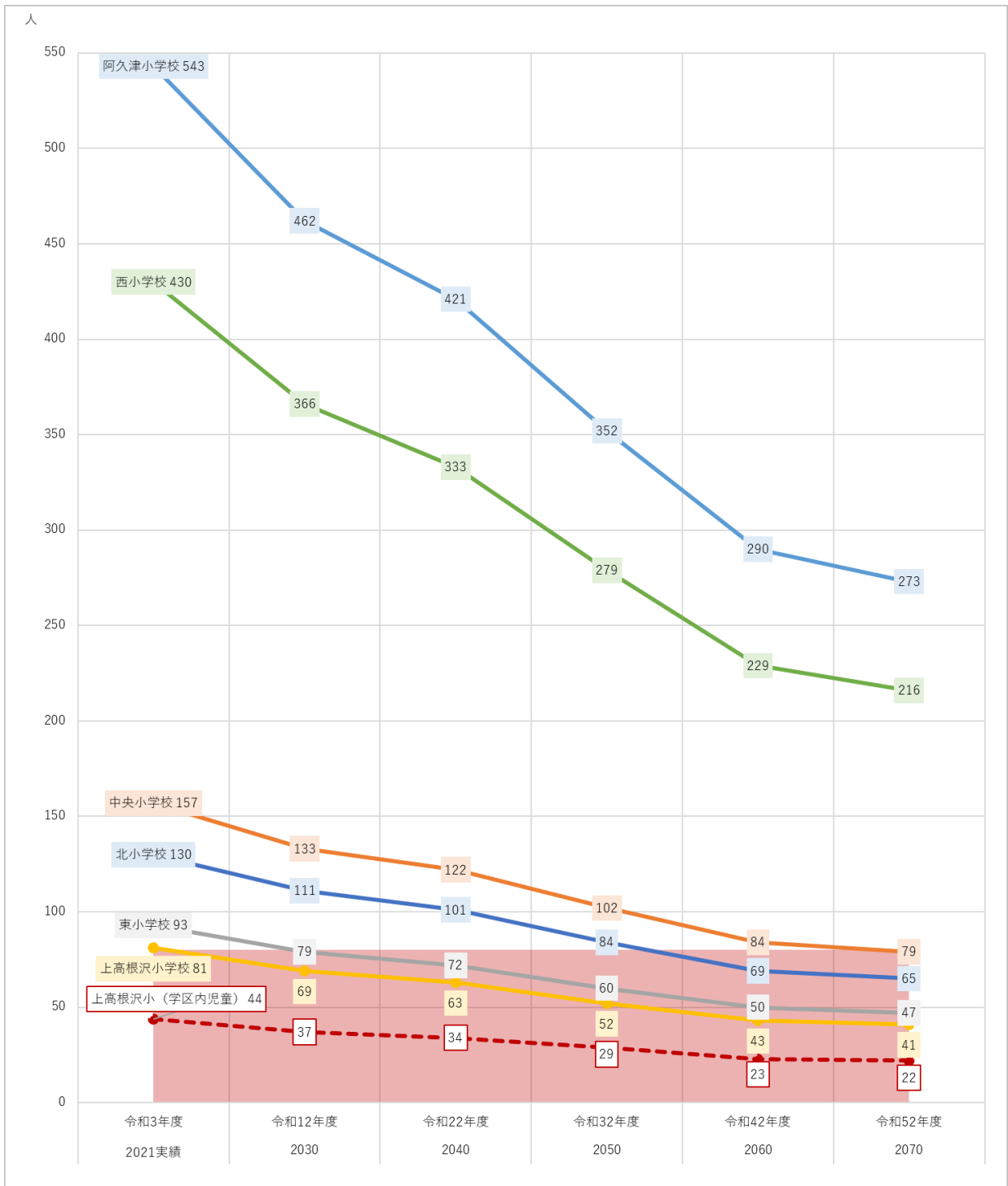
小学校別児童数の長期推計では、全ての小学校で減少する見通しです。なお、上高根沢小学校の前回あるいは今回の複式化の状況を踏まえると、複式化が生じる可能性は全校児童数が80人を下回ることがひとつの目安と考えられます。

各学校の児童数の長期推計の結果は次のとおりです。（児童数の多い順に記述）

- 阿久津小学校は、令和3年度（2021年度）実績の543人から、令和52年度（2070年度）は273人となる見通しです。向こう50年間の減少人数は270人です。
- 西小学校は、令和3年度（2021年度）実績の430人から、令和52年度（2070年度）は216人となる見通しです。向こう50年間の減少人数は214人です。
- 中央小学校は、令和3年度（2021年度）実績の157人から、令和52年度（2070年度）は79人となる見通しです。向こう50年間の減少人数は78人です。
- 北小学校は、令和3年度（2021年度）実績の130人から、令和52年度（2070年度）は65人となる見通しです。向こう50年間の減少人数は65人です。また、令和32年度（2050年度）以降に複式化が生じる可能性の目安となる全校児童数80人を下回る見通しです。
- 東小学校は、令和3年度（2021年度）実績の93人から、令和52年度（2070年度）は47人となる見通しです。向こう50年間の減少人数は46人です。また、令和12年度（2030年度）頃までの間に複式化が生じる可能性の目安となる全校児童数80人を下回る見通しです。
- 上高根沢小学校（小規模特認校制度利用者を含む推計）は、令和3年度（2021年度）実績の81人から、令和52年度（2070年度）は41人となる見通しです。向こう50年間の減少人数は40人です。なお、令和12年度（2030年度）頃までの間に複式化が生じる可能性の目安となる全校児童数80人を下回る見通しです。
- 参考として上高根沢小学校（学区内児童のみの推計）は、令和3年度（2021年度）実績の44人から、令和52年度（2070年度）は22人となる見通しです。向こう50年間の減少人数は24人です。

（図表は次ページ）

図表 小学校別児童数の長期推計



小学校別に児童数の長期推計に基づき、学級数（学校規模）の令和10年度（2028年度）から令和52年度（2070年度）のシミュレーション結果を示します。学校規模は国の分類を参考とします。

*シミュレーション条件

- ①1学級35人以下（現行基準と同じく、1学年36人の場合は18人×2学級）
- ②1学級の平均人数が8人以下の場合、複式学級（2学年で1学級）とする

*学校規模（国の分類）（再掲）

図表（国）学校規模の分類

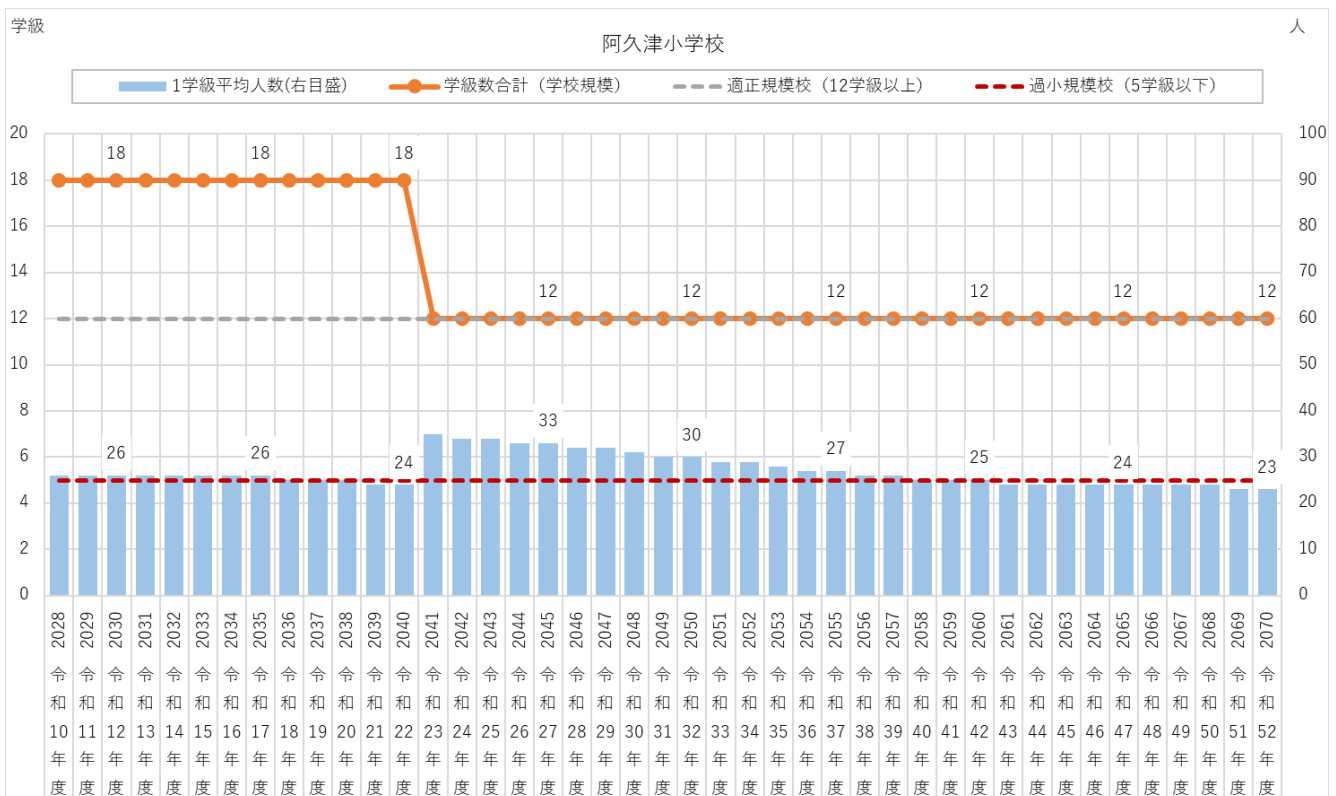
分類	過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校
小学校	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～30学級
中学校	1～2学級	3～11学級		
備考	1つ以上の複式学級	1学年1学級以上	—	—

資料：公立小・中学校の国庫負担事業認定申請の手引（文部科学省）

【阿久津小学校】

令和22年度（2040年度）頃まで18学級が維持されます。令和23年度（2041年度）以降も12学級の適正規模校が維持される見通しです。

図表 長期推計に基づく学級数（学校規模）シミュレーション

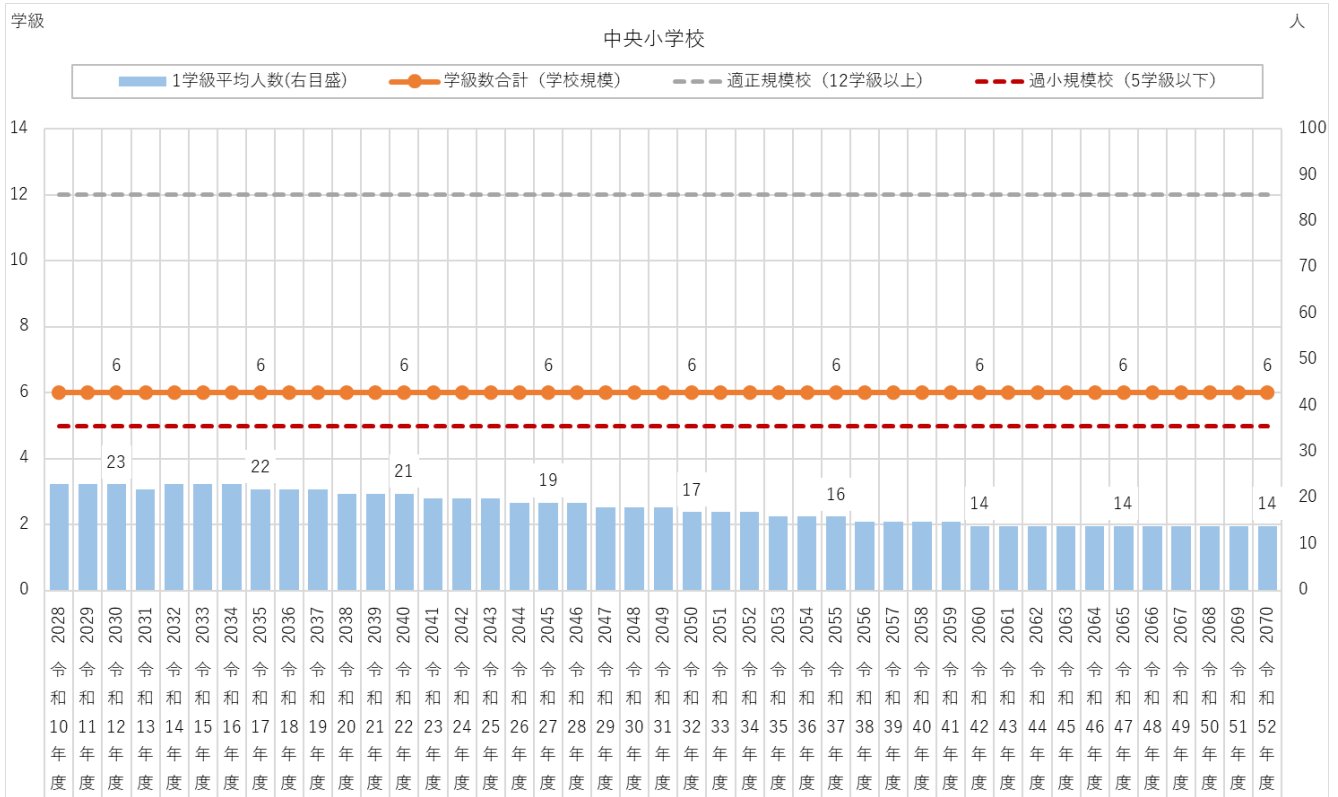


※水色の棒グラフは、1学級の平均人数

【中央小学校】

令和 52 年度（2070 年度）まで 6 学級（1 学年 1 学級）の小規模校が維持される見通しです。
 ただし、1 学級平均人数は令和 26 年度（2044 年度）頃から 10 人台に減少します。

図表 長期推計に基づく学級数（学校規模）シミュレーション



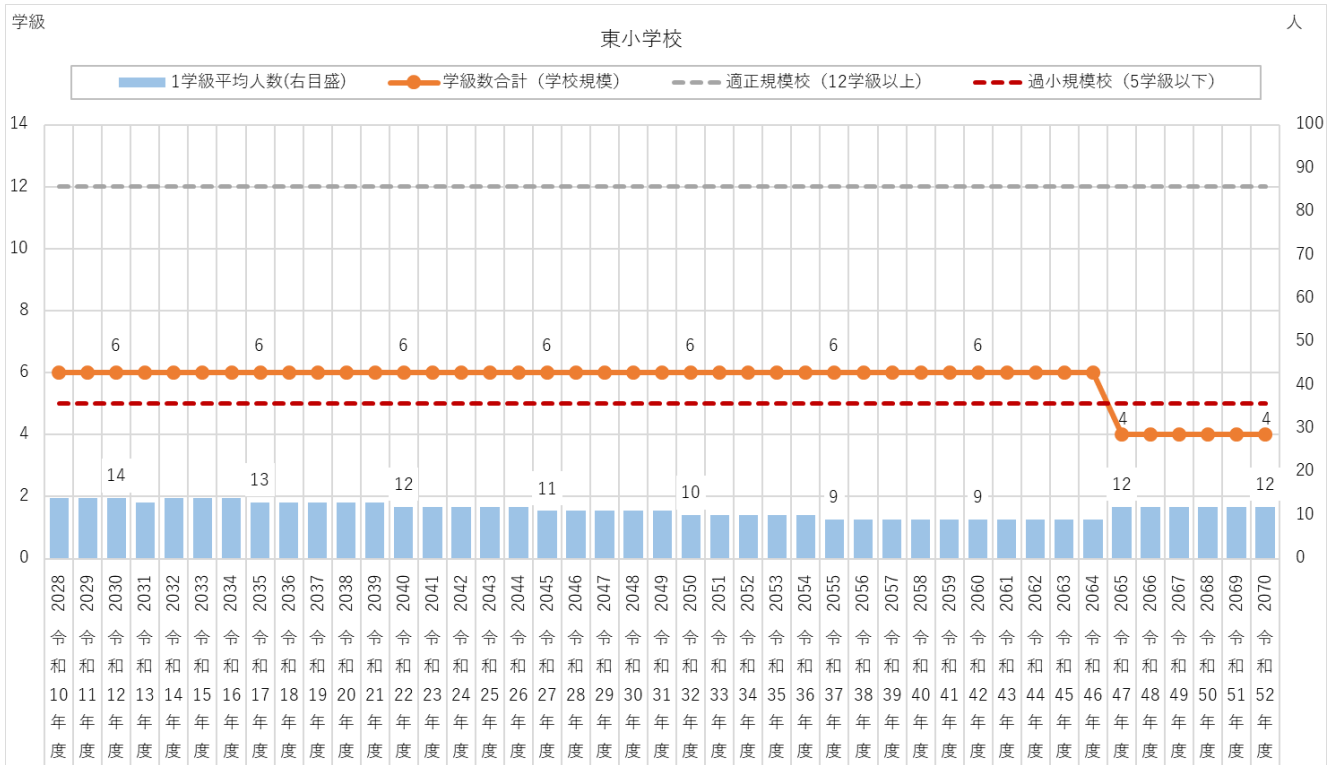
※水色の棒グラフは、1 学級の平均人数

【東小学校】

令和46年度(2064年度)頃まで6学級(1学年1学級)の小規模校が維持される見通しです。
 ただし、1学級平均人数は年々減少し続け、令和16年度(2034年度)頃から複式学級が生じる
 可能性の目安となる全校児童数80人を下回る状況になります。

令和47年度(2065年度)頃から複式学級が生じる「過小規模校」となる見通しです。

図表 長期推計に基づく学級数(学校規模)シミュレーション



※水色の棒グラフは、1学級の平均人数

【上高根沢小学校】

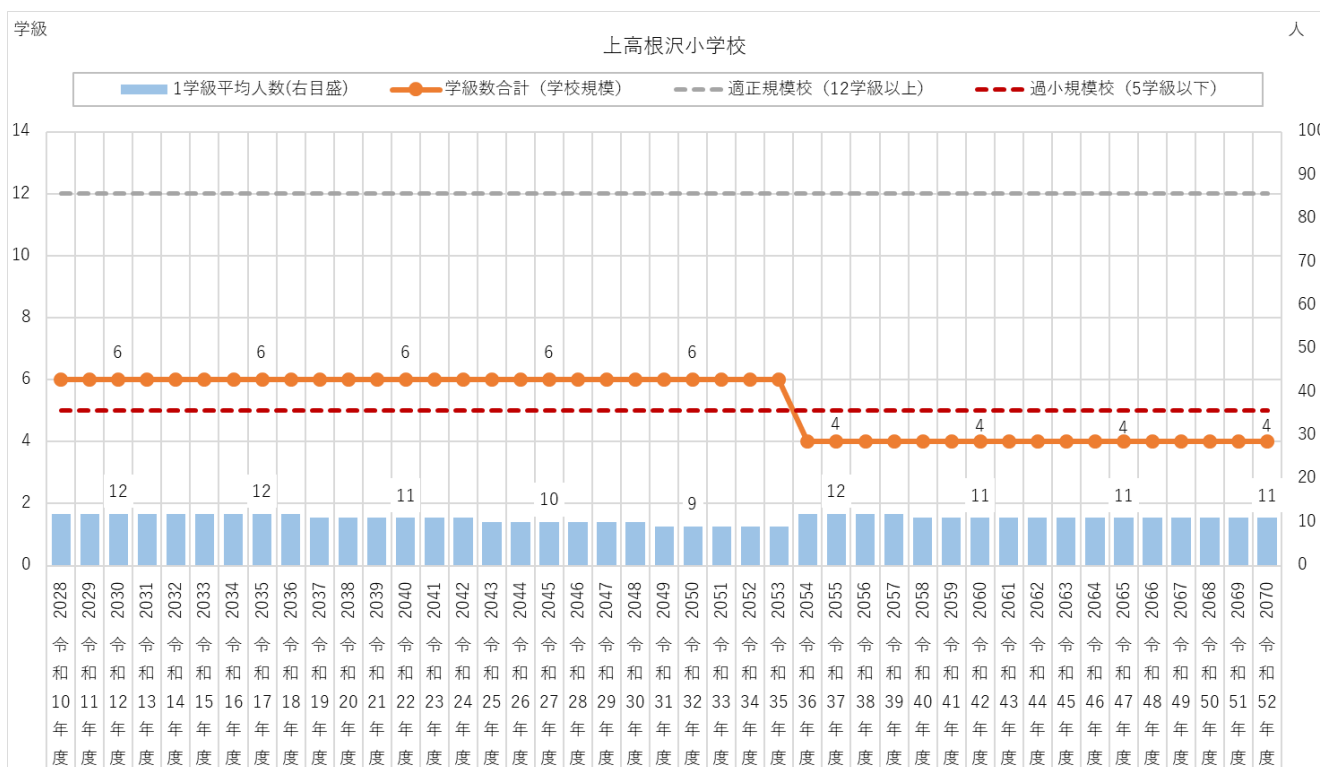
ア 小規模特認校制度利用者を含む推計

令和3年度(2022年度)から複式学級が生じましたが、前述の実数ベースの短期推計によると、令和7年度(2025年度)から6学級に戻る見通しです。

令和10年度(2028年度)からの長期推計では、令和35年度(2055年度)頃まで6学級(1学年1学級)の小規模校が維持される見通しです。

ただし、令和10年度(2028年度)には既に複式学級が生じる可能性の目安となる全校児童数80人を下回る状況になっており、令和36年度(2054年度)頃から再び複式学級が生じる「過小規模校」となる見通しです。

図表 長期推計に基づく学級数(学校規模)シミュレーション

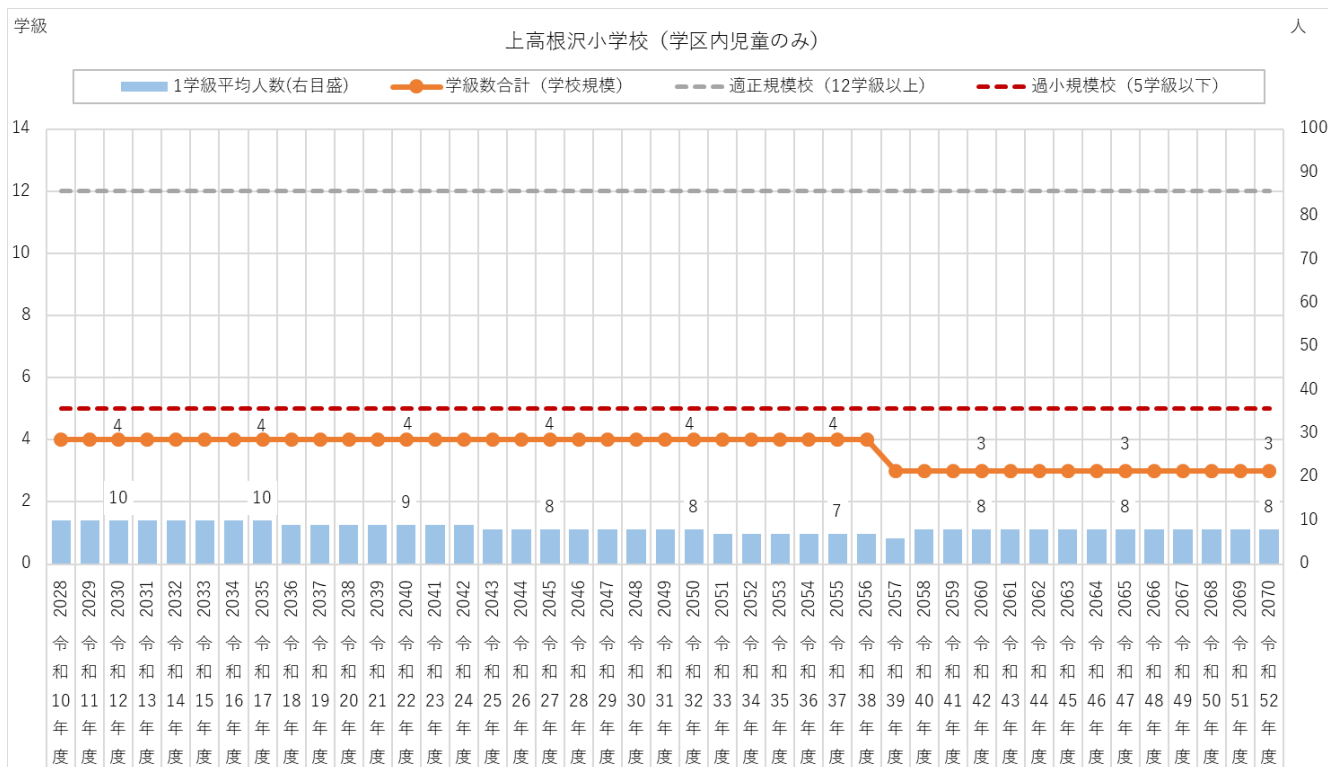


※水色の棒グラフは、1学級の平均人数

イ (参考) 上高根沢小学校 (学区内児童のみの推計)

参考として、学区内児童のみの児童数推計は、令和3年度(2021年度)実績は44人、令和10年度(2028年度)推計は37人、令和52年度(2070年度)推計は22人の見通しです。

図表 長期推計に基づく学級数(学校規模)シミュレーション



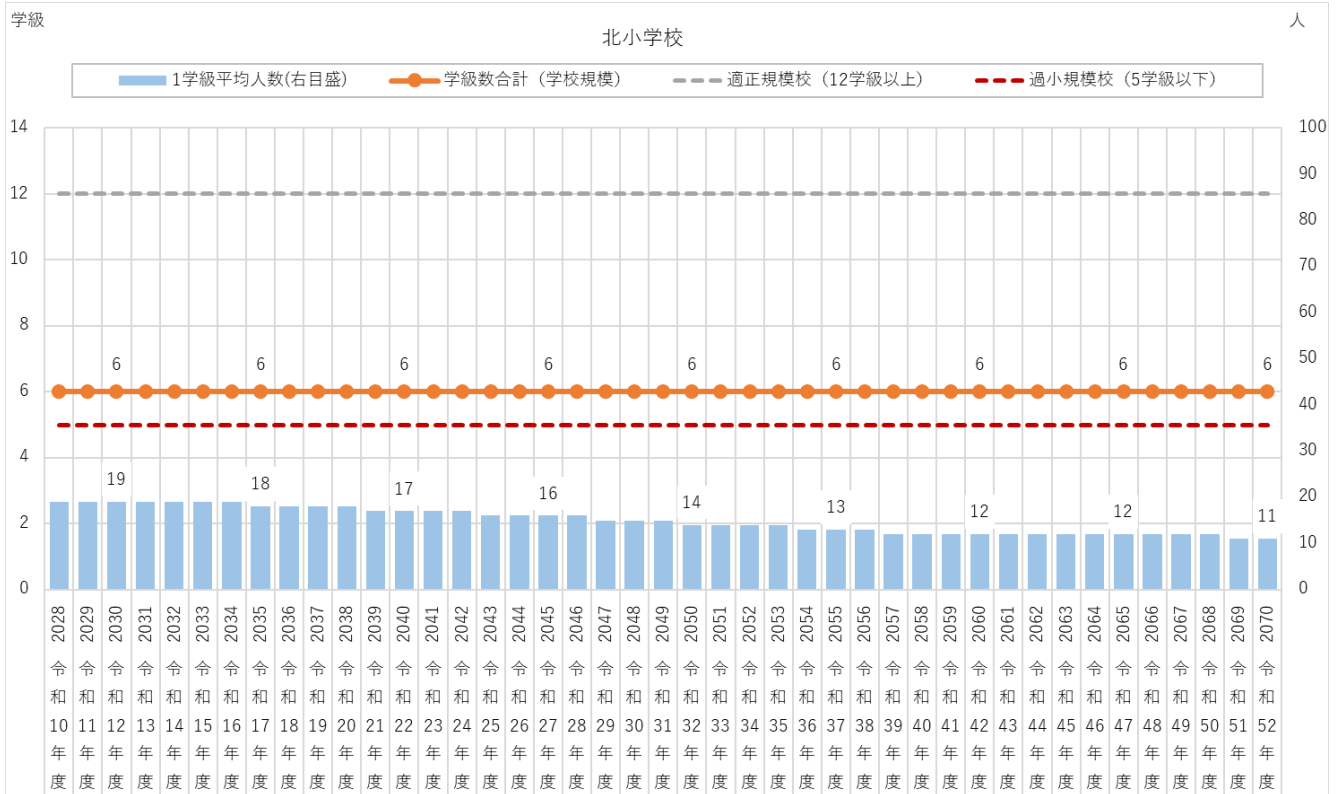
※水色の棒グラフは、1学級の平均人数

【北小学校】

令和 52 年度（2070 年度）まで 6 学級（1 学年 1 学級）の小規模校が維持される見通しです。

ただし、1 学級平均人数は年々減少し続け、令和 10 年度（2028 年度）頃には 20 人を下回る見通しです。さらに令和 35 年度（2053 年度）頃から複式学級が生じる可能性の目安となる全校児童数 80 人を下回る状況になる見通しです。

図表 長期推計に基づく学級数（学校規模）シミュレーション



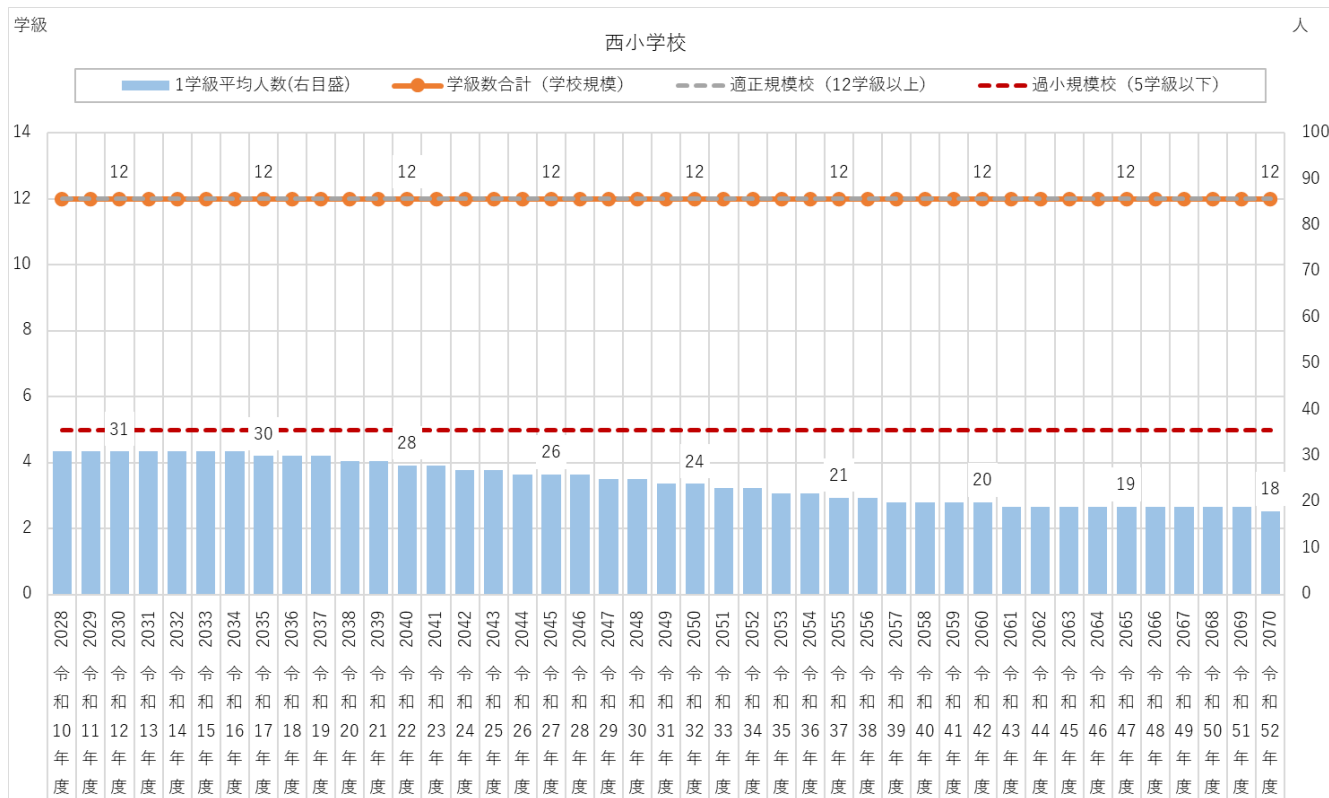
※水色の棒グラフは、1 学級の平均人数

【西小学校】

令和 50 年度（2068 年度）頃まで 12 学級の適正規模校が維持される見通しです。

ただし、1 学級平均人数は年々減少し続け、令和 43 年度（2061 年度）頃から 20 人を下回る見通しです。

図表 長期推計に基づく学級数（学校規模）シミュレーション



※水色の棒グラフは、1 学級の平均人数

【小学校／将来の学校規模シミュレーションまとめ】

30年後の令和32年度（2050年度）頃まで、適正規模校2校と小規模校4校は維持される見通しです。ただし、この間も各学校の1学級の児童数は減少し続け、特に東小学校と上高根沢小学校（小規模特認校制度による児童数）では複式学級が生じる可能性の目安となる全校児童数80人を下回る状況が続く見通しです。

その後、40年後の令和42年度（2060年度）頃までに過小規模校が出現し、50年後の令和52年度（2070年度）頃には適正規模校2校、小規模校2校、過小規模校2校となる見通しです。

図表 長期推計に基づく学級数（学校規模）シミュレーション（10年毎）

	10年後	20年後	30年後	40年後	50年後
	令和12年度 2030	令和22年度 2040	令和32年度 2050	令和42年度 2060	令和52年度 2070
阿久津小学校	適正規模校 (18)	適正規模校 (12)	適正規模校 (12)	適正規模校 (12)	適正規模校 (12)
中央小学校	小規模校 (6)	小規模校 (6)	小規模校 (6)	小規模校 (6)	小規模校 (6)
東小学校	小規模校 (6)	小規模校 (6)	小規模校 (6)	小規模校 (6)	過小規模校 (5)
上高根沢小学校	小規模校 (6)	小規模校 (6)	小規模校 (6)	過小規模校 (5)	過小規模校 (5)
北小学校	小規模校 (6)	小規模校 (6)	小規模校 (6)	小規模校 (6)	小規模校 (6)
西小学校	適正規模校 (12)	適正規模校 (12)	適正規模校 (12)	適正規模校 (12)	適正規模校 (12)

※ピンク色：複式化が生じる可能性（全校児童数80人を下回る）

図表 小学校の学級数（学校規模）（令和3年度）

					上高根沢	中央									西				阿久津
						東													
						北													
1学級	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		



図表 小学校の学級数（学校規模）シミュレーション（令和52年度（2070年度））

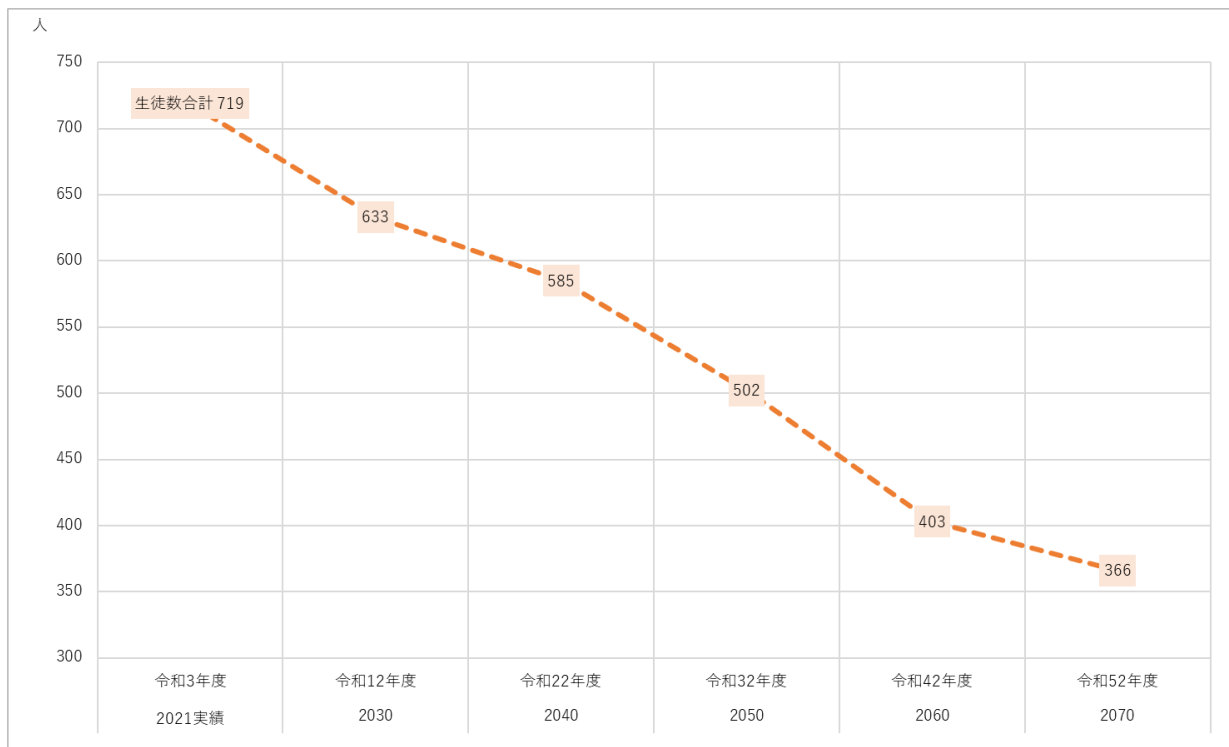
					中央									阿久津				西	
					東														北
					上高根沢														
1学級	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		
過小規模校					小規模校					適正規模校									

②中学校生徒数・学級数（学校規模）の長期推計

中学校生徒数の長期推計では、令和3年度（2021年度）実績の719人から10年後の令和12年度（2030年度）は633人となり、10年間で86人減少する見通しです。

その後は10年毎におよそ30～100人減少し、令和52年度（2070年度）は366人となり、向こう50年間でおよそ半減する見通しです。

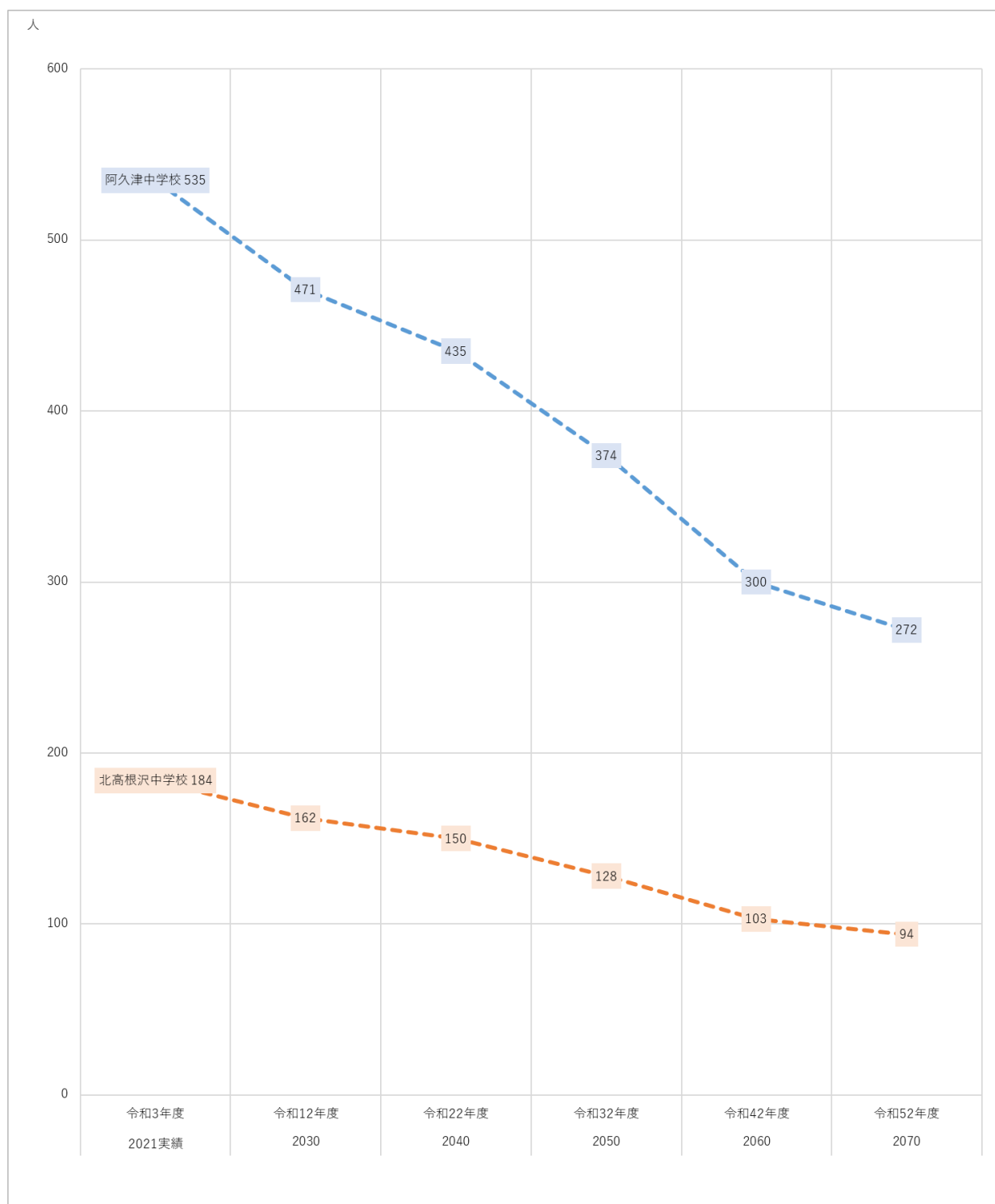
図表 中学校生徒数の長期推計



中学校別生徒数の長期推計は次のとおりです。

- 阿久津中学校は、令和3年度（2021年度）実績の535人から、令和52年度（2070年度）は272人となる見通しです。向こう50年間の減少人数は263人です。
- 北高根沢中学校は、令和3年度（2021年度）実績の184人から、令和52年度（2070年度）は94人となる見通しです。向こう50年間の減少人数は90人です。

図表 中学校別生徒数の長期推計



中学校別に生徒数の長期推計に基づき、学級数（学校規模）の令和 10 年度（2028 年度）から令和 52 年度（2070 年度）のシミュレーション結果を示します。学校規模は国の分類を参考とします。

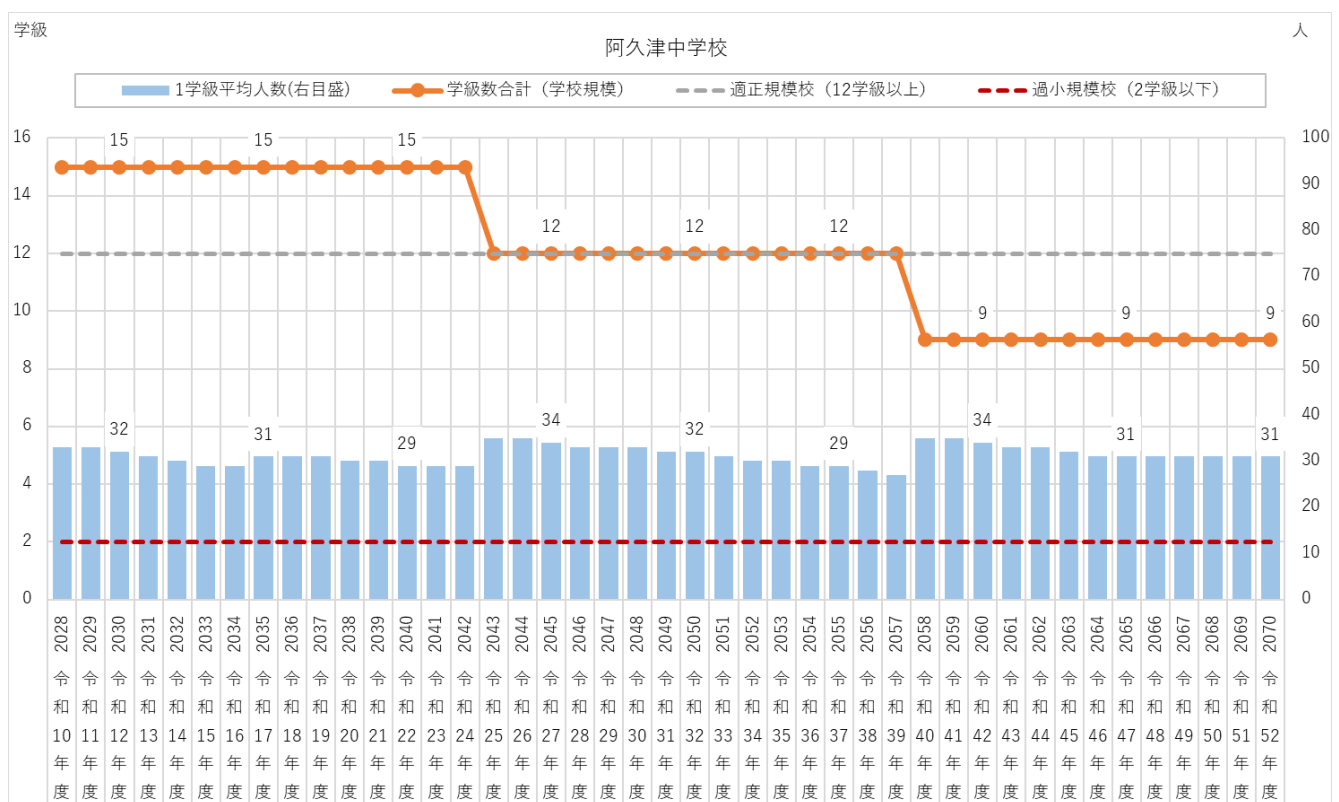
*シミュレーション条件、学校規模（国の分類）は小学校と同じ

【阿久津中学校】

令和 38 年度（2056 年度）頃まで 12～15 学級の適正規模校が維持される見通しです。

令和 40 年度（2058 年度）頃から 9 学級になり、小規模校となる見通しですが、全ての授業で教科担任による学習指導等を行うために望ましいとされる 9 学級は確保できる見通しです。

図表 長期推計に基づく学級数（学校規模）シミュレーション



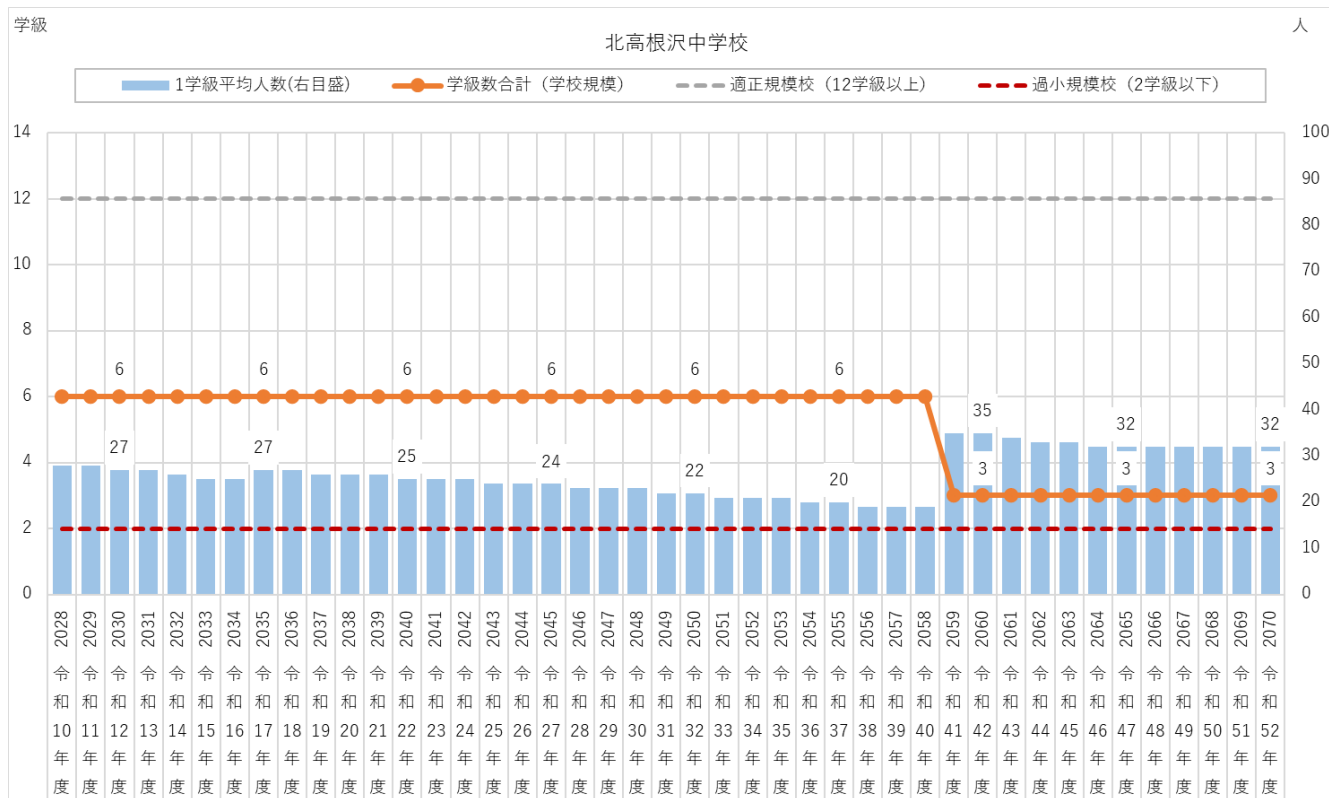
※水色の棒グラフは、1学級の平均人数

【北高根沢中学校】

令和40年度（2058年度）頃まで6学級の小規模校が維持される見通しです。

ただし、1学級平均人数は減少し続け、令和41年度（2059年度）頃に3学級になる見通しです。

図表 長期推計に基づく学級数（学校規模）シミュレーション



※水色の棒グラフは、1学級の平均人数

【中学校／将来の学校規模シミュレーションまとめ】

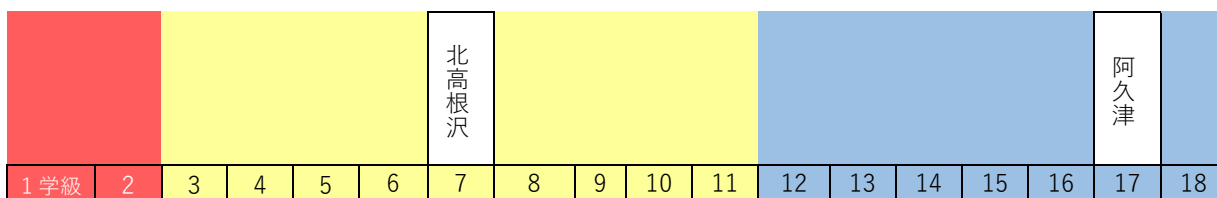
およそ 30 年後の令和 32 年度（2050 年度）頃までは適正規模校 1 校と小規模校 1 校が維持される見通しです。

ただし、1 学級の人数は減少し続けるため、その後は小規模校 2 校となる見通しです。

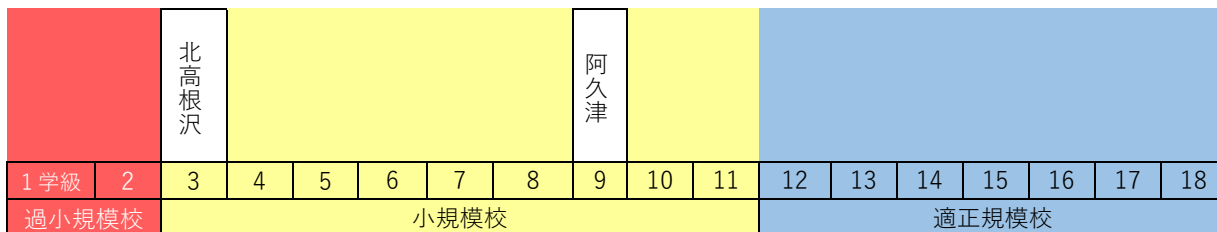
図表 長期推計に基づく学級数（学校規模）シミュレーション（10 年毎）

	10 年後	20 年後	30 年後	40 年後	50 年後
	令和 12 年度 2030	令和 22 年度 2040	令和 32 年度 2050	令和 42 年度 2060	令和 52 年度 2070
阿久津中学校	適正規模校 (15)	適正規模校 (12)	適正規模校 (12)	小規模校 (9)	小規模校 (9)
北高根沢中学校	小規模校 (6)	小規模校 (6)	小規模校 (6)	小規模校 (3)	小規模校 (3)

図表 中学校の学級数（学校規模）（令和 3 年度）



図表 中学校の学級数（学校規模）シミュレーション（令和 52 年度（2070 年度））



4 学校の通学区域（学区）、通学手段

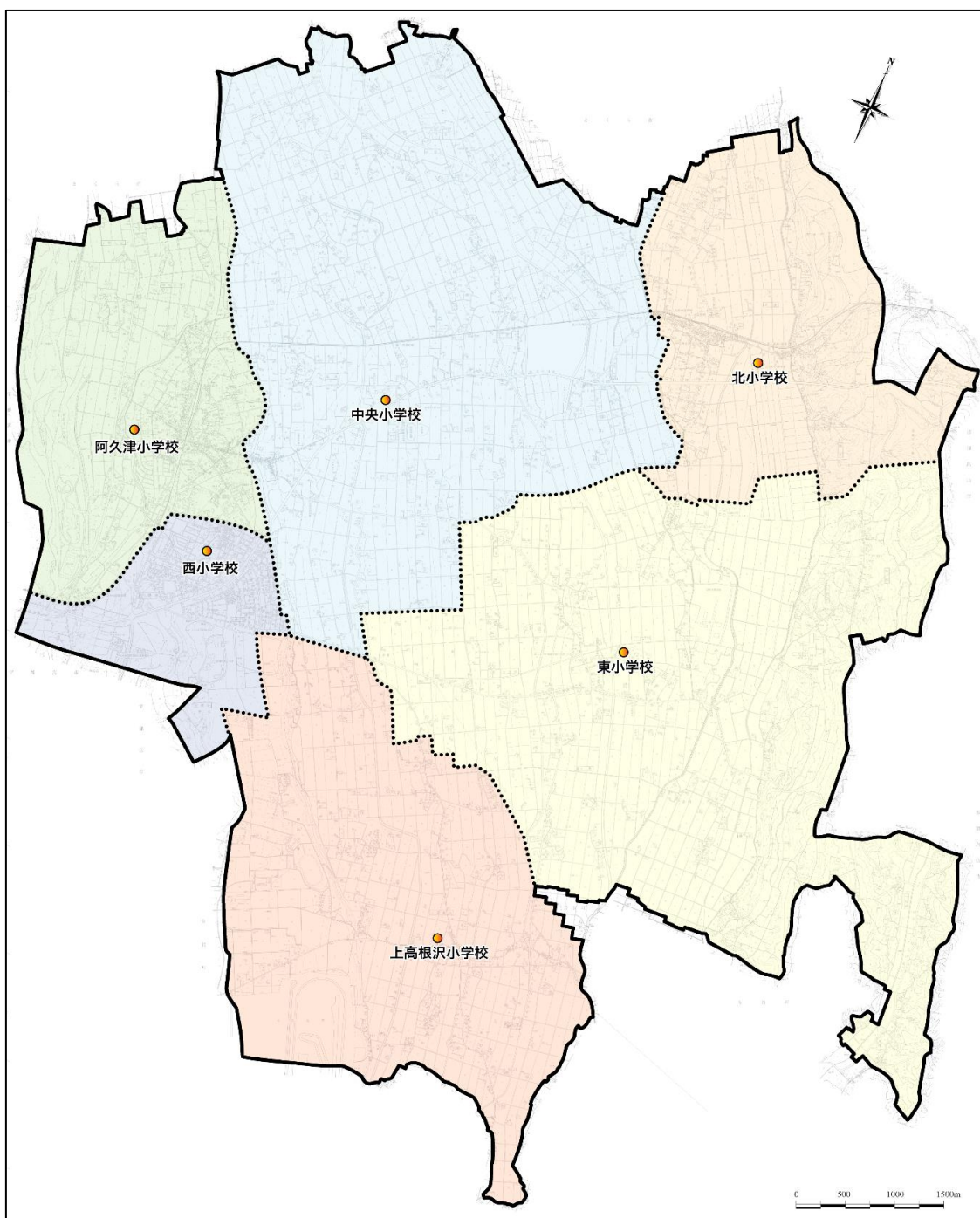
(1) 通学区域（学区）について

①通学区域（学区）の状況

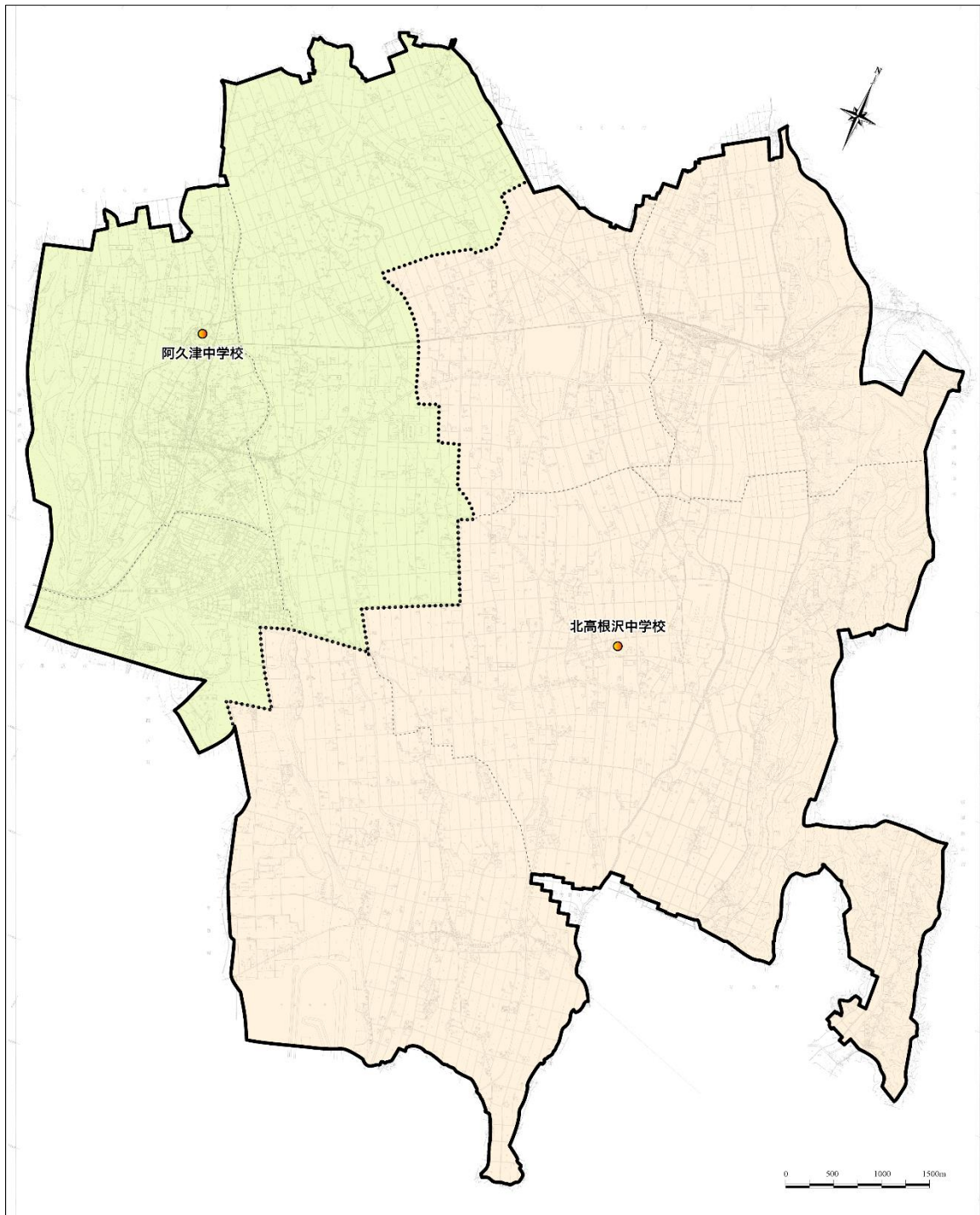
市町村教育委員会は、就学予定者が就学すべき小学校（中学校）を指定すること（学校教育法施行令第5条）とされており、それぞれの市町村教育委員会では、就学校の指定をする際の判断基準として、通学区域（学区）を定めています。

高根沢町の通学区域（学区）は次のとおりです。

図表 小学校の通学区域



図表 中学校の通学区域



《参考》

高根沢町立小、中学校通学区域に関する規則（別表）

学校名	所属地区名	備考
阿久津小学校	上阿久津、中阿久津、宝積寺	石末の一部地域を含み、宝積寺の一部地域を除く。
上高根沢小学校	上高根沢	石末の一部地域を含み、上高根沢の一部地域を除く。
北小学校	伏久、文挾、飯室、平田、柿木沢、狭間田	花岡、亀梨の一部地域を含み、平田、飯室の一部地域を除く。
東小学校	栗ヶ島、寺渡戸、太田、桑窪、上柏崎、亀梨、中柏崎、下柏崎	上高根沢、平田、西高谷、飯室、石末の一部地域を含み、亀梨の一部地域を除く。
中央小学校	花岡、石末、大谷、西高谷	花岡、石末、西高谷の一部地域を除く。
西小学校	光陽台、宝石台	宝積寺、石末の一部地域を含む。
阿久津中学校	上阿久津、中阿久津、宝積寺、宝石台、光陽台、石末、大谷	石末の一部地域を除く。
北高根沢中学校	上高根沢、栗ヶ島、寺渡戸、西高谷、花岡、平田、太田、桑窪、上柏崎、亀梨、中柏崎、下柏崎、飯室、文挾、伏久、柿木沢、狭間田	石末の一部地域を含む。

【小学校の通学区域】

阿小・北小・西小は一部で半径2 km圏超、上高小は半径約3 km圏、中央小は一部で半径3 km超、東小は一部で半径4 km 圏超の通学区域が定められています。現状として、地勢や経緯を踏まえ、バランスの取れた通学区域が構成されています。

・中央小の「中学校の通学区域（学区）」

中央小の「中学校の通学区域（学区）」については、石末・大谷地区が阿久津中学校、花岡・西高谷地区が北高根沢中学校と、通学区域が2つの中学校に分かれています。

これは、昭和52年に中央小が統合した際に、旧阿久津町の石末小・大谷小と、旧北高根沢村の花岡小が統合した経緯によるものです。

※中央小の「中学校の通学区域（学区）」が分かれていることの影響等

小学校で形成された児童・保護者のコミュニティが、中学校にそのまま全て引き継がれないことで、いわゆる中1ギャップが生じやすい場合や、中学校へのスムーズな接続が図られない場合が考えられます。これまでの事例として、中央小の児童が中学校に進学する際に、友達付き合い等を理由として、中学校の指定校変更の相談を受けた事例などがありました。

■通学区域（学区）の例外

原則、通学区域により指定される学校に通うこととなりますが、例外として、教育委員会の許可等により、指定校以外の学校に通う制度があります。

1 指定校変更及び区域外就学

町が定める認定基準に該当する“特別な事情”があると教育委員会が認める場合には、町内の他の学校に指定校を変更したり、町外の学校に区域外就学したりできる制度があります。

2 特認校制度

上高根沢小学校では、平成22年度に複式学級となったことを契機に小規模特認校制度を導入し、町内の他の学区から児童が通学しています。これにより平成23年度から複式学級は解消されています。

3 特別支援教育

障害のある児童生徒等、教育上特別な配慮が必要な児童・生徒については、教育委員会が設置する特別支援委員会において専門家による調査・審議を行った上で、特別支援学校などの就学先が決定されます。

②通学距離・通学時間の基準（目安）

国の手引きでは、徒歩や自転車による通学距離は、「小学校4 km・中学校6 km」という基準が妥当であると示されています。

また同様に、スクールバスなどの交通機関を利用した通学時間については、「おおむね1時間以内」を目安とすることが示されています。

(2) 児童生徒の通学の概況

① 徒歩、自転車及びスクールバス等利用による通学状況

小学校

		阿小	中央小	東小	上高小	北小	西小	計
通学方法 (人数)	徒歩	535	80	51	27	119	425	1,237
	スクールバス等	8	77	41	54	10	5	195
	保護者送迎等			1				1
	電車等					1		1
	計	543	157	93	81	130	430	1,434
スクールバス等利用率		1.5%	49.0%	44.1%	66.7%	7.7%	1.2%	
徒歩での最遠距離		2.0 km	2.6 km	2.2 km	1.9 km	1.8 km	1.5 km	

中学校

		阿中	北高中	計
通学方法 (人数)	徒歩	119		119
	自転車	408	184	592
	電車等	8		8
	計	535	184	719
自転車での最遠距離 (阿中は2 km以上が自転車)		6.0km	6.5 km	

※令和3年4月現在の状況

各小学校における徒歩での最遠距離は「1.5 km～2.6 km」、各中学校における自転車での最遠距離は「阿中：6.0 km、北中：6.5 km」となっており、おおむね国の手引きで示された「小学校4 km・中学校6 km」の基準内となっていますが、北中では6 kmを超える生徒が数名いる状況です。

スクールバス等は、住居から学校までの通学距離が2 km以上ある児童のうち希望者を対象に運行しています。

スクールバス等の利用人数は小学校全体で195人、利用割合は13.6%です。小規模校4校（中央小、東小、上高小、北小）における利用人数は合計で182人、利用割合は42.3%となっています。（令和3年4月現在）

※現在の「全小学校での運行」は、平成21年度11月から開始。それ以前は、中央小学校、東小学校のみでスクールバスを運行。（運行の業者委託は平成13年度から開始。）

《参考》

スクールバス等の運行状況

※令和3年4月現在の状況

小学校名	乗車人数	車両台数	乗車地区 または ルート (停留所)	車両等	乗車時間 乗車距離
阿久津小	8	2	中阿久津、上阿久津地区 (8人)	タクシー	約10分
中央小	77	3	天沼、花岡ルート (21人) (天沼入口→澤畑石材前→天沼→関場→阿久津医院前→下野花岡→下野西下→中央小)	中型バス	約20分 約6km
			四斗蒔、花岡ルート (36人) (観音前→四斗蒔→東入口→東原→花岡西→記念碑前→東下→中央小)	大型バス	約30分 約10km
			赤堀ルート (20人) ※東小桑窪ルートから中央小へ (赤堀公民館→赤堀公民館北→中央小)	小型バス	約15分 約4km
東小	41	3	桑窪ルート (14人) ※東小から中央小赤堀ルートへ (和田→徳明寺→新田→東小)	同上	約20分 約6km
			台新田、上太田・金井・栗ヶ島ルート (20人) (台新田公民館→親水公園入口→上太田天神宮→寺渡戸→金井東→栗ヶ島公民館→東小)	小型バス	約30分 約12km
			中柏崎、下柏崎地区 (7人) ※デマンド交通利用 (保護者負担なし)	たんたん号	約30分
上高小	54	2	上高小ルート (20人) ※小規模特認2人 (北小学区) 含む。 (文挾→石沼北→石沼→御料牧場南→西根集落センター→西根→上高小)	小型バス	約40分 約22km
			大谷・平田・栗ヶ島ルート (7人) ※小規模特認6人 (中央小・東小・北小学区) 含む。 (大谷→花岡→県営平田住宅→平田→太田→西根東→栗ヶ島→上高小)	ワゴン車	約35分 約17km
		7	学区外 (阿小・中央小・東小・西小学区) (27人) ※上高小学区外の小規模特認児童	タクシー等	約10~20分
北小	10	1	北小ルート (10人) (仁井田観光→広林寺→大用地→北小)	小型バス	約20分 約10km
西小	5	1	宝積寺 (石神) 地区 (5人)	タクシー	約10分
合計	195	18			

※乗車時間・乗車距離は、登校時の最遠乗車地点から。

②スクールバス等の通学時間

スクールバス等の乗車時間は、最長約 40 分程度であり、自宅から乗車場所までの移動時間を加えた通学時間は、国の手引きに示す「おおむね 1 時間以内」の基準内となっています。

※スクールタクシー

対象児童の少ない阿久津小学校・西小学校と、小規模特認校制度により学区外から通学する上高根沢小学校の一部については、効率的運行の観点から、スクールタクシー（乗用車・ワゴン車）を運行しています。

※デマンド交通（たんたん号）

東小学校の「中柏崎、下柏崎地区」は、学校からの距離が半径 4 km 圏を超える「町内で最も遠距離の通学区域」であり、平成 21 年度にデマンド交通システムを開始した際に、それまでの「タクシーによる送迎」から「デマンドバスによる送迎」に切り替え、利用料金を無料（保護者負担なし）として運行しています。

③スクールバス等の交通手段による影響（留意点）

国の手引きでは、スクールバス等の利用により通学時間が長くなったり、毎日の徒歩時間が減少したりすることにより、体力の低下や、放課後の遊び時間や家庭学習時間の減少、児童生徒の疲労への配慮といった様々な課題が生じることが考えられるものとしており、これらの課題解消のための取組として、次のような全国の事例が紹介されています。

- ・校門から一定の距離でスクールバス等を乗降車させて運動量を確保する。
- ・スクールバス等の中で音声教材を活用した学習活動を行うなど、乗車時間の有効活用を図る。

《参考》

スクールバス等の経費（コスト）

（令和 3 年度 当初契約額）

No.	区分	年額	摘要
1	スクールバス運行业務委託	35,662,937 円	中央小、東小、上高小、北小
2	スクールタクシー運行业務委託	7,200,000 円	阿小、上高小、西小
	合計	42,862,937 円	

④通学手段に関する検討

通学区域の変更や学校の統廃合等により、通学距離等が変更になる場合には、児童生徒の負担や安全面に配慮した上で、適切な通学手段の確保に取り組まなければならないことが課題となってくると思いますが、本町においては、既に全小学校においてスクールバス等を運行していることから、通学手段の整備に取り組むやすい状況にあると考えられます。

5 各学校の施設の状況

(1) 学校施設（老朽化）の状況

- ①小学校6校のうち、校舎棟の築年数が最も古いものは中央小学校（築44.4年）、次いで上高根沢小学校（築39.4年）です。
- ②下表で耐震改修していない施設は、1981(昭和56)年6月1日以降に建築確認において適用されている基準（以下「新耐震基準」という。）の建物、または耐震診断の結果、新耐震基準を満たしている建物であり、全ての施設が耐震化済みです。
- ③阿久津中学校の校舎棟は、令和7年度以降に大規模改修工事(長寿命化改良)を実施する予定です。

図表 学校施設老朽化の状況（令和3年7月1日現在）

No.	学校名	施設名	構造階	建築年	築年数	耐震改修	外壁改修	大規模改修	改修状況						備考	築年数	プール	
									屋根	防水	外壁	床	トイレ	空調				
1	阿久津小学校	管理・教室棟(校舎)	RC2	H26.3	7.3年					○	○	○	○	○	○	H23年の震災で建て直し	5.3年	
		屋内運動場	S2	S54.12	41.6年	H22.1				○	○	○	△	×	×			
2	中央小学校	管理棟(南校舎)	RC3	S52.3	44.4年	H18.9	H25.11			×	△	○	△	×	○		47年	
		教室棟(北校舎)	RC3	S52.3	44.4年	H18.9	H25.11			×	△	○	△	×	○			
		屋内運動場	S2	S53.9	42.9年	H21.10				○	○	○	△	×	×			
3	東小学校	管理・教室棟(校舎)	RC2	H30.7	3.0年					○	○	○	○	○	○	老朽化による建て直し	北高中と共用	
4	上高根沢小学校	管理・教室棟(校舎)	RC3	S57.3	39.4年			H26.10		○	○	○	△	○	○		46年	
		屋内運動場	S2	S52.9	43.9年	H21.10				○	○	○	△	×	×			
5	北小学校	管理・特別教室棟	W2	H19.3	14.4年					○	○	○	○	△	○	老朽化による建て直し 洋式化・乾式化率40%	48年	
		特別教室棟	RC3	S55.3	41.4年	H19.9				△	○	○	△	△				
		屋内運動場	S2	S55.9	40.9年	H22.10				○	○	○	△	×	×			
6	西小学校	管理・教室棟(校舎)	RC3	H6.1	27.5年			R2.12		○	○	○	△	○	○		27.1年	
		屋内運動場	S1	H6.2	27.4年					×	×	×	×	×	×			
7	阿久津中学校	校舎棟	RC4	S59.7	37.0年					×	×	×	×	×	○		使用不可	
		特別教室棟	S1	S46.9	49.9年	H25.9				○	○	○	○	△	×			
		特別教室棟Ⅱ	S2	H16.10	16.8年					×	×	×	×	○	○			
		屋内運動場(旧)	S2	S40.12	55.6年	H23.12				○	○	○	△	×	×			
		屋内運動場(新)	S2	H2.8	30.9年					×	×	×	×	×	×			
8	北高根沢中学校	校舎棟	RC3	S55.6	41.1年	H19.10		H30.2		○	○	○	△	○	○		2.5年	
		特別教室棟(南)	RC2	S55.10	40.8年			H30.2		○	○	○	△	○	△	耐震性があるため耐震改修不要		
		特別教室棟(北)	RC3	H4.2	29.4年			H30.2		○	○	○	△	△	×			
		屋内運動場	S1	H1.2	32.4年					×	×	×	×	○	×	令和4年に屋根・外壁の改修予定		

※緑色部分は「校舎棟」
 ※屋内運動場は、いわゆる「体育館」をいう。
 ※○は全改修、△は一部改修、×は未改修
 ※トイレ改修は、「トイレの洋式化及び乾式化」をいう。
 ※阿久津中学校プールは、平成23年の震災の影響により使用不可

(2) 学校施設の改修等の見通し

学校の適正規模及び適正配置の検討にあたっては、学校施設の改修時期も考慮する必要があります。小・中学校の校舎（特別教室棟を含む）及び屋内運動場（体育館）の改修等時期は、学校施設マネジメント方針に基づく「20年周期」の長寿命化整備を前提にすると次のとおりです（実際の劣化状況等は考慮していません）。

図表 学校施設の改修等時期の見通し

施設	建物	建築年度	築年数	令和3～12年度	令和13～22年度	令和23～32年度	令和33～42年度
				2021～2030	2031～2040	2041～2050	2051～2060
阿久津小	校舎棟	平成26（2014）年3月	8		大規模改修1		長寿命化改修
	屋内運動場	昭和54（1979）年12月	42		大規模改修2		改築
中央小	校舎棟	昭和52（1977）年3月	45		大規模改修2		改築
	屋内運動場	昭和53（1978）年9月	43		大規模改修2		改築
東小	校舎棟	平成30（2018）年7月	3		大規模改修1		長寿命化改修
上高根沢小	校舎棟	昭和57（1982）年3月	40	長寿命化改修		大規模改修2	
	屋内運動場	昭和52（1977）年9月	44		大規模改修2		改築
北小	校舎棟	平成19（2007）年3月	15		大規模改修2		改築
	特別教室棟	昭和55（1980）年3月	42	大規模改修1		長寿命化改修	
	屋内運動場	昭和55（1980）年9月	41		大規模改修2		改築
西小	校舎棟	平成6（1994）年1月	28		長寿命化改修		大規模改修2
	屋内運動場	平成6（1994）年2月	28		長寿命化改修		大規模改修2
阿久津中	校舎棟	昭和61（1986）年2月	36	長寿命化改修		大規模改修2	
	特別教室棟1	昭和46（1971）年9月	50		大規模改修2		改築
	特別教室棟2	平成16（2004）年10月	17	大規模改修1		長寿命化改修	
	屋内運動場	昭和40（1965）年12月	56	大規模改修2		改築	
	屋内運動場	平成2（1990）年8月	31	長寿命化改修		大規模改修2	
北高根沢中	校舎棟	昭和55（1980）年6月	41		大規模改修2		改築
	特別教室棟1	昭和55（1980）年10月	41		大規模改修2		改築
	特別教室棟2	昭和55（1980）年10月	30		長寿命化改修		大規模改修2
	屋内運動場	平成1（1989）年2月	33	長寿命化改修		大規模改修2	

※築年数は令和3年（2021年）時点

※大規模改修の数値1は1回目（築20年目安）、数値2は2回目（築60年目安）を表す

（築年数を基準に文部科学省ソフトを用いて作成）

(3) 維持管理コストの現状

小・中学校施設の維持管理コスト（ランニングコスト）は次のとおりです。
 なお、各学校における床清掃委託や備品更新に係る費用は含まれていません。

① 小学校 維持管理コスト（ランニングコスト）

阿久津小学校

単位：円

区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均（年度）
維持修繕費	99,360	128,304	1,090,800	1,414,126	683,760	683,270
光熱水費・委託費	5,755,180	6,967,453	8,873,622	6,725,266	5,759,575	6,816,219
合計	5,854,540	7,095,757	9,964,422	8,139,392	6,443,335	7,499,489

中央小学校

単位：円

区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均（年度）
維持修繕費	424,980	156,600	1,105,073	1,171,262	2,944,260	1,160,435
光熱水費・委託費	4,098,943	4,856,634	6,149,535	4,780,880	3,278,334	4,632,865
合計	4,523,923	5,013,234	7,254,608	5,952,142	6,222,594	5,793,300

東小学校

単位：円

区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均（年度）
維持修繕費				0	0	0
光熱水費・委託費				477,360	880,802	679,081
合計				477,360	880,802	679,081

上高根沢小学校

単位：円

区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均（年度）
維持修繕費	0	0	433,080	942,086	3,673,560	1,009,745
光熱水費・委託費	2,715,497	3,260,890	4,894,556	3,912,639	3,099,546	3,576,626
合計	2,715,497	3,260,890	5,327,636	4,854,725	6,773,106	4,586,371

北小学校

単位：円

区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均（年度）
維持修繕費	104,900	1,805,760	299,160	434,526	1,960,860	921,041
光熱水費・委託費	2,542,759	3,301,371	4,616,032	3,793,104	2,686,571	3,387,967
合計	2,647,659	5,107,131	4,915,192	4,227,630	4,647,431	4,309,008

西小学校

単位：円

区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均（年度）
維持修繕費	5,540,616	157,464	2,695,680	140,326	1,788,160	2,064,449
光熱水費・委託費	4,879,343	6,176,439	7,268,249	7,023,205	4,936,959	6,056,839
合計	10,419,959	6,333,903	9,963,929	7,163,531	6,725,119	8,121,288

<小学校合計>

単位：円

区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均(年度)
維持修繕費	6,169,856	2,248,128	5,623,793	4,102,326	11,050,600	5,838,940
光熱水費・委託費	19,991,722	24,562,787	31,801,994	26,712,454	20,641,787	25,149,597
合計	26,161,578	26,810,915	37,425,787	30,814,780	31,692,387	30,988,537

② 中学校 維持管理コスト（ランニングコスト）

阿久津中学校

単位：円

区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均(年度)
維持修繕費	0	521,640	534,600	399,132	4,408,560	1,172,786
光熱水費・委託費	5,847,037	6,004,312	6,089,210	7,094,953	5,337,352	6,074,573
合計	5,847,037	6,525,952	6,623,810	7,494,085	9,745,912	7,247,359

北高根沢中学校

単位：円

区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均(年度)
維持修繕費	691,200	619,480	319,680	44,000	362,780	407,428
光熱水費・委託費	5,258,910	5,494,448	7,199,962	8,041,053	12,635,033	7,725,881
合計	5,950,110	6,113,928	7,519,642	8,085,053	12,997,813	8,133,309

<中学校合計>

単位：円

区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均(年度)
維持修繕費	691,200	1,141,120	854,280	443,132	4,771,340	1,580,214
光熱水費・委託費	11,105,947	11,498,760	13,289,172	15,136,006	17,972,385	13,800,454
合計	11,797,147	12,639,880	14,143,452	15,579,138	22,743,725	15,380,668

(4) 学校施設の改築等コスト試算（シミュレーション）

〔コスト試算表〕 学校単位

学校名	既存施設 建築工事費 (円)	改築コスト (工事管理を含む) (円)	長寿命化 概算工事費 (円)	大規模改修 概算工事費 (円)
阿久津小学校 (校舎、屋内運動場、プール)	1,491,450,000	1,765,153,500	1,063,213,380	441,288,375
中央小学校 (校舎、屋内運動場、プール)	428,900,000	462,767,000	278,038,200	115,691,750
東小学校 (校舎)	921,304,800	948,943,944	569,366,366	237,235,986
上高根沢小学校 (校舎、屋内運動場、プール)	369,000,000	402,670,000	242,008,800	100,667,500
北小学校 (校舎、校舎特別教室棟、屋内運動場、プール)	818,600,000	855,158,000	513,310,800	213,789,500
西小学校 (校舎、屋内運動場、プール)	1,676,222,000	1,886,158,660	1,134,568,896	471,539,666
阿久津中学校 (校舎、校舎特別教室棟 2 棟、屋内運動場 2 棟)	1,109,659,000	1,494,378,498	896,627,099	373,594,626
北高根沢中学校 (校舎、校舎特別教室棟 2 棟、屋内運動場、プール)	779,950,000	1,082,759,500	651,442,704	270,689,875

注) なお、本試算は、未調査の状況における概算の参考数値であって、実際にはこれ以外にも様々な経費が生じる可能性があります。

(5) 学校施設の拠点避難所

図表 指定避難所一覧

避難場所名	拠点施設	収容可能人数	対象地域	地域人口	被災想定人数	種別・面積(m ²)	
阿久津中学校		845	宝積寺、上阿久津中阿久津	10,114	584	体育館 1,691	
阿久津小学校	○	386				1,385	体育館 773
図書館中央館		154				集会所等 309	
西小学校	○	437	437	光陽台、宝石台	7,604	437	体育館 875
大谷集落センター		57	1,519	大谷、石末、花岡、西高谷	4,049	232	集会所等 115
中央小学校	○	236					体育館 472
町民広場		1,226					改善センター・トレセン・ホール等 2,452
高根沢高校		495	1,215	伏久、文挾、飯室、亀梨、平田	3,084	177	体育館 990
北小学校	○	255					体育館 510
仁井田ふれあい広場		465					体育館等 931
台新田公民館		54	949	上柏崎、亀梨、桑窪、栗ヶ島、太田、中柏崎、下柏崎	2,864	164	集会所等 108
東小学校・北高根沢中学校	○	608					体育館 1,216
桑窪公民館		57					集会所等 115
柏崎公民館		48					集会所等 97
元気あっぶむら		182					多目的ホール 364
上高根沢小学校	○	234	234	上高根沢	1,858	106	体育館 469
合計		5,739	5,739		29,573	1,700	

※ 指定避難所とは、被災者が一定期間生活する場所として町が指定した避難所

※ 拠点避難所とは、町が防災倉庫等を整備し、食料及び飲料水等を備蓄している避難所

※ 収容可能人数は、1人当たり施設等床面積/2㎡で算出

※ 集会所として利用している施設（公民館等）は、延べ床面積×有効率（70%）で算出

図表 拠点避難所 主な備蓄品の配備等

拠点施設	備蓄食料 3日分（食）	飲料水 7日分（ℓ）	床シート （ブルーシート）	仮設トイレ	懐中電灯 （LED）	毛布	投光器
阿久津小学校	4,923	11,487	18 (56)	トイレント1 ポータブル20	140	760	2
西小学校	4,023	9,387	34 (52)	トイレント8 マンホール対応3 ポータブル13	112	600	2
中央小学校	2,439	5,691	22 (33)	トイレント3 ポータブル15	77 (4)	370	2
北小学校	1,827	4,263	21 (27)	トイレント3 マンホール対応2 ポータブル11	50	300	2
東小学校・北高根沢 中学校	1,827	4,263	20 (26)	トイレント3 ポータブル6	51 (4)	300	2
上高根沢小学校	1,161	2,709	6 (20)	トイレント2 ポータブル8	25 (4)	200	2
合計	16,200	37,800	121 (214)	トイレント20 マンホール対応5 ポータブル73	455 (12)	2,530	12

※ 飲料水は3ℓ/1日

※ 仮設トイレ欄中、「マンホール対応」は下水道マンホール対応型トイレ

(6) 体育館の使用状況（学校施設のスポーツ開放等）

各小中学校の体育館は、夜間と日祝日・長期休業日の日中に、スポーツ開放等のため、住民の利用に供しています。

図表 体育館の使用状況（令和元年度）

施設名	年間 使用回数	月平均 使用回数	年間 使用日数	月平均 使用日数	年間 稼働率
阿久津小学校 体育館	360	30.0	298	24.8	84.65%
中央小学校 体育館	158	13.2	157	13.1	53.04%
上高根沢小学校 体育館	66	5.5	67	5.6	22.55%
北小学校 体育館	177	14.8	177	14.8	55.48%
西小学校 体育館	340	28.3	212	17.7	65.83%
阿久津中学校 体育館	196	16.3	140	11.7	38.25%
北高根沢中学校 体育館	229	19.1	171	14.3	45.72%

※年間稼働率＝年間使用日数/年間利用可能日数

図表 体育館の使用状況／内訳（令和元年度）

阿久津小学校 体育館

活動内容	年間使用回数
空手	97
金管バンド	4
サッカー	22
ミニバスケットボール	237
計	360

北小学校 体育館

活動内容	年間使用回数
少林寺拳法	46
統合型スポーツクラブ	10
ソフトバレーボール	8
バレーボール	113
計	177

中央小学校 体育館

活動内容	年間使用回数
インディアカ	9
バドミントン	12
バレーボール	18
ミニバスケットボール	35
よさこい	84
計	158

西小学校 体育館

活動内容	年間使用回数
格闘技	34
空手	62
ソフトバレーボール	10
バドミントン	2
バレーボール	181
ミニバスケットボール	51
計	340

上高根沢小学校 体育館

活動内容	年間使用回数
空手	50
ソフトバレーボール	8
バレーボール	8
計	66

阿久津中学校 体育館

活動内容	年間使用回数
インディアカ	1
インディアカ・カローリング	1
ソフトバレーボール	1
バスケットボール	41
バドミントン	2
バレーボール	143
よさこい	7
計	196

北高根沢中学校 体育館

活動内容	年間使用回数
インディアカ	3
インディアカ・カローリング	37
空手	5
剣道	3
スポーツ全般	30
バスケットボール	15
バドミントン	35
バレーボール	100
よさこい	1
計	229

(7) 学童保育の実施状況（学校施設等での学童保育所の設置）

町では、日中家庭に保護者がいない小学生を対象とした放課後児童健全育成事業として、町内の小学校6校全てに学童保育所を設置しています。

図表 実施状況（令和3年4月現在）

学校名	クラブ名	実施場所	在籍児童（人）	面積（㎡）
阿小	阿小学童クラブ	児童館みんなのひろば	64	79.94
	阿小第2学童クラブ	阿小校舎 学童保育室	50	74.34
	阿小第3学童クラブ	阿小校舎 特別活動室	32	62.50
中央小	中央小学童クラブ	児童館きのこのもり	48	77.34
東小	東小学童クラブ	東小校舎 学童保育室	30	96.28
上高小	上高小学童クラブ	上高小校舎 ふれあいルーム	34	67.50
北小	北小学童クラブ	北小校舎 会議室・ホール	49	97.14
西小	西小学童クラブ	敷地内 学童専用建物	36	52.80
	西小第2学童クラブ	敷地内 学童専用建物	42	60.02
	西小第3学童クラブ	西小体育館 事務室等	41	68.16
合計			426	736.02

※緑色部分は、学校校舎内等での実施

※「児童館」とは、地域における子育てへの協力体制を築くため、地域の児童が自主的に参加できる遊びの場、安全に過ごすことのできる居場所を提供する施設です

図表 保育時間

	学校開校期		長期休業中 (夏・冬・春休み)
	月～金	土	
通常預かり	下校時～18時30分	8時00分～18時30分	8時00分～18時30分

※早朝預かりは7時30分から。延長預かりは19時00分まで

【運営】

町では、「学童保育所」・「児童館」の運営を、「NPO 法人次世代たかねざわ」に委託（指定管理委託）して実施しています。

6 高根沢町の学校教育の特色

(1) 小規模特認校制度について

①小規模特認校制度とは

小規模特認校制度とは、小規模校の教育のよさや特色を生かし、一人ひとりの児童生徒に目の行き届いた教育、個に応じた指導、体験活動等を通して、生きる力や豊かな人間性を培いたいという保護者の希望がある場合に、一定の条件を付し、教育委員会が指定した学校について、通学区域に関わらずに就学を認める制度です。

②導入の経緯

上高根沢小学校の小規模化が進み、平成 22 年度に上高根沢小学校の第 2・第 3 学年が複式学級となり、それ以降は毎年度複式学級が生じると推計される状況となったことから、小規模化による教育上のデメリットや複式学級化による影響が課題となっていました。

そのため、複式学級を解消することと、少人数学級によるメリットや特色を生かした教育を推進することを目的として、平成 23 年度から上高根沢小学校において「小規模特認校制度」を開始しました。

図表 平成 22 年度当時の上高根沢小学校の児童数の推計（平成 22 年度 5 月時点）

年度	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計
平成 22 年度	11	5	11	11	12	21	71
平成 23 年度	10	11	5	11	11	12	60
平成 24 年度	13	10	11	5	11	12	61
平成 25 年度	4	13	10	11	5	11	54
平成 26 年度	6	4	13	10	11	5	49
平成 27 年度	14	6	4	13	10	11	58
平成 28 年度	7	14	6	4	13	10	54

※複式となるのは 2 学年合計で
16 人以下の場合
(1 年生を含む場合は 8 人以下)

③実施概要

実施に当たっては、1 学年の児童数の適正規模を「最大 20 名（全 6 学年で 120 名）」に設定して、町内の他の学区からの児童を受け入れています。

また、他の学区から通学してもらえよう魅力ある学校を目指し、少人数指導や上高根沢地域の特色を生かした、上高根沢小学校ならではの教育活動を展開しています。

上高根沢小学校では、平成 23 年度の制度導入から令和 2 年度までの 10 年間、複式学級が解消されました。

④就学に当たっての条件等

- ・上高根沢小学校の教育活動に賛同すること。
- ・原則として卒業まで通学すること。
- ・卒業後、阿久津中学校区から通学している児童は、阿久津中学校または北高根沢中学校に進学することができます。
- ・通学に当たっては、申請によりスクールバスを利用できます。

⑤小規模特認校制度の利用状況等（令和3年5月1日現在）

図表 利用児童（申請許可）人数

通学開始 学年	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	累計	平均
	小学校1学年	3	6	6	3	10	6	4	8	6	3		
小学校2学年	4		2							1		7	0.6
小学校3学年	1	1	1	1		1				1		6	0.5
小学校4学年			2	1						1		4	0.4
小学校5学年				1				1		1	1	4	0.4
小学校6学年				1					1	2		4	0.4
合計	8	7	11	7	10	7	4	9	7	9	10	89	8.1

図表 利用児童の学区（指定校）

学区（指定校）	人数	割合
阿久津小学校	33	37.1%
中央小学校	9	10.1%
東小学校	12	13.5%
北小学校	6	6.7%
西小学校	29	32.6%
合計	89	

- ・小規模校ではない阿小、西小からの児童割合が多くなっています。
- ・小規模校である3校（中央小、東小、北小）からの児童割合は、合計30.3%となっています。

図表 利用児童の在籍状況（5月1日基準日の在籍人数）

年度 利用児童	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	累計	平均
	小学校1学年	3	6	6	3	10	6	4	8	6	3		
小学校2学年	4	3	8	6	3	9	6	4	8	6	3	60	5.5
小学校3学年	1	5	4	9	6	4	7	6	4	8	5	59	5.4
小学校4学年	0	1	7	4	8	5	4	6	6	4	8	53	4.8
小学校5学年	0	0	1	8	4	5	4	5	6	7	5	45	4.1
小学校6学年	0	0	0	2	7	4	5	4	6	8	7	43	3.9
利用児童合計	8	15	26	32	38	33	30	33	36	36	37	324	29.5
在籍割合%	11.3	19.5	33.3	38.6	38.8	35.5	33.3	36.3	39.6	43.9	45.7		
全児童数	71	77	78	83	98	93	90	91	91	82	81		

- ・利用児童の在籍人数の平均 年度ごと：29.5人（累計324÷11年）
学年ごと：4.9人（29.5÷6学年）
- ・利用児童の割合は増加傾向にあり、令和3年度は45.7%となっています。

⑥特色ある教育の実践

(制度開始時からの実施内容等。現在実施していないものを含む。)

○少人数の特色を生かした教育

- ・一人一人に寄り添う、個に応じたきめ細やかな学習指導
- ・学習情報カードの作成・活用（児童一人一人の学習積上げの記録）
- ・「スタディタイム」授業開始前の漢字・計算学習（15分）の実施（週4日）
- ・年4回の漢字・計算力テスト
- ・「夢マップ」の作成（キャリア教育）
- ・行事や活動の中で、一人一人が役割を担って活躍することによる主体性・責任感の育成

○英語活動の充実

- ・全学年で週1時間、年間35時間の外国語活動
- ・英語の日常化を目指した「英語 Week」「英語 Month」の設定（重点化）
- ・ALTホームタウン「フィジー」、ホストタウン「レソト王国」との交流

○人や自然とのふれあいを通じた体験活動・交流活動

- ・高齢者とのふれあい活動（全学年）、上高根沢地区敬老会への参加（合唱）
- ・ハイタッチ運動（スクールガードとの交流）
- ・ふれあい遠足（異学年集団での交流活動）
- ・宇津救命丸の一万燈祭の御神輿への参加
- ・芽出しから販売までの稲作体験、野菜の栽培・収穫体験
- ・ビオトープでの自然観察
- ・ホタルの里づくり（ホタルの放虫）
- ・わくわくタイム（月1回の学年全員での外遊び）
- ・ふれあいタイム（月1回の異学年集団での活動）

○体力づくりと食育の充実

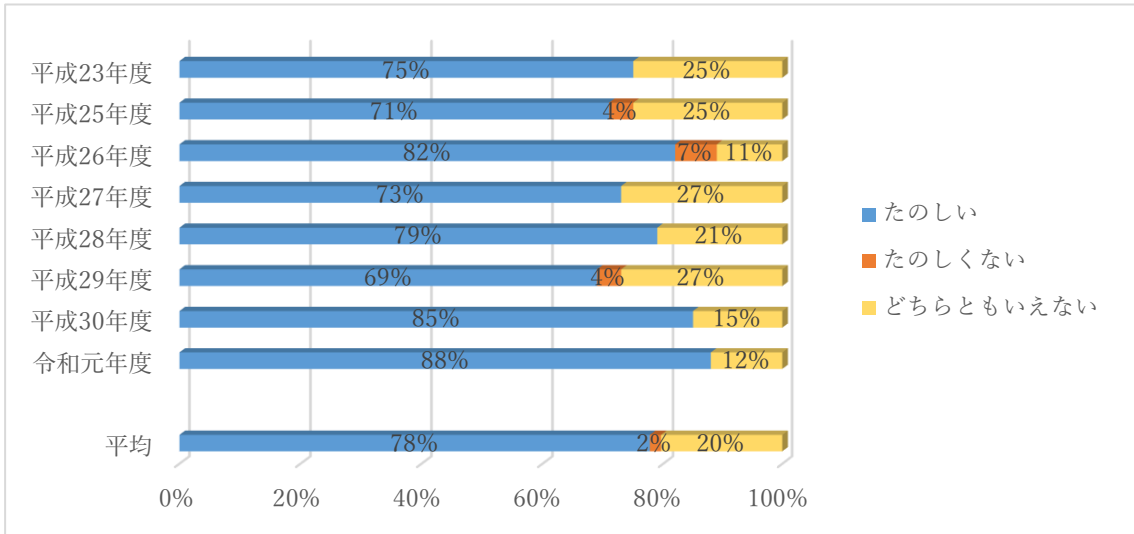
- ・スケート教室（全校生）、持久走大会
- ・宿泊学習での那須岳登山
- ・週3回のスポーツタイム
- ・一人当たりの面積の広い校庭での「のびのび・ゆったりした活動、外遊び」の充実
- ・外遊びのテーマパーク化（校庭等をテーマパーク化する工夫による外遊びの推進）
- ・自校炊飯の実施

○表現力の育成

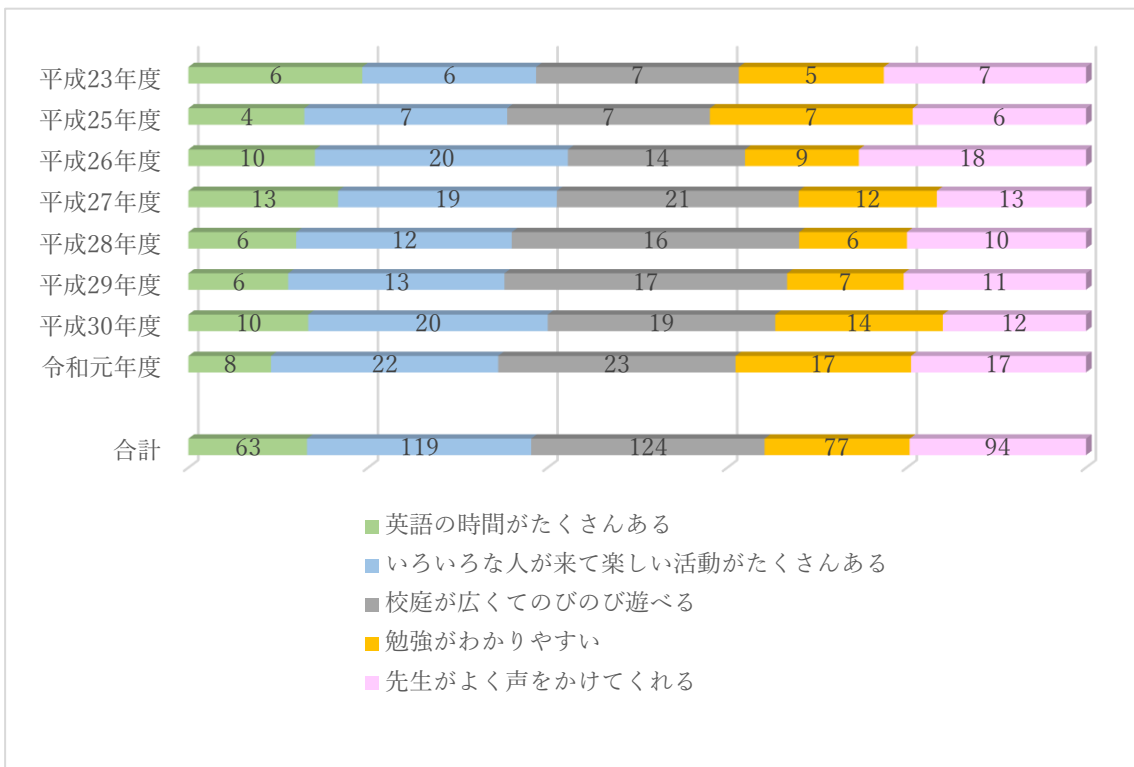
- ・群読発表会・学習発表会
- ・表現力養成講座、表現力養成講座発表会
（1, 2年生：国語、音楽をもとにした劇化）
（3～6年生：国語・音楽・体育・図工の4講座による表現力養成）
- ・「伝えアップカード」の活用（思いを書いて発表する機会の充実）

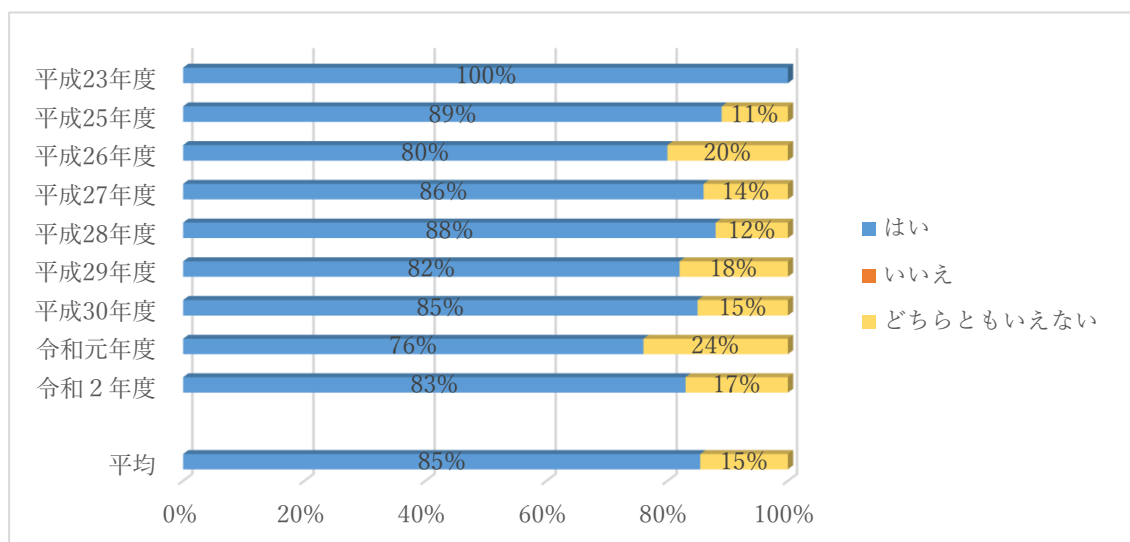
⑦アンケート集計結果（各年度「学校評価」等から）

○小規模特認 転入学児童アンケート 項目： 小学校は楽しいですか



○小規模特認 転入学児童アンケート 項目： 上高小のよいところ（複数回答可）（人数）





「はい（よかった）」の理由（その他の記述等からの抜粋）（H29～R2 年度アンケート）

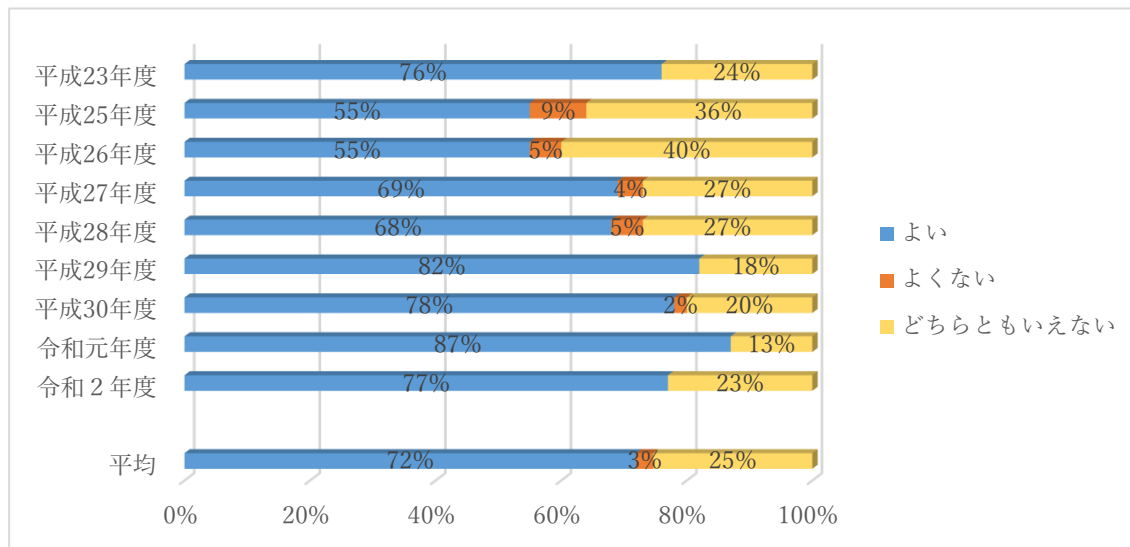
- ・先生がその子に合わせた教え方をしてくれる。
- ・内容の濃い授業が受けられる。
- ・家では分からない子どもの良いところを見してくれる。
- ・一人一人に目を向ける機会が多くなるのではと思い安心できます。
- ・全職員が児童を覚えてくれているため、学校の安心感・一体感があります。
- ・学年関係なく、先生がよく見てくれている。全校生での活動が多い。
- ・少人数の1クラスで6年間一緒のため、児童もその子のことを知って対応してくれるし、担任に限らず他の先生もその子に合った声かけなど、先生方の間でも情報共有がしやすい。
- ・大勢の中の一人ではなく、個人として認識してもらえる。子どもの個性を共有してもらえる。
- ・自分らしさを大切にしてくれ、個別にその子に合う関わり方をしてくれる。
- ・先生が、子どもの様子を詳しく教えてくれるので。
- ・英語の歌が楽しいそうで家で元気に歌っているから。町内の小学校と違って英語の授業が多い。学校で学んだ英語を家でも嬉しそうに声に出して話している。英語の授業がとても楽しいようで自宅でも自ら積極的に英語の歌、本を読むようになった。
- ・自然と触れ合う機会が多いので。校内に動物がたくさんいること。
- ・中学生になっても友達同士仲が良い。
- ・PTA執行部が一生懸命でありがたい。

「いいえ」「どちらともいえない」の理由（理由記述からの抜粋）（H29～R2 年度アンケート）

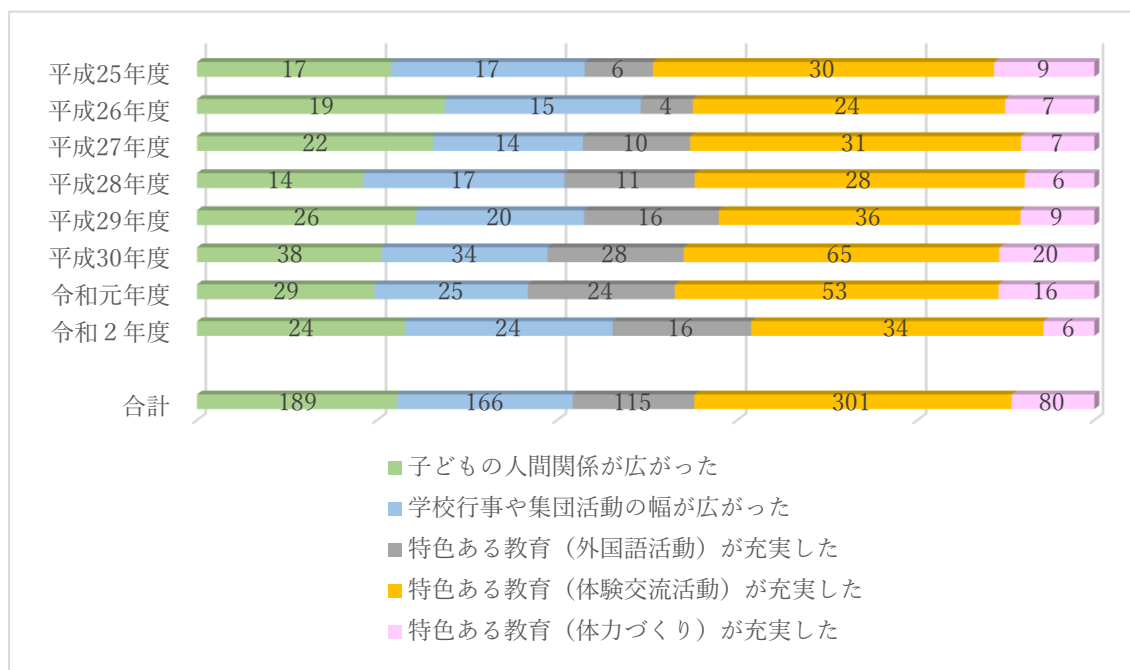
- ・現在問題が全くないわけではなく本来の学校に通ってれば。中学校に行くときが心配。
- ・部活動がないため。クラブ活動が少ない。
- ・自宅近くに同じ学校の子が住んでいないので遊べない。遊ぶときに送迎しなければならない。
- ・近所に友達がいないから友達と遊べない。
- ・友達が少ない。放課後遊べない。
- ・お友達のこと悩んでいるようです。
- ・少人数は小さい子どもにとってどうか？と思うところがある。6年間同じ仲間だと。

○上高根沢在住の保護者アンケート

項目： 特認校になってよかったか



○「よい」の理由 (複数回答可) (人数)



「よい」の理由 (その他の記述等からの抜粋) (H29~R2 年度アンケート)

- ・子どもが充実した生活を送っている。楽しく学校生活を送っている。
- ・手厚い指導を受けられること。行動や活動が充実した。
- ・児童の好きなことや興味のあることを把握してくれている。
- ・複式学級より各学年のクラスの方が望ましい。学年ごとの児童数が極端に違うことを避けられるから。
- ・運動会の競技が充実した。
- ・多くの意見を聞くことができるため。
- ・人数が多い方が様々な意見が出て学びにつながるため。

- ・クラスの人数が増えることにより、授業の活性化や一人一人のそれぞれの考え方を子ども自身も学べる機会が増える。
- ・学校を選択できる。もっと少人数だからできることを増やしてほしい。
- ・学区内で人間関係に悩んだときに、違う選択肢があるのが良い。
- ・外国語に触れる機会が多く、自然に身についてきた。子どもが家で英語の歌を楽しそうに歌っているから。1年から英語の授業があるのがよい。学校で習った英語を家でも嬉しそうに話している。外国語活動を子どもが楽しんで取り組んでいるため。他の学校より外国語に触れ合う機会が多く、家でも覚えてきた外国語を教えてくれてとても楽しく学べている感じがします。外国語が良いと思います。今年度になり、少し英語を家で使ったり、楽しそうにしています。
- ・ふれあい遠足など、ふれあい班ごとの活動がとてもよいと思う。
- ・上級生との関わりがある。
- ・他の地域の子どもたち、親と交流ができる。
- ・業間でのスポーツをする人数が多いので楽しめると子どもから聞きました。

「よくない」「どちらともいえない」の理由(理由記述からの抜粋)(H29～R2 年度アンケート)

- ・保護者がやることが多い。
- ・学区外の親との温度差(P T A活動)がある。
- ・アットホームで良いが集団の小ささを感じる時がある。
- ・集団での学習に不十分さを感じる。学業、運動に競争力がなくなるのが不安。
- ・いろいろと、人数が少ないことは良いことばかりではない。
- ・小規模にすることでメリットもあるがデメリットもあるから。
- ・他校と比較して秀でていないところがないから。
- ・他校と比較して効果があるかどうか判断できない。
- ・他校からの受け皿的な気もする。
- ・子どもたちに目が届いてない感じがする。
- ・外国語が多いこと以外に他校との違いがあまりわからない。
- ・他校の情報も入りますが、上高小が目立った特色を感じない。
- ・今までは特認校で良いと思っていたが、児童数は増やせばいいものではない。
- ・体験的な活動や地域とつながりがある学校づくりは制度実施以前から取り組んでいる活動かと思えます。制度が実施されて大きく変化したと捉えられておらず、すみません。
- ・上高小の校風が気に入ったので入学したと思う子(親)は、ほばいないのではないかと感じる。また、引っ越してきたという理由ではなく、町内の学校から上高小に転校してきたいという子は誰でも受け入れなければならないか、という疑問がある。
- ・東小と合併してもよかった。
- ・小規模特認校=教育活動等の充実ではないのでは?と思うので。
- ・誰でも入れるのではなくちゃんと面接してほしい。子どもが不満がっている。
- ・特認校になって児童数が増えていることは良かったと思うが、正直それ以外で良かったと思えるところは特にないので。

⑧成果と課題

上高根沢小学校において、平成 23 年度に小規模特認校制度を導入したことにより、令和 2 年度までの 10 年間、複式学級を解消できたことは大きな成果であり、同校が取り組んできた、「小規模校ならではの特色ある教育活動による“魅力ある学校づくり”」が一定の評価を得てきたものであると捉えています。また、「小規模ならではの教育」を希望する児童・保護者が一定数存在すること、そのような教育ニーズがあることを再確認することができました。

特色ある教育については、「様々な体験交流活動」への取組が、児童・保護者から最も評価されており、地域の方々の様々な理解や協力によって、上高根沢地区ならではの活動が推進されたことが、評価につながったものと捉えています。また、一人一人に目の行き届いた、小規模ならではの効果的な指導を実践することができました。

一方で、いくつかの課題もあります。

まず、「小規模校ならではの特色ある教育活動による更なる魅力の向上」が挙げられます。今後更に、「小規模ならではの特色ある教育活動」の充実を図っていく余地があり、他の小学校と明確に差別化できるような際立った特色のある学習内容や指導が求められています。

また、「小規模校から上高小への転入学」が課題となっています。

当該制度は、小規模ならではの教育に対するニーズ以外に、様々な転学ニーズの受皿としても機能している実態があり、これらの「小規模校から上高小への転入学」は、上高小以外の小規模校の児童数を更に減少させているため、当該制度の在り方や運用方法については、今後あらためて検討する必要があります。

また、「地域・児童・保護者が一体となった“学校コミュニティ”の更なる充実」が課題として挙げられます。

学区外から児童を受け入れるという当該制度の性質上、地域・児童・保護者が一体となった学校コミュニティを形成して、学校運営を円滑に推進していくことが重要であり、そのための更なる工夫や手立てを検討する必要があります。

⑨小規模特認校制度の運用経費（コスト）

制度運用に係るスクールバス・スクールタクシー運行費用（概算）： 9,222,192 円

（※ 運行業務全体経費： 42,862,937 円）

図表 スクールバス・スクールタクシー内訳（小規模特認校制度利用児童のみ）

区分	金額	利用人数	備考
スクールバス①	450,237	2	金額は人数で按分
スクールバス②	3,718,255	6	金額は人数で按分
スクールタクシー	5,053,700	27	
合計	9,222,192	35	

(2) 高根沢町小中一貫教育について

①高根沢町小中一貫教育とは

高根沢町小中一貫教育は、「確かな学力の向上」「豊かな心や社会性の育成」「健やかな体の育成」をねらいとし、義務教育9年間で「自ら学び、心豊かでたくましく生きる児童生徒（小中一貫教育の目指す児童生徒像）」の育成を図っていくものです。

そして、小中一貫教育における意図的・計画的な学びを通して、児童生徒が自己肯定感や自己有用感を高め、学習意欲が向上して、充実した学校生活を送れるようにすること、また、児童生徒に対して、適切な学びの機会や安心して学ぶことのできる支援体制を提供するという学校教育の目標達成を目指していくものです。

義務教育9年間で児童生徒を育てるという視点に立ち、小中学校それぞれの目標や教育内容、教育活動に系統性を図ったり、児童生徒や教職員が交流したりするなどして、小中学校間の密接な連携を図る教育を推進しています。

②導入の経緯

高根沢町小中一貫教育は、平成24年度から導入されました。

近年、社会や教育を取り巻く環境が大きく変化し、様々な教育課題が顕在化する中において、高根沢町教育委員会では、平成22年7月に「たかねみらい教育プロジェクト検討委員会」を設置し、様々な教育課題の解決に向けた協議・検討を実施しました。この検討の結果、平成23年12月に答申された答申書「子どもたちの輝く未来のために」では、小中一貫教育について次のような提言がありました。

提言：「義務教育9年間を見通して、教育内容の一貫性を図り、小中学校が同じ目標の下に、質の高い教育を進めていくという小中一貫教育の考えは大変重要である。今日、中学1年生において、学習や生活の変化に馴染めず、不登校になったり、いじめなどの問題行動を起こしたりする、いわゆる「中1ギャップ」と呼ばれる現象が本町でも見られる。したがって、本町で小中一貫教育を実施することの期待は大きい。」

高根沢町教育委員会では、この提言を尊重し、小中一貫教育を導入することについての検討を重ね、本町として小中一貫教育に取り組むことが本町の学校教育の目標を達成するために有効であると考え、町内のすべての小中学校において小中一貫教育を推進することとしました。

③実施概要

(1) 推進期間とその概要

高根沢町学校教育目標の達成のため、平成24年度からの3年間で「第Ⅰ期」、平成27年度からの3年間で「第Ⅱ期」、平成30年度からの3年間で「第Ⅲ期」として小中一貫教育を推進してきました。

平成24年度からの第Ⅰ期では、各教科における系統性、連続性をもたせたカリキュラムや指導計画を作成しました。また、小中学校の児童生徒の交流活動や教職員の授業研究と合同研修、外国語における中学校教員の小学校への乗り入れ授業、健康教育として「お弁当の日」の実施などを行ってきました。

平成 27 年度からの第Ⅱ期では、「実践、そして充実へ」をテーマに、第Ⅰ期で作成した各指導計画に基づいた教育活動の実践や、児童生徒一人一人のコミュニケーション能力向上を目指した取組の充実、さらに、夢をもって生き抜いていける子どもを育てるため、自分の将来の目標をもつ活動の充実など、これまでの取組内容の重点化を図りながら小中一貫教育を推進してきました。

平成 30 年度からの第Ⅲ期では、「学び高まる」をテーマに、これまで推進してきた各ブロックでの取組を、同じ方向性で全町的なものへと進化させたり、小中学校の児童生徒、教職員、地域の人々など、人と人との交流活動を充実させたりすることで、児童生徒の学びやコミュニケーション力等を高め、目標実現に向けて粘り強く取り組むことができる子どもの育成を図りながら、小中一貫教育を更に推進してきました。

また、令和 3 年 6 月に新たに策定した「高根沢町教育大綱・教育振興基本計画」・「高根沢町学校教育基本計画」では、「小中一貫教育の推進」を学校教育の基盤と位置づけており、今後も、小中一貫教育を更に推進していきます。

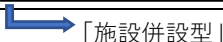
(2) 「施設連携型」を中心とした小中一貫教育の推進

高根沢町では、阿久津中学校と北高根沢中学校の両中学校を単位とした全小中学校で、既存の施設をそのまま利用し、各中学校区内の小中学校が相互に交流を図る「施設連携型」による小中一貫教育を進めています。なお、中央小学校の児童は両中学校に進学する分離進学となるため、指導計画の作成や小中学校の交流等に際して、十分な配慮を行ってきました。

また、平成 30 年 7 月に竣工した東小学校の新校舎整備に当たっては、それまで取り組んできた小中一貫教育をより一層推進する観点から、小中一貫教育のしやすい環境整備を踏まえ、東小学校と北高根沢中学校を「施設併設型小中一貫校」として整備し、「施設併設型」による小中一貫教育にも取り組んできました。

この「施設併設型小中一貫校」では、交流活動を積極的に行うことで、社会性を育みながら中学校進学時の不安を解消できるように取り組んできました。中学生が小学校を訪問して読み聞かせを行ったり、中学生が企画した交流会に両校の小中学生が一堂に会してゲームを通して交流したり、また、教職員も相互に授業参観を行うなど、様々な実践を重ねてきました。

阿久津中学校区	阿久津中学校・阿久津小学校・西小学校	中央小学校
北高根沢中学校区	北高根沢中学校・東小学校・上高根沢小学校・北小学校	


「施設併設型」

(3) 義務教育 9 年間を通した系統的・継続的な指導

現行の「6・3制」を基にしながら、小中学校の 9 年間を、児童生徒の発達段階の状況により、「基礎・定着期」（小学校第 1～4 学年）、「連携・活用期」（小学校第 5 学年～中学校第 1 学年）、「充実・発展期」（中学校第 2～3 学年）の「4・3・2」の教育区分に分け、系統的・継続的な指導を行っています。この教育区分は、小中学校教職員が指導のまとまりとして認識するもので、小学校から中学校への滑らかな接続を図るために、特に「連携・活用期」に重点を置き、小中学校の教職員が密接な連携を図り、指導方法や教育活動などを工夫しています。

④小中一貫教育の主な内容

(1) 確かな学力の向上

「学ぶ意欲を高める学習指導の充実」

課題解決型の授業づくりを推進します。また、個々のよさを認め励まし児童生徒の自ら学ぶ意欲を高めます。

※中学校定期テストに合わせて小中学校が家庭学習強調週間を実施します。

「教員一人一人の教師力向上」

小中学校の教員が連携して教師力を向上させ、「わかる授業」を目指します。

「学ぶ意欲を高める英語教育の充実」

指導方法を工夫・改善し、小中学校の円滑な接続が図れるように連携します。

「ICT 機器の効果的な活用による指導の充実」

タブレットパソコンや電子黒板などの ICT 機器を活用し、学習意欲が高まり理解が深まる授業を目指します。

(2) 豊かな心や社会性の育成

「児童・生徒指導の充実」

スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等と連携し、いじめや不登校の未然防止、早期発見・早期対応を組織的に行います。

※人権週間におけるいじめ撲滅週間の実施

「豊かな心を育む道徳教育の充実」

道徳科の授業を中心に、学校教育活動全体を通して、児童生徒にやさしさや思いやりの心、生命を大切に作る心などを育みます。

※小学校 5、6 年、中学校 1 年生で町共通の学習教材を用いた授業の実施

「望ましい人間関係づくりのための活動の実施」

異学年や小学校間、小中学校間で各種交流活動を実施して望ましい人間関係づくりを図ります。

「地域との連携による体験活動の充実」

地域社会における体験学習を通して、多くの人と関わり豊かな心を育みます。小学生の中学校行事への参加や中学生の職場体験等を通して、社会性や地域社会の一員であるという意識を育みます。

※小学 6 年生が中学校の授業や部活動、体育祭などを見学したり、中学生から話を聞いたりします。

(3) 健やかな体の育成 ※「食べて・動いて・よく寝よう」運動の推進

「教科体育の充実」

授業を中心とした体育的活動を通して、運動の苦手な児童生徒を減らし、体力・運動能力を向上させます。特に、小学校低学年における「運動遊び」の時期を充実させます。

「運動の系統性を生かした授業の充実」

指導内容の系統性に着目した指導計画のもとに授業を行います。

「保健教育の充実」

健康保持増進に必要な知識や技能を系統的・連続的に指導し、健康な生活を実践しようとする態度を育てます。

「食育の推進」

食に関する知識と望ましい食生活を身に付けさせるため、栄養教諭と連携して食に関する授業を実施します。

(4) その他の内容

「特別支援教育の充実」

特別な支援を要する児童生徒の情報交換を密にし、協力体制を整え、小中学校で継続した指導を行います。

「キャリア教育の充実」

将来について考える契機となる活動を実施し、働くこと等への意欲を高め、望ましい勤労観・職業観を育み、生き方について考えられるようにします。

⑤成果と課題

※調査は全て令和元年度のもの

(1) 成果

「確かな学力」

- ・学習内容の定着においては、全国学力・学習状況調査で、概ね全国平均と同程度または全国平均を上回る結果が多く見られています。また、質問紙において授業の内容が「よくわかる」と答える児童生徒の割合は、全国平均よりも高い傾向にあります。

「豊かな心や社会性の育成」

- ・よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケートにおいて、学校生活に満足している児童生徒の割合は、全国平均よりも高い傾向にあります。
- ・全国学力・学習状況調査の質問紙において、「先生はよいところを認めてくれていると思う」「自分にはよいところがある」と答える児童生徒の割合は、全国平均よりもやや高い傾向にあります。
- ・全町共通教材での道徳科の授業実践やいじめ撲滅週間の設定、小中学生の相互交流などを通

して豊かな心や社会性を育み、「中1ギャップ」の緩和にも一定の効果が見られ、不登校の児童生徒数の出現率は全国平均より低い傾向にあります。

「健やかな体の育成」

- ・全国体力運動能力、運動習慣等調査において、「朝食を毎日食べる」「1日の睡眠時間が6時間以上」の児童生徒の割合は、全国平均よりも高い傾向にあります。
- ・全国体力運動能力、運動習慣等調査において、全8種目中7～8割程度は全国平均以上となっています。

(2) 課題

学力調査の結果等から、学ぶ楽しさを感じて主体的に学習に取り組む態度の育成が課題となっています。課題解決のために、「わかる授業」を通して基礎・基本的な知識や技能を身に付け、自らの知識や経験をもとに問題を解決できるようにするなど、児童生徒自身に学ぶことの楽しさや成長を感じさせ、さらなる学習への意欲を高めたり自己肯定感を育んだりしていきます。

また、学校における教育の情報化の実態等に関する調査で、「ICTを活用した授業ができる」と答える教員の割合は、3～4人に1人と低い傾向にあります。研修等を通して、教員のICT活用能力の向上を図り、授業における効果的な活用を目指していきます。

(3) 高根沢町版コミュニティ・スクール「みんなの学校」について

①コミュニティ・スクールとは

コミュニティ・スクールは、学校と地域住民等が力を合わせて知恵を出し合い、地域の声を積極的に生かしながら一体となって学校の運営に取り組み、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

この制度は、平成29年4月から、学校運営協議会の設置の努力義務化やその役割の充実などを内容として「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正が施行され、取組が始まったものです。

②高根沢町版コミュニティ・スクール「みんなの学校」

高根沢町では、令和元年度から、全ての小中学校に「学校運営協議会」と「学校支援地域本部」を立ち上げ、地域とともにある学校を推進するため、高根沢町版コミュニティ・スクール「みんなの学校」を開始しました。

高根沢町版コミュニティ・スクール「みんなの学校」は、「学校運営協議会」と「学校支援地域本部」で構成され、その2つが両輪となって連携することにより、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

③「学校運営協議会」と「学校支援地域本部」

「学校運営協議会」は、保護者や地域の人などが委員となって、学校運営の基本方針の承認や教育活動等への意見、学校の評価を行います。地域の人々が当事者として学校と対等な立場で協議するため、課題解決に向けた取組を効果的に進めることができます。

「学校支援地域本部」は、ボランティア等による、学校支援をより充実させていく組織で、学習支援や環境整備など教育活動に必要な支援を行います。さらに、学校支援に携わる人たちをコーディネートする「地域コンシェルジュ」が、学校の依頼に応じて地域の人材をつなぐことで、子どもたちの教育活動の活性化を図ります。

④実施状況

令和元年度の開始初年度においては、町広報紙等で制度の周知を図るとともに、「学校運営協議会」と「学校支援地域本部」を立ち上げて実践を開始し、委員アンケート等により制度運用上の課題の把握を図りました。令和2年度以降は、アンケート結果等を踏まえ、制度や組織・委員の役割についての理解促進を図るとともに、各学校の学校課題を明確にして、委員との熟議を重ねていくこととしていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により会議を開催することがほとんどできなかったため、思うような活動ができていない状況にあります。